

286号(7・8月合併号)

あこら 原発・その恐るべき実態

写真特集：これが原発だ

原発がどんなものか知ってほしい

放射能のゴミの話

あなたの地域は安全ですか？ 狙われた東濃

東海地震の前に、浜岡原発を止めよう！

「死の灰」が赤ん坊を殺している

原発怖いよ！ 思わず世界をかけめぐる

脱原発・ドイツに学ぶ

〈お土産つきの子ども原発ツアー〉を質したら

有事法反対で「突然の逮捕」

樋口健二

平井憲夫

西尾 漢

兼松秀代

馬場利子

小田美智子

竹野内真理

奥平せい子

小川みさ子

木瀬慶子



原発・その恐るべき実態

表紙 美浜原発

撮影 樋口健二

写真特集：これが原発だ……………樋口健二 1

被曝の危険にさらされ続ける原発労働者……………樋口健二 17

原発がどんなものか知ってほしい……………平井憲夫 23

放射能のゴミの話……………西尾 漠 48

東海地震の前に、浜岡原発を止めよう……………馬場利子 64

「死の灰」が赤ん坊を殺している……………小田美智子 70

あなたの地域は安全ですか？ 狙われた東濃……………兼松秀代 78

原発怖いよ！ 思わず世界を駆けめぐることに……………竹野内真理 88

脱原発・ドイツに学ぶ……………奥平せい子 96

〈お土産つきの子ども原発ツアー〉を質したら……………小川みさ子 100

有事法成立で始まった「突然の逮捕」……………木瀬慶子 106

資料 日本の原子力発電所一覧/原発阻止地域/世界の原発ランキングほか

(資料提供・原子力資料情報室) 110

.....

■めじゃーなりすとのめ 報道部記者二十年……………内木いずみ 120

■語りかけたいあなたへ 54 押し入れの整理……………大里知子 122

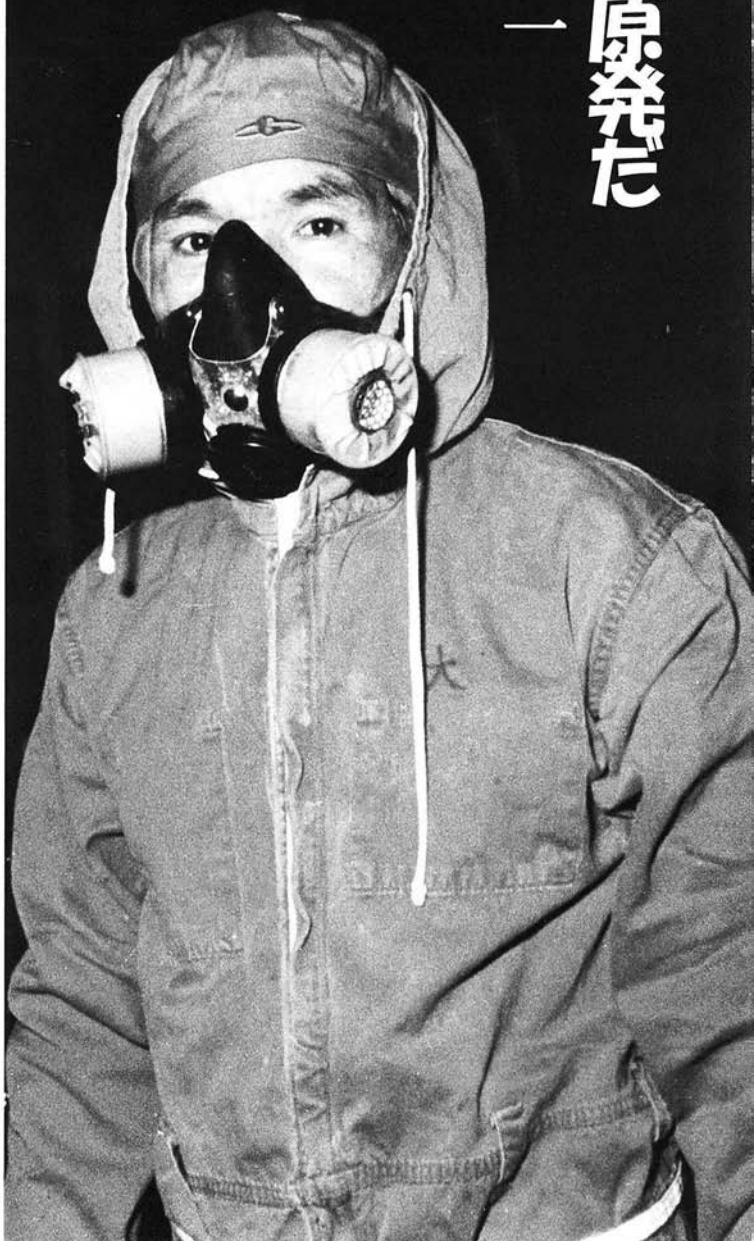
■あごら読書室 闇に消される原発被曝者/なぜ脱原発なのか？ ほか…………… 124

■TOPICS イラク特措法、大詰めへ/国会議事堂外周に監視カメラほか…………… 127

■集会から「ブッシュの戦争」を考える会/原発やめよう全国集会ほか…………… 133

■あごらのあごら 「男子のみのエリート校」は おかしい ほか…………… 137

これが原発だ 樋口健二



原発を支える末端労働者 原発は現代科学の粋と信じられている。核を電力に変える仕組みは、たしかに最先端科学の結晶だが、末端の作業現場はひたすら人海戦術。全国五二基の原発を単純労働者が被曝の危険にさらされながら支えてきた。

宇宙服にも似た重装備は、安全の象徴のように見える。しかし防護服は身を守るのではなく、「放射能を外に持ち出さないための作業着」に過ぎない。放射能の量を量るアラームメーターは内側のチョッキについている。マスクは放射性物質を吸い込まないためだが、息苦しさに加え、息で曇って前が見えなくなるため、マスクをはずして作業をする。現場は、撮影禁止区域。労働者を撮ろうとする私を制止する声に、労働者の一人が思わず振り向いた。その瞬間を撮ったスクープ。(七七年敦賀原発)

原発内部は放射能の海 原発はコンピュータで稼働していると思われる。確かにコンピュータで稼働する部分もあり、テレビや新聞では、専らその場面を報道するが、この最先端の職場にいるのは大企業の社員だけ。原発労働者の九割を占める現場労働者は、炉心部などで被曝にさらされて手作業で働く。

中でも危険なのは定期検査。写真はドライウエル（炉心部）入り口。場所によっては数分で交代しなければならないほど被曝量が多く、一日一、五〇〇人以上の下請け労働者の人海戦術が展開される。





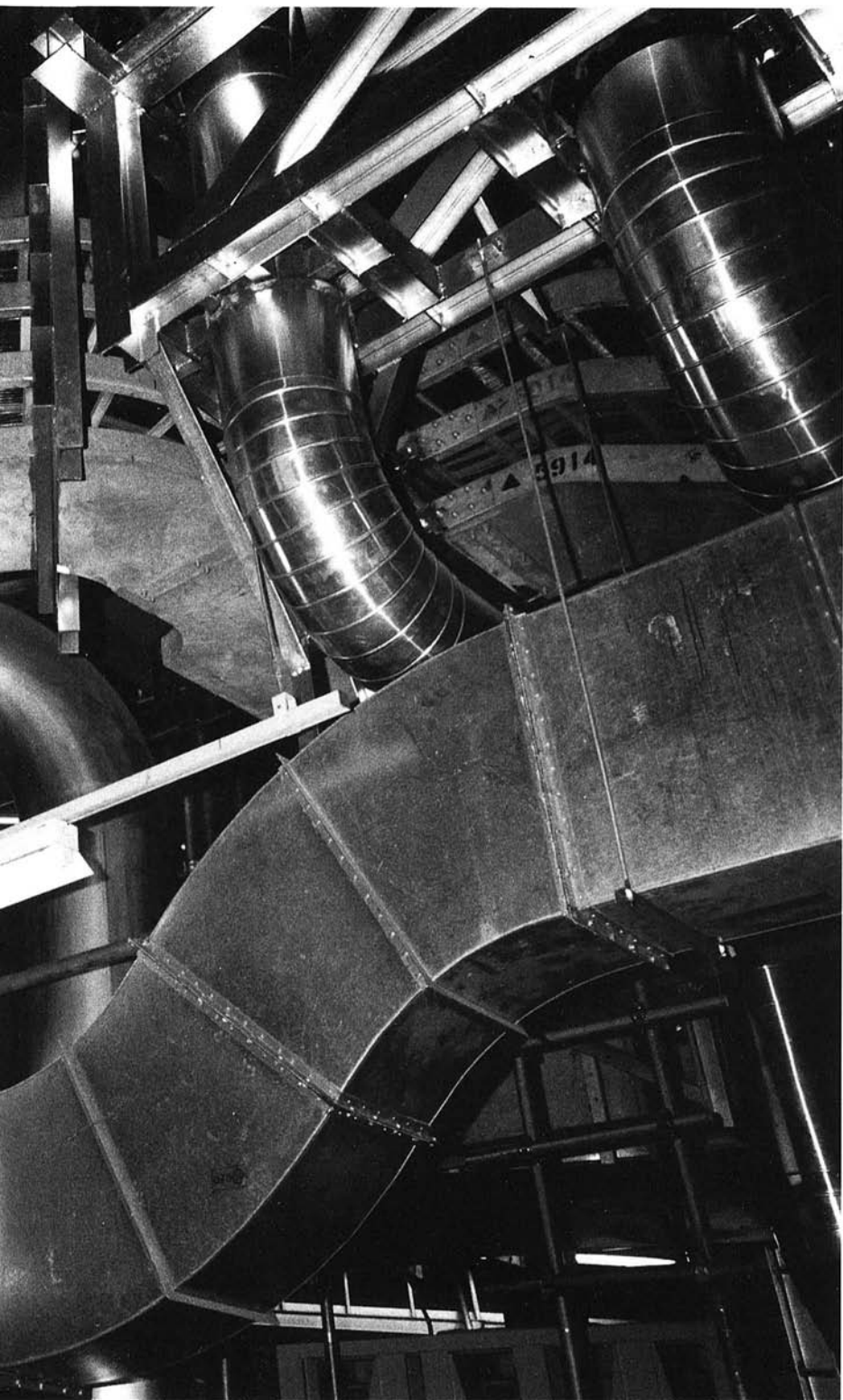
裸身になって洗淨 作業後すぐ放射能が付着した全身をシャワーで洗淨する。ひどい時はタワシを使って体中をこすることさえある。



放射能を検査 洗淨のあとハンドフットモニター（現在は体表面モニター）で放射能の有無をチェックした後、はじめて外部へ出ることを許される。



炉心部に直結するパイプの森 シュラウドのひび割れが、最近にわかに問題になったが、ひび割れやピンホールは、どこ
の原発でも日常茶飯事。(東海二号炉)





やったのは。放射能を拭きとる仕事でヨ、百姓は現金収入がほしいから原発サ行くんだ。来る日も来る日も、白いゴムガッパのような服着てヨ、まるで宇宙人のようじゃった。原子炉のどこかさっぱりわからなかったが、扇風機のでけえのが、ウオン、ウオンうなつて、熱い蒸気がパイプから吹き出してハ、まあ、すげえところだった。放射能は、下に沈んでるから、それを取り除けと言われたども、熱くてよ！ 苦しくてよ！ それこそ、面(マスク)なんかつけてちゃあ、前が曇って見えねえんだ。二〇分交替だったども、その前に音(アラームメーター)が鳴りっぱなしでよ、若けえ者に負けられねえ、メーターの音も気にせんで働いたさ。面も外したままだよ。万年筆(ポケット線量計)の読み方も、音がどんな危険な知らせだかも、さっぱりわからねえしな。今考えると馬鹿したもんだ。入退院のくり返しで、このさまだ。

(七七年六月二九日・福島県浪江町で。同年一〇月に、がんで死亡。享年六八)





漁船の墓場 日本初の東海原発を遠く望む日立市久慈浜海岸。原発誘致による漁業権放棄で海は漁船の墓場と化した。
原発大国日本の未来を象徴するような風景である。

(七八年六月)





六ヶ所村のウラン濃縮工場建設予定地

〔開かれた原子力行政〕の象徴は、電流の流れる鉄条網で囲まれ、凶悪犯の刑務所のように。（九二年四月 青森県六ヶ所村）





原発は風光明媚な過疎地に 経済的に苦しい日本海側に圧倒的に多いが、特に福井県は一五基もの原発が集中している。当然、海は汚染されているのに、原発のすぐそばの海辺は、毎年、海水浴で賑わう。

(奥に見えるのは美浜原発)





恐怖の核燃料輸送

早朝の国道をノンストップで走る核輸送車。軒下を走る「危険」に、民家は気づいているのか。

(八一年十一月、松江市内)



被曝の危険にさらされ続ける原発労働者

樋口健二

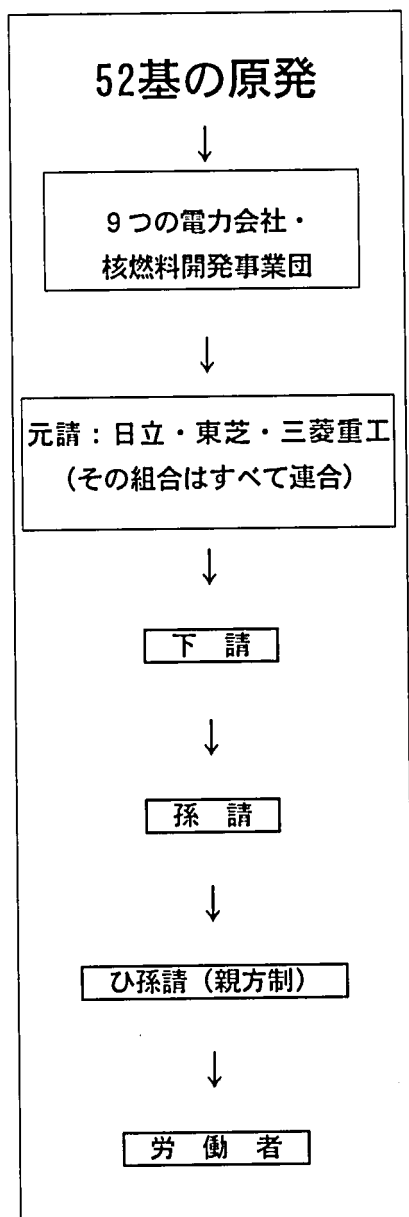
差別労働の上に成り立つ原発産業

原発は最先端のＩＴ産業、そして安全でクリーンな平和産業だと、国民の恐らく九割は信じていると思う。しかし、東海のリコ事故が示したように、現実の工場は、決して現代的なＩＴ産業ではなく、ひたすら人海戦術に頼る最も原始的な産業である。

一九六六年七月二五日、東海村の一号基に火が入ってから三七年、この間に延べ約一五〇万人（総労働者数）の原発労働者が働いてきたが、そのうち四十数万人が被曝している。その数字は、広島、長崎を超えた。しかも、この中で労災認定されたのは、わずか五例だけで、白血病その他のガンで死亡した数は不明である。国が調査していないため、正確なデータはない。本来は連合（日本労働組合総連合会）が調査すべきだが、原発推進路線をとり続けている連合は、調査しない。

理由は、原発産業は、次の図のような差別の上に成り立つからである。原発が危険な仕事であることは、政府も認めており、原発労働者一人につき一日七万円の補助金が元請けに支払われる。しかし元請けとなる大企業は、自社の社員は決して危険な労働には従事させない。ほとんどすべてを下請けに発注する。下請けは、それを孫請けに、さらに、ひ孫請けに出す。元請けが受ける七万円は、孫請けの手に

は二、三万円しか入らない。そしてほとんどの場合、孫請けやひ孫請けの労働者は時給計算で、下へ行くほど危険な作業が待っている。しかもそれは全部ノルマ仕事。放射能を浴びなければ仕事はできない。そのため健康を害しては二、三か月で辞めていく。



原発労働に根を張る大企業と暴力団

連合は、この構造を熟知したうえで、原発推進を続けている。連合の中枢を占める大手企業にとって、原発ほどオイシイ仕事はないからである。原発はコンピュータで動いている、と九〇%以上の国民は思っている。たしかにテレビや新聞が報道しているように、原発の中でコンピュータは動いている。しか

しコンピュータの前に座っているのは、電力会社のエリートであり、ここには、放射能などは全くない。反面、炉心に近づけば近づくほど、手作業になる。手作業でなければ、作業はできないのだ。

操作現場に入るのには、防護服を着用する。これは一着何万円もするので、使い捨てにはできない。大きなランドリーで洗たくするが、この洗たくをする者も、途方もない量の放射能を浴びる。

作業後、労働者は服を脱ぎ、全裸になって体を洗い、ハンドフットモニター（現在は体表面モニター）でチェックするのだが、そのモニターに近づいただけでアラームが鳴ることもある、と、私に語ってくれた人もいる。

現実に取り材をしてわかったのだが、放射能は重い物質なので、運転を始めると、イヤでも放射能が床に落ちる。目に見えないので、毎日、雑巾で拭き取る。拭いたあとは、特殊な紙でカウンターを測り、OKになるまでやり直す。この仕事は、中卒以上なら誰でもできる。

最近は一リストラされた社員が、職がないために、こうした現場に入っている。

この最も危険な仕事を仕切っているのは親方。親方には、最近では暴力団が多い。ひ孫請けでも、一人あたり二〜三万円がふところに入る。こうして暴力団は、ますます資金が豊富になっていく。

金力、権力のある者が上に立って、力のない者を収奪していく。典型的な差別が、これほど構造的に、これほど臆面もなく行われている労働の場は、ほかにはない。

ひび割れ修理は日常的な作業

シュラウドのひび割れは、最近にわかに衆目を集めるようになったが、パイプのひび割れなどは、昔

からしよつちゅう起こっている。炉心部から出ている配管やパイプは、もうすさまじい振動。ひび割れが起きないほうがおかしい。「日常的に溶接して、ひび割れを直している」という労働者に、私は数えきれないほど会った。

これらの末端の仕事は、すべて人海戦術なので、かわる人数は、一〇〇人とか二〇〇人などというレベルではない。たとえば定期検査は、以前は三、四か月かけていたが、これでは経済的に合わないということで、東電でも四五日とか六〇日であげるようになった。こうなると、たとえば東電では一〇〇万キロワット級で二、〇〇〇人、五〇万キロワットで一、五〇〇人、三〇万キロワットで一、〇〇〇人の作業員が毎日必要になる。この作業はコンピュータではできない。人海戦術、手作業でないと、点検も、補修もできない。

その労働者は、専門的知識がなくてもよい。下請けの会社に一人か二人いる放射線管理者が教えるというのが作業の構造である。電力会社の社員も、多少の被曝はするけど、被曝者の九六％以上は下請けだと思ってい。

シユラウドのひび割れは、全国各地の原発で内部告発され、東電はじめ各社の頻発する事故隠しが暴露されたのは、昨日今日のことではない。関係者の間では何十年も前から、周知の事実である。

被曝を知りつつ流入する末端労働者

このような構造なので、下請けの人たちというのは、農閑期の人とかだけではない。今は不況で、地方では、二〇代の青年たちもたくさん入っている。その人たちは、その怖さのある程度はわかっている

はずだが、すべてにお金優先する消費社会の中で原発産業に流れる。

しかし、月収は安い。前述したように、政府からは原発労働者一人につき一日七万円の補助金が出ているが、多重構造で下へ行くほどピンはねされていく。現場の作業員に渡るのは平均二万円。親方がだいたい二万円をピンはねする。でも、「いい仕事だろ、三時間で一万円だ」と言われたら行つてしまふ。暴力団がここにもぐり込んできたのは、お金になるからにほかならない。無数の労働者を必要とする最末端の労働に従事しているのは、農民、漁民、もと炭鉱労働者、被差別部落民、あるいは寄せ場からの人間である。今はリストラであぶれた労働者がいっぱいいる。こちらあたりをみんな使うわけだが、十把ひとからげ。そして、地方に行けば行くほど、不況は深刻で働くところがない。原発に行くしかない。

原発では「いつでもいらつしやい」と待つている。三〇年前に原発を始めた時には一万五千人だった。それが三〇年の間に年間七万人を超えた。この七万人が今の日本の原発五二基に入つて、いろんな仕事を手作業で支えている。

入るといふことは、被曝をするということ。これが毎日繰り返されている。それをマスコミが少しも報道しなかったということは、犯罪を犯していたことにはかならない。

マスコミはなぜ報道しなかったのか。理由は、大電力会社の広告料が欲しかったから。

たとえば東京電力の広告は、マスコミ一社あたり何百億円の収入となる。被曝の記事を書いたら広告をはずされることになるので。朝日でも毎日でも読売でも、マスコミはみんな、原発の真実の報道を手びかえた。産経にいたつては最初から「書きません」「反対意見はのせません」と言つていた。

マスコミというのはマスコミユニケーション。大衆に奉仕する仕事のはずだが、原発については大衆

に奉仕していない。大マスコミはお金を儲けることしか考えなかった。そして社員の給料をものすごく上げた。朝日も読売も……。彼らは今、途方もない給料をもらっている。

この図式のうえに、原発労働問題は闇に葬られ、人海戦術による暗黒労働の場となった。これは過去の問題ではなく、今現在も進行している。原発の報道を僕が三〇年やりつづけなければならなかったのは、無視するわけにはいかなかったからだ。

差別の上に成り立つ原発。その構造の中で一番おぞましいのは、政党を含めた、「日本原発翼賛会」だと、僕は思う。世界の各国は、すでに原発の中止を次ぎに発表した。日本政府が「夏の電力危機」などと大キャンペーンを張って、依然として原発を保持しようとするのは、政府・政党、大企業・連合・暴力団を含めた巨大組織が利権の構造を手放さないからにほかならない。この構造が変わらないかぎり、原発労働者の被曝も、そして「日本中の陸を、海を、汚染し続ける原発」の廃止は不可能であろう。

樋口健二（ひぐちけんじ）一九三七年、長野県生まれ。フリー・フォトジャーナリスト 日本写真芸術専門学校主任講師、日本ジャーナリスト専門学校写真科主任講師、日本写真家協会会員、世界核写真家ギルド会員

七四年国連主催世界環境写真コンテストに『四日市』が入賞。六六年以来、原発を追い、九五年イギリス・チャンネル4のレポーターに。二〇〇一年（ワールド・ウラニウム・ヒアリング）（本部ドイツ創設の「核のない未来賞・教育部門賞を受賞。著書『四日市』（六九年・六月社書房）、『原発』（七二年・オリジン出版センター）、『闇に消される原発被曝者』（八一年・三一書房、二〇〇三年・御茶の水書房）、『毒ガス島』（八三年・三一書房）、『原発と闘う―岩佐被曝裁判の記録』（八七年・八月書館）、『これが原発だ。カメラがとらえた被曝者』（九一年・岩波書店）、『日本破壊列島』（九二年・三一書房）、『原発Ⅱ一九七三―一九九五年』（九六年・三一書房）ほか多数。

原発がどんなものか知ってほしい

平井憲夫さんのお話

原発の現場の技術者として現実に立ち向かい、常に「現実に基づいた告発」を続けてきた平井憲夫さんは、自らも被曝してがんとなり、一九九七年一月に逝去されました。

これは「PKO法」「雑則」を広める会のメンバーが、生前の平井さんから直接にお話を聞いてまとめたものです。

原典は『アヒンサー・私、子どもを生んでも大丈夫ですか』(二〇〇〇年四月発行)です。「二人でも多くの人がひとに原発の実態を知ってほしいので、どうぞ転載してください。平井さんの証言を広めてください」という同会の好意で、転載させていただきます。

●私は原発反対運動家ではありません

私は原発反対運動家ではありません。二十年間、原子力発電所の現場で働いてきた者です。原発については、賛成だとか、危険だとか、安全だとか、いろんな論争があります。が、私は「原発とはこういうものですよ」と、ほとんどの

人が知らない原発の内部のお話をします。最後まで聞いていただくと、原発がみなさんが思っているようなものではなく、毎日、被曝者を生み、大変な差別をつくっているものでもあることが、よくわかると思います。

はじめて聞かれる話も多いと思います。どうか、最後まで聞いてください。それから、原発をどうしたらいいか、みなさんで考えられたらいいと思います。

原発について、設計の話をする人はたくさんいますが、私のように、施工、造ることについて話をする人がいないのです。しかし、現場を知らない、原発の本当のことはわかりません。

私はプラント、大きな化学製造工場などの配管が専門です。二十代の終わりに、日本に原発を造るというのでスカウトされて、原発に行きました。一作業員だったら、何十年いてもわかりませんが、現場監督として長く働きましたから、原発の中の仕事はほとんど知っています。

●「安全は」机上の話

去年（一九九五年）の一月十七日に阪神大震災が起きて、国民の中から「地震で原発が壊れたりしないか」という不安の声が高くなりました。原発は地震で本当に大丈夫かと。しかし、決して大丈夫ではありません。国や電力会社は、耐震設計を考え、固い岩盤の上に建設されているので安全だと強調していますが、これは机上の話です。

この地震の次の日、私は神戸に行ってみて、あまりにも

原発との共通点の多さに、改めて考えさせられました。まさか、新幹線の線路が落下したり、高速道路が横倒しになるとは、それまで国民のだれ一人考えてもみなかったと思います。

世間一般に、原発や新幹線、高速道路などは、官庁検査によって、きびしい検査が行われていると思われています。しかし、新幹線の橋脚部のコンクリートの中には型枠の木片が入っていたし、高速道路の支柱の鉄骨の溶接は、溶け込み不良でした。一見、溶接がされているように見えていても、溶接そのものがなされていなかったため、溶接部が全部はずれてしまっていました。

なぜ、このようなことが起きてしまったのでしょうか。その根本は、あまりにも机上の設計ばかりに重点をおいて、現場の施工、管理を怠ったためです。それが直接の原因ではなくても、このような事故が起きてしまうのです。

●素人が造る原発

原発でも、原子炉の中に針金が入っていたり、配管の中

に道具や工具を入れたまま配管をつないでしまったり、いわゆる人が間違える事故、ヒューマンエラーがあまりにも多すぎます。それは現場にプロの職人が少なく、いくら設計が立派でも、設計どおりには造られていないからです。机上の設計の議論は、最高の技量を持った職人が施工することが絶対条件です。しかし、原発を造る人がどんな技量を持った人であるのか、現場がどうなっているのかという議論は一度もされたことがありません。

原発にしろ、建設現場にしろ、作業者から検査官まで、すべて素人によつて造られているのが現実ですから、原発や新幹線、高速道路がいつ大事故を起こしても、不思議ではないのです。

日本の原発も設計は優秀で、二重、三重に多重防護されていて、どこかで故障が起きるとちゃんと止まるようになっていきます。しかし、これは設計の段階までです。施工、造る段階でおかしくなってしまうのです。

仮に、自分の家を建てる時に、立派な一級建築士に設計をしてもらつても、大工や左官の腕が悪かつたら、雨漏りがしたり、建具は合わなくなつたりしますが、残念ながら、

これが日本の原発なのです。

ひとむかし前までは、現場作業には、^{ぼんじん}棒心と呼ばれる職人、現場の若い監督以上の経験を積んだ職人が、班長として必ずいました。職人は自分の仕事にプライドを持っていて、事故や手抜きは恥だと考えていましたし、事故の恐ろしさもよく知っていました。

それが十年くらい前から、現場に職人がいなくなりました。全くの素人を、経験不問という形で募集しています。

素人の人は事故の怖さを知らない。何が不正工事やら手抜きかも、全く知らないで作業しています。それが今の原発の実状です。

例えば、東京電力の福島原発では、針金を原子炉の中に落としたまま運転していて、一歩間違えば、世界中を巻き込むような大事故になっていたところでした。本人は針金を落としたことは知っていたのに、それがどれだけの事故故につながるかという認識は全然なかったのです。そういう意味では老朽化した原発も危ないのですが、新しい原発も、「素人が造る」という意味で、危ないのは同じです。

現場に職人がなくなつてから、素人でも造れるように、

工事がマニュアル化されるようになりました。マニュアル化というのは図面を見て造るのではなく、工場である程度組み立てた物を持ってきて、現場で一番と一番、二番と二番というように、ただ積み木を積み重ねるようにして合わせていくんです。そうすると、今、自分が何をしているのか、どれほど重要なことをしているのか、全くわからないままに造っていくことになります。こういうことも、事故や故障がひんばんに起こるようになった原因のひとつです。

また、原発には放射能の被曝の問題があつて、後継者を育てることができない職場なのです。原発の作業現場は暗くて暑いし、防護マスクを付けていて、互いに話をすることもできないような所ですから、身振り手振りなんです。これではちゃんとした技術を教えることができません。それに、いわゆる腕のいい人ほど、年間の許容線量を先に使ってしまった、中に入れなくなります。だから、よけいに「素人でもいい」ということになってしまうんです。

また、例えば、溶接の職人ですと、目がやられます。三十歳すぎたらもうだめで、細かい仕事ができなくなります。そうすると、細かい仕事が多い石油プラントなどでは使い

ものになりませんから、「だったら、まあ、日当が安くて、原発の方にもいこうかなあ」ということになります。

皆さんは何か勘違いしていて、原発というのはとても技術的に高度なものだと思ひこんでいるかも知れないけれど、そんな高級なものではないのです。

ですから、「素人が造る原発」ということで、原発はこれから先、本当にどうしようもなくなってきました。

●名ばかりの検査・検査官

原発を造る職人がいなくなつても、検査をきっちりやればいいという人がいます。しかし、その検査体制が問題なのです。出来上がったものを見るのが日本の検査ですから、それではダメなのです。検査は施工の過程を見ることが重要なのです。

検査官が溶接なら溶接を、「そうではない。よく見ていなさい。このようにするんだ」と自分でやつて見せる技量がないと本当の検査にはなりません。そういう技量のない検査官にまともな検査ができるわけがないのです。メーカー

や施主の説明を聞き、書類さえ整っていれば合格とする、これが今の官庁検査の実態です。

原発の事故があまりにもひんぱんに起き出したところに、運転管理専門官を各原発に置くことが閣議で決まりました。原発の新設や、定検（定期検査）のあとの運転の許可を出す役人です。私もその役人が素人だとは知っていました、ここまでひどいとは知らなかったのです。

というのは、水戸で講演をしていた時、会場から「実は恥ずかしいんですが、まるつきり素人です」と、科学技術庁の者だとはつきり名乗って、発言した人がいました。その人は「自分たちの職場の職員は、被曝するから絶対に現場に出さなかった。折から行政改革で農水省の役人が余っているというので、昨日まで養蚕の指導をしていた人やハマチ養殖の指導をしていた人を、次の日には専門検査官として赴任させた。そういう何にも知らない人が原発の専門検査官として運転許可を出した。美浜原発にいた専門官は、三か月前までは、お米の検査をしていた人だった」と、その人たちの実名を挙げて話してくれました。このように全くの素人が出す原発の運転許可を信用できませんか。

東京電力の福島原発で、緊急炉心冷却装置（ECCS）が作動した大事故が起きたとき、読売新聞が「現地専門官は力ヤの外」と報道していましたが、その人は、自分の担当している原発で大事故が起きたことを、次の日の新聞で知ったのです。なぜ、専門官が何も知らなかったのか。それは、電力会社の人は専門官が全くの素人であることを知っていますから、火事場のような騒ぎの中で、子どもに教えるように、いちいち説明する時間がなかったのです、その人を現場にも入れないで放っておいたのです。だから何も知らなかったのです。

そんないい加減な人の下に原子力検査協会の人があります。この人がどんな人かというところ、この協会は通産省を定年退職した人の天下り先ですから、全然畑違いの人です。この人が原発の工事のあらゆる検査の権限を持っていて、この人のOKが出ないと仕事が進まないのですが、検査のことは何も知りません。ですから、検査と言っても、ただ見に行くだけです。けれども大変な権限を持っています。この協会の下に電力会社があり、その下に、原子炉メーカーの日立・東芝・三菱の三社があります。私は日立にいました

が、このメーカーの下に工事会社があるんです。つまり、メーカーから上も素人、その下の工事会社もほとんど素人ということになります。だから、原発の事故のことも電力会社ではなく、メーカーでないと、詳しいことはわからないのです。

私は現役のところも、辞めてからも、ずっと言ってきました。「通産省は原発を推進しているところですから、そういう所と全く関係のない機関、天下りや特殊法人ではない、本当の第三者的な機関をつくって、その機関が検査をする。そして、検査官は配管のことなど経験を積んだ人、現場のたたき上げの職人が検査と指導を行えば、溶接の不具合や手抜き工事も見抜けるから」と、一所懸命に言ってきましたが、いまだに何も変わっていません。このように、日本の原発行政は、あまりにも無責任でお粗末なものなのです。

● いい加減な原発の耐震設計

阪神大震災後に、慌しく日本中の原発の耐震設計を見直して、その結果を九月に発表しましたが、その反響は、「ど

の原発も、どんな地震が起きても大丈夫」という、あきれたものでした。私が関わった限り、初めのころの原発では、地震のことなど真面目に考えていなかったのです。それを新しいのも古いのも一緒くたにして、「大丈夫だ」なんて、とんでもないことです。

一九九三年に、女川^{おながわ}原発の一号機が震度4くらいの地震で出力が急上昇して、自動停止したことがありますが、この事故は大変な事故でした。なぜ大変だったかというと、この原発では、八四年に震度5で止まるような工事をしていのですが、それが震度5ではないのに止まったんです。わかりやすく言うと、高速道路を運転中、ブレーキを踏まないのに、突然急ブレーキがかかって止まったと同じことなんです。これは、東北電力が言うように、止まったからよかった、というような簡単なことではありません。「5で止まるように設計されているものが4で止まった」ということは、5では止まらない可能性もある」ということなんです。つまり、いろんなことが設計どおりにいかないということの現れなんです。

こういう地震で異常な止まり方をした原発は、一九八七

年に福島原発でも起きていますが、同じ型の原発が全国でもあります。これは地震と原発のことを考えると、非常に恐ろしいことではないでしょうか。

●定期検査工事も素人が

原発は一年くらい運転すると、必ず止めて検査をするところになっており、定期検査、「定検」といっています。原子炉には、七〇気圧とか、一五〇気圧とかいう、ものすごい圧力がかけられていて、配管の中には水が——水といっても三〇〇℃もある熱湯ですが——水や水蒸気がすごい勢いで通っていますから、配管の厚さが半分くらいに薄くなってしまう所もあるのです。そういう配管とかバルブとかを、定検でどうしても取り替えずにはならないのですが、この作業に必ず被曝が伴うわけです。

原発は一回動かすと、中は、放射能・放射線であつぱいになります。その中で人間が放射線を浴びながら働いているのです。そういう現場へ行くのには、自分の服を全部脱いで、防護服に着替えて入ります。

防護服というと、放射線から身体を守る服のように聞えますが、そうではないんですよ。放射線の量を計るアラームメーターは防護服の中のチョッキに付けているんですから。つまり、防護服は「放射能を外に持ち出さないための単なる作業着」です。「作業している人を放射能から守るものではない」のです。だから、作業が終わって外に出るときには、パンツ一枚になって、被曝していないかどうか検査をするんです。身体の表面に放射能がついている、いわゆる外部被曝ですと、シャワーで洗うと大体流せますから、放射能がゼロになるまで徹底的に洗ってから、やっと出られます。

また、安全靴といって、備え付けの靴に履き替えますが、この靴もサイズが自分の足にきちつと合うものはありませんから、大事な働く足元がちゃんと定まりません。それに放射能を吸わないように全面マスクを付けたりします。そういううかつこうで現場に入り、放射能の心配をしながら働くわけですから、実際、原発の中では、いい仕事は絶対できません。普通の職場とはまったく違うのです。

そういう仕事をする人の九五%以上がまるっきりの素人

です。お百姓や漁師の人が自分の仕事が暇な冬場などにやります。言葉は悪いのですが、いわゆる出稼ぎの人です。そういう経験のない人が、怖さを全く知らないで作業をするわけです。

例えばボルトをネジで締める作業をするとき、「対角線に締めなさい、締めないと洩れるよ」と教えますが、作業する現場は放射線管理区域ですから、放射能がいっぱいあって、最悪な所です。作業現場に入るときはアラームメーターをつけて入りますが、現場は場所によつて放射線の量が違いますから、作業のできる時間が違います。分刻みです。

現場に入る前に、その日の作業と時間が指示されますが、時間というのは、その日に浴びてよい放射能の量で時間が決まります。現場が二〇分間作業できる所だとすると、二〇分経つとアラームメーターが鳴るようにしてあり、「アラームメーターが鳴ったら現場から出なさいよ」と指示されます。でも現場には時計がありません。時計を持って入ると、時計が放射能で汚染されますから腹時計です。そうやって、現場に行きます。

そこでは、ボルトをネジで締めながら、もう一〇分は過ぎ

たかな、十五分は過ぎたかなと、頭はそっちのほうにばかりいきます。アラームメーターが鳴るのが怖いですから。

アラームメーターというのはピーツととんでもない音がしますので、初めての人はその音が鳴ると、顔から血の引くくらい怖いものです。これは経験した者でないとわかりません。ピーツと鳴る時は、レントゲンなら何十枚もいっぺんに撮ったくらいの放射能の量に当たります。ですから、「ネジを対角線に締めなさい」と言われても、言われたとおりにできなくて、ただ締めればいい、と、どうしてもいい加減になってしまうのです。

すると、どうなりますか。

●海も放射能たれ流し

冬に定検工事をすることが多いのですが、定検が終わると、海に放射能を含んだ水が何十トンも流れてしまうのです。はつきり言つて、今、日本列島で獲れる魚で、安心して食べられる魚はほとんどありません。日本中の海が放射能で汚染されてしまっているのです。

海に放射能で汚れた水を垂れ流すのは、定検の時だけではありません。原発はすごい熱を出すので、日本では海水で冷やして、その水を海に捨てていますが、これが放射能を含んだ温排水で、一分間に何十トンにもなります。

原発の事故があつても、県などがあわてて安全宣言を出しますし、電力会社はそれ以上に隠そうとします。それに、国民もほとんど無関心ですから、日本の海は汚れっぱなしです。

防護服には放射能がいつばいついていきますから、それを最初は水洗いして、全部海に流しています。排水口で放射線の量を計ると、すごい量です。こういう所で魚の養殖をしています。安全な食べ物を求めている人たちは、こういうことも知って、原発にもつと関心をもつてほしいものです。このままでは、放射能に汚染されていないものを選べなくなると思いますよ。

数年前の石川県の志賀原発の差し止め裁判の報告会で、行商をしている八十歳近いおばあさんが、こんな話をしました。「私は今まで原発のことを知らなかった。今日、昆布とわかめをお得意さんに持っていったら、その若奥さん

に『悪いけどもう買えないよ、今日で終わりね、志賀原発が運転に入ったから』って言われた。原発のことは何もわからないけど、初めて実感として原発のことがわかった。どうしたらいいのか」って途方にくれていました。皆さんの知らないところで、日本の海が放射能で汚染され続けているのです。

●内部被曝が一番怖い

原発の建屋の中は、全部の物が放射能に変わってきます。物がすべて放射能になって、放射線を出すようになるのです。どんなに厚い鉄でも放射線が突き抜けるからです。体の外から浴びる外部被曝も怖いですが、一番怖いのは内部被曝です。

ホコリ、どこにでもあるチリとかホコリ。原発の中ではこのホコリが放射線をあびて放射能となって飛んでいます。原発を見学した人ならわかると思いますが、一般の人が見学できるところは、とてもきれいにできてあって、職員も「きれいでしょ」と自慢そうに言っていますが、それは

当たり前なのです。きれいにしておかないと放射能のホコリが飛んで危険ですから。この放射能をおびたホコリが口や鼻から入ると、内部被曝になります。原発の作業では片付けや掃除で一番内部被曝をしますが、内部被曝というのは、体の中から放射線を浴びることです。体の中から直接放射線を浴びるわけですから、内部被曝のほうが外部被曝よりもずっと危険なのです。

体の中に入った放射能は、通常は、三日くらいで汗や小便と一緒に出てしましますが、三日なら三日、放射能を体の中に置いたままになります。また、体から出るといつても、人間が勝手に決めた基準ですから、決してゼロにはなりません。これが非常に怖いのです。どんなに微量でも、体の中に蓄積されていきますから。

私はその内部被曝を百回以上もして、がんになってしまいました。がんの宣告を受けたとき、本当に死ぬのが怖くてどうしようかと考えました。でも、私の母がいつも言っていたのですが、「死ぬより大きいことはないよ」と。じゃ死ぬ前に何かやろうと。原発のことで、私が知っていることをすべて明るみに出そうと思ったのです。

●普通の職場環境とはまったく違う

放射能というのは蓄積します。いくら微量でも十年なら十年分が蓄積します。これが怖いのです。日本の放射線管理というのは、「年間五〇ミリシーベルトを守ればいい、それを越えなければいい」という姿勢です。

例えば、定検工事ですと三か月くらいかかりますから、それで割ると一日分が出ます。でも、放射線量が高いところだと、一日に五分から七分間しか作業ができないところもあります。しかし、それでは全く仕事になりませんから、三日分とか一週間分をいつべんに浴びせながら、作業をさせるのです。これは絶対にやってはいけない方法ですが、そうやって十分間なり二十十分間なりの作業ができるのです。そんなことをすると白血病とかがんになると知ってくれていると、まだいいのですが……。電力会社はこういうことをいつさい教えません。

稼働中の原発で、機械に付いている大きなネジが一本緩んだことがありました。動いている原発は放射能の量も

のすこいですから、その一本のネジを締めるのに働く人三〇人を用意しました。一列に並んで、ヨードンで七メートルくらい先にあるネジまで走って行きます。行つて、一、二、三と数えるくらいで、もうアラームメーターがピーと鳴る。中には走つて行つて、ネジを締めるスパナはどこにあるんだ？と言つたら、もう終わりの人もいる。ネジを、たった一山、二山、三山締めるだけで一六〇人分、金額で四〇〇万円くらいかかりました。

なぜ、原発を止めて修理しないのかと、疑問に思われるかも知れませんが、原発を一日止めると、何億円もの損になりますから、電力会社はできるだけ止めないのです。

放射能というのは非常に危険なものです、企業は、「人の命よりもお金」なのです。

●「絶対安全」だと五時間かけて洗脳教育

原発など、放射能のある職場で働く人を放射線従事者といっています。日本の放射線従事者は今までに約二七万人ですが、そのほとんどが原発作業員です。今も九万人くらいの人

人が原発で働いています。その人たちが年一回行われる原発の定検工事などを、毎日、毎日、被曝しながら支えているのです。

原発で初めて働く作業員に対し、放射線管理教育を約五時間かけて行います。この教育の最大の目的は、不安の解消のためです。原発が危険だとは、いっさい教えません。

「国の被曝線量で管理しているので、絶対大丈夫だから安心して働きなさい。世間で原発反対の人たちが、放射能でがんや白血病に冒されると言っているが、あれは（真つ赤な大ウソ）である。国が決めたことを守っていれば絶対に大丈夫だ」と、五時間かけて洗脳します。

こういう「原発安全」の洗脳を、電力会社は地域の人にも行なっています。有名人を呼んで講演会を開いたり、文化サークルで料理教室をしたり、カラー印刷の立派なチラシを新聞折り込みしたりして。だから、事故があつて、ちよつとした不安に陥つたとしても、そういう安全宣言にすぐ洗脳されてしまつて、「原発がなくなったら、電気がなくなつて困る」と思い込むようになるのです。

私自身が二〇年近く、現場の責任者として、働く人にお

ウムの麻原以上のマインド・コントロール、「洗脳教育」をやってきました。何人殺したかわかりません。皆さんから「現場で働く人は不安に思っていないのか」とよく聞かれますが、放射能の危険性や被曝のことはいっさい知らされていませんから、不安だとは大半の人は思っています。体の具合が悪くなっても、それが原発のせいだとは全然考えもしないのです。作業者全員が毎日被曝をする。それをいかに本人や外部に知られないように処理するかが責任者の仕事です。本人や外部に被曝の問題が漏れるようでは、現場責任者は失格なのです。これが原発の現場です。

私はこのような仕事を長くやっていて、毎日がいたたまれない日も多く、夜は酒の力を借り、酒量が目ごとに増していきました。いったい何のために、だれのために、このようなウソの毎日を過ごさねばならないのかと。

気がついたら、二〇年の原発労働で、私の体も被曝でぼろぼろになっていました。

●だれが助けるのか

東京電力の福島原発で現場作業員がグラインダーで額を切って、大怪我をしたことがありました。血が吹き出ていて一刻を争う大怪我でしたから、直ぐに救急車を呼んで運び出しました。ところが、その怪我人は、放射能まみれだったので。でも、電力会社もあわてていたので、防護服を脱がせたり、体を洗ったりする除洗をしなかった。救急隊員にも放射能汚染の知識が全くなかったので、その怪我人は放射能の除洗をしないままに、病院に運ばれてしまったんです。だから、その怪我人を触った救急隊員が汚染される、救急車も汚染される、医者も、看護婦さんも、その看護婦さんが触った他の患者さんも、汚染される。その患者さんが外へ出て、また汚染が広がるというふうに、町中がパニックになるほどの大変な事態になってしまいました。みんなが、大怪我をして出血のひどい人をなんとか助けたいと思って必死でしたし、放射能は全く見えませんから、その人が放射能で汚染されていることなんか、だれも気がつかなかったのですよ。

一人でもこんなに大変なのです。それが仮に大事故が起きて大勢の住民が放射能で汚染された時、いったいどうな

るのでしょうか。想像できますか。ひとことではないのです。この国の人、みんなの問題です。

●びつくりした美浜原発細管破断！

皆さんが知らないのか、無関心なのか、日本の原発はびつくりするような大事故をたびたび起こしています。スリーマイル島とかチェルノブイリに匹敵する大事故です。一九八九年に、東京電力の福島第二原発で再循環ポンプがバラバラになった大事故も、世界で初めての事故でした。

そして、九一年二月に関西電力の美浜原発で細管が破断した事故は、放射能を直接に大気中や海へ大量に放出した大事故でした。

チェルノブイリの事故の時には、私はあまり驚かなかったんですよ。原発を造っていて、そういう事故が必ず起こるとわかっていましたから。だから、ああ、たまたま、チェルノブイリで起きたと、たまたま日本ではなかった、と思っただけです。しかし、美浜の事故の時はおびつくりして、足がガクガクふるえて椅子から立ち上がれないほどでした。

この事故はECCS（緊急炉心冷却装置）を手動で動かして原発を止めたという意味で、重大な事故だったんです。ECCSというのは、原発の安全を守るための最後の砦に当たります。これが効かなかったら終わりです。だから、ECCSを動かした美浜の事故というのは、一億数千万人の人を乗せたバスが高速道路を一〇〇キロのスピードで走っているのに、ブレーキもきかない、サイドブレーキもきかない、崖にぶつけてやっとなめたというような大事故でした。しかも原子炉の中の放射能を含んだ水が海へ流れ出て、炉が空焚きになる寸前だったのです。

日本が誇る多重防護の安全弁が次つぎと効かなくて、あと〇・七秒でチェルノブイリになるところでした。自動停止するはずが停止しなかった。その日は土曜日だったので、たまたまベテランの職員が来ていて、その人がとっさの判断で手動で止めたので、世界を巻き込むような大事故に至らなかったのです。日本中の人が、いや世界中の人が本当に運がよかったのですよ。

この事故は、二センチくらいの細い配管についている、触れ止め金具（何千本もある細管が、振動で触れ合わない

ようにしてある金具」が設計どおりに入っていなかったのが原因でした。施工ミスです。これが二〇年近い何回もの定検でも見つからなかったんですから、定検のいい加減さがばれた事故でもありました。入らなければ切って捨てる、合わなければ引く張るという、設計者がまさかと思うようなことが、現場では当たり前に行われているということがわかった事故でもあったのです。

●寄せ集めのメーカーが生んだもんじゅの重大事故

去年（九五）の十二月八日に、福井県の敦賀にある動燃（動力炉・核燃料開発事業団）のもんじゅで、ナトリウム漏れの重大事故が起きました。もんじゅの事故はこれが初めてではなく、それまでもたびたび事故を起こしていて、私は、建設中に六回も呼ばれて行きました。というのは、所長とか監督とか職人とか、元の部下だった人たちが、もんじゅの担当もしていたので、何か困ったことがあると私を呼ぶんですね。もう会社を辞めていましたが、原発だけは事故が起きたら取り返しがつきませんから、放つては置

けないので行くのです。

ある時、電話がかかって、「配管がどうしても合わないから来てくれ」という。行ってみますと、特別に作った配管も既製品の配管も、すべて図面どおり、寸法どおりになっている。でも、合わない。

どうして合わないのか、いろいろ考えましたが、なかなかわからなかった。一晩考えてようやくわかりました。もんじゅは、日立、東芝、三菱、富士電機などの寄せ集めのメーカーで造ったもので、それぞれの会社の設計基準が違っていたのです。

図面を引くときに、私がいた日立は〇・五ミリ切り捨て、東芝と三菱は〇・五ミリ切り上げ、日本原研は〇・五ミリ切り下げなんです。たった〇・五ミリですが、百か所も集まると大変な違いになるのです。だから、数字も線も合っているのに合わないのです。

これではダメだということで、みんな作り直させました。何しろ国の威信がかかっていますから、お金は掛けるんです。

どうしてそういうことになるかというと、それぞれのノ

ウ・ハウ、企業秘密ということがあって、全体で話し合いをして、この〇・五ミリについて、切り上げるか、切り下げるか、どちらかに統一しようというような話し合いをしていなかったのです。今回のもんじゅの事故の原因となった温度センサーにしても、メーカー同士での話し合いもされていなかったのではないのでしょうか。

どんなプラントの配管にも、あのような温度計が付いていますが、私はあんなに長いのは見たことがありません。おそらく施工した時に危ないとわかっていた人がいたはずなんです。でも、よその会社のことだからほっとけばいい、自分の会社の責任ではないと。

動燃自体が電力会社からの出向でできた寄せ集めですが、メーカーも寄せ集めなのです。これでは事故は起こるべくして起こる。事故が起きないほうが不思議なんで、起こって当たり前なんです。

しかし、こんな重大事故でも、国は「事故」と言いません。美浜原発の重大事故の時と同じように「事象があった」と言っていました。

私は事故の後、すぐに福井県の議会から呼ばれて行きま

した。あそこには十五基も原発がありますが、誘致したのは自民党の議員さんなんです。だから、私はそういう人にもいつか、「事故が起きたらあなたの方のせいだよ。反対していた人には責任はないよ」と言ってきました。この度、その議員さんたちに呼ばれたのです。「今回は腹を据えて動燃とケンカする、どうしたらよいか教えてほしい」と相談を受けたのです。

それで私がまず最初に言ったことは、「これは事故なんです、事故。《事象》というような言葉にこまかされちゃあだめだよ」と言いました。県議会で動燃が「今回の事象は……」と説明を始めたなら、「事故だろ！ 事故！」と議員が叫んでいたのが、テレビで映っていましたが、あれも黙っていたら、軽い《事象》ということにされていたんです。地元の人たちだけではなく、私たちも、向こうの言う《事象》というような軽い言葉にこまかされてはいけません。

普通の人にとって、《事故》というのと《事象》というのでは、とらえ方がまったく違います。この国が《事故》を《事象》と言い換えるような姑息なことをしているので、日本人には原発の危機感がほとんどないのです。

●日本のプルトニウムがフランスの核兵器に

もんじゅに使われているプルトニウムは、日本がフランスに再処理を依頼して抽出したものです。再処理というのは、原発で燃やしてしまったウラン燃料の中にできたプルトニウムを取り出すことですが、プルトニウムはそういうふうに人工的にしか作れないものです。

そのプルトニウムがもんじゅには約一・四トンも使われています。長崎の原爆は約八キロだったそうですが、いたい、もんじゅのプルトニウムでどのくらいの原爆ができますか。それに、どんなに微量でも肺がんを起こす猛毒物質です。半減期が二万四千年もあるので、永久に放射線を出し続けます。だから、その名前がプルトー、地獄の王という名前からつけられたように、プルトニウムは、「この世で一番危険なもの」と言われるわけです。

しかし、日本のプルトニウムが去年（九五）南太平洋でフランスが行なった核実験に使われた可能性が大きいことを知っている人は、あまりいません。フランスの再処理工場では、プルトニウムを作るのに核兵器用も原発用も、

区別がないのです。だから、日本のプルトニウムが、この時の核実験に使われてしまったことは、ほとんど間違いありません。

日本がこの核実験に反対をきつちり言えなかったのには、そういう理由があるからです。もし、日本政府が本気でフランスの核実験を止めさせたかったら、簡単だったのです。つまり再処理の契約を止めればよかったんです。でも、それをしなかった。

日本とフランスの貿易額で二番目に多いのは、この再処理のお金なんです。国民はそんなことも知らないで、いくら「核実験に反対、反対」といっても仕方がないんじゃないでしょうか。それに、唯一の被爆国といいながら、日本のプルトニウムがタヒチの人びとを被曝させ、きれいな海を放射能で汚してしまったに違いありません。

世界中があきらめたのに、日本は、まだこんなもので電気を作ろうとしているんです。普通の原発で、ウランとプルトニウムを混ぜた燃料（MOX燃料）を燃やす、いわゆるプルスーマルをやるうとしています。しかし、これは非常に危険です。わかりやすいと、石油ストーブでガソ

リンを燃やすようなことです。原発のもともとの設計がプルトニウムを燃やすようにはなっていない。プルトニウムは核分裂の力がウランとはケタ違いに大きいんです。だから原爆の材料にしているわけですから。

いくら資源がない国だからといっても、あまりにひどすぎるんじゃないでしょうか。早く原発を止め、プルトニウムを使うなんてことも止めなければ、あちこちで被曝者が増えていくばかりです。

●日本は途中でやめる勇気がない

世界では原発の時代は終わりです。原発の先進国のアメリカでは、九六年二月に「二〇一五年までに原発を半分にする」と発表しました。それに、プルトニウムの研究も、大統領命令で止めています。あんなに怖いもの、研究さえ止めました。

もんじゅのようにプルトニウムを使う高速増殖炉は、アメリカはもちろん、イギリスもドイツも止めました。ドイツは出来上がったのを止めて、リゾートパークにしてしま

いました。世界の国がプルトニウムで発電するのは不可能だとわかって止めたんです。日本政府も今度のもんじゅの事故で「失敗した」と思っているでしょう。でも、まだ止めない。これからもやると言っています。

どうして日本が止めないかというと、日本は、「いったん決めたことを途中で止める勇気がない」からで、これは非常に怖いことです。みなさんもそんな例は山ほどご存じでしょう。

とにかく日本の原子力政策はいい加減なのです。日本は原発を始める時から、後のことは何も考えていなかった。そのうちに何とかなるだろうと。そんないい加減なことやってきたんです。そうやって何十年もたった。でも、廃棄物一つのことさえ、どうにもできないんです。

もう一つ、大変なことは、今までは大学に原子力工学があつて、それなりに学生がいましたが、今は若い人たちが原子力から離れてしまい、東大をはじめほとんどの大学からなくなってしまったことです。机の上で研究する大学生さえいなくなつたのです。また、日立と東芝にある原子力部門の人も三分の一に減つて、コ・ジェネレーション（電

気とお湯を同時に作る効率のよい発電設備」のガス・タービンの方へ行きました。メーカーでさえ、原子力はもう終わりだと思っているのです。

原子力局長をやっていた島村武久さんという人が退官して、『原子力談義』という本で、「日本政府がやっているのは、ただのつじつま合わせに過ぎない。電気が足りないのも何でもない。あまりに無計画にウランとかプルトニウムを持ちすぎてしまったことが原因です。はつきりノーと言わないから持たされてしまったのです。そして日本はそれらで核兵器を作るんじゃないかと世界の国々から見られる。その疑惑を否定するために核の平和利用、つまり、原発をもっともつと造ろうということになるのです」と書いていますが、これも、この国の姿なんです。

●廃炉も解体もできない原発

一九六六年に、日本で初めてイギリスから輸入した十六万キロワットの営業用原子炉が茨城県の東海村で稼働しました。その後はアメリカから輸入した原発で、途中で自前

で造るようになりましたが、今では、この狭い日本に一三五万キロワットというような巨大な原発を含めて五一の原発が運転されています。

具体的な廃炉・解体や廃棄物のことなど考えないままに動かし始めた原発ですが、厚い鉄でできた原子炉も大量の放射線をあびるとポロポロになるんです。だから、最初、耐用年数は十年だと言つて、十年で廃炉、解体する予定でした。しかし八一年に、十年たった東京電力の福島原発の一号機で、当初考えていたような廃炉・解体が全然できないことがわかりました。このことは国会でも「原子炉は核反応に耐えられない」と、問題になりました。

この時、私も加わつて、この原子炉の廃炉、解体についてどうするか、毎日のように、ああでもない、こうでもない、と検討をしたのですが、放射能だらけの原発を無理やりに廃炉、解体しようとしても、造るとき何倍ものお金がかかることや、どうしても大量の被曝が避けられないことなど、どうしようもないことがわかったのです。原子炉のすぐ下のほうでは、決められた線量を守ろうとすると、たった十数秒くらいしかいられないんですから。

机の上では何でもできますが、実際には人の手でやらなければならぬのですから、とんでもない被曝を伴うわけです。ですから、放射能がゼロにならないと、何にもできないのです。放射能がある限り、廃炉、解体は不可能なのです。人間にできなければロボットで、という人もいます。でも、研究はしていますが、ロボットが放射能で狂ってしまつて使えないのです。

結局、福島原発では、廃炉にすることができないというので、原発を売り込んだアメリカのメーカーが自分の国から作業者を送り込み、日本ではとうてい考えられないほどの被曝をさせて、原子炉の修理をしたのです。今でもその原発は動いています。

最初に耐用年数が十年といわれていた原発が、もう三十年近く動いています。そんな原発が十一もある。くたびれてヨタヨタになつても動かし続けていて、私は心配でたまりません。

また、神奈川県川崎にある武蔵工大の原子炉は、たった百キロワットの研究炉ですが、これも放射能漏れを起こして止まっています。机上の計算では、修理に二十億円、

廃炉するには六十億円もかかるそうですが、大学の年間予算に相当するお金をかけても廃炉にはできないのです。まず停止して放射能がなくなるまで管理するしかないのです。

それが百万キロワットというような大きな原発ですと、本当にどうしようもありません。

●「閉鎖」して、監視、管理

なぜ、原発は廃炉や解体ができないのでしょうか。

それは、原発は水と蒸気で運転されているものなので、運転を止めてそのままに放置しておく、すぐサビが来てボロボロになつて、穴が開いて放射能が漏れてくるからです。

原発は核燃料を入れて一回でも運転すると、放射能だらけになつて、止めたままにしておくことも、廃炉、解体することもできないものになつてしまうのです。

先進各国で、閉鎖した原発は数多くあります。廃炉も解体もできないので、みんな「閉鎖」なんです。閉鎖とは発

電を止めて、核燃料を取り出しておくことですが、ここからが大変です。

放射能まみれになってしまった原発は、発電している時と同じように、水を入れて動かし続けなければなりません。水の圧力で配管が薄くなったり、部品の具合が悪くなったりしますから、定検もして、そういう所の補修をし、放射能が外に漏れださないようにしなければなりません。放射能がなくなるまで、発電しているときと同じように監視し、管理し続けなければならないのです。

今、運転中が五一、建設中が三、全部で五四の原発が日本列島を取り巻いています。これ以上運転を続けると、あまりにも危険な原発もいくつかあります。このほかに大学や会社の研究用の原子炉もありますから、日本には今、小さいのは一〇〇ワット、大きいのは一三五万キロワット、大小合わせて七六もの原子炉があることになります。

しかし、日本の電力会社が、電気を作らない、金儲けにならない閉鎖した原発を、本気で監視し続けるか、たいへん疑問です。それなのに、さらに、新規立地や増設を行おうとしています。その中には、東海地震のことで心配な浜

岡に五基目の増設をしようとしていたり、福島ではサッカー場と引替えにした増設もあります。新設では新潟の巻町や三重の芦浜、山口の上関、石川の珠洲、青森の大間や東通などいくつもあります。それで、二〇一〇年には七〇、八〇基にしよう。言葉は悪いですが、この国は狂っていると思います。

これから先、必ずやってくる原発の閉鎖、これは本当に大変深刻な問題です。近い将来、閉鎖された原発が日本国中いたるところに出現する。これは不安というより、不気味です。ソーツとするのは、私だけでしょうか。

●どうしようもない放射性廃棄物

それから、原発を運転すると毎日必ず出る核のゴミ。低レベル放射性廃棄物は、名前は低レベルですが、なかには、このドラム缶のそばに五時間もいたら、致死量の被曝をするようなものもあります。そんなものが全国の原発で約八〇万本以上溜まっています。

日本が原発を始めてから一九六九年までは、どこの原発

でも核のゴミはドラム缶に詰めて、近くの海に捨てていました。そのころはそれが当たり前だったのです。私が茨城県東海原発にいた時、業者はドラム缶をトラックで運んでから、船に乗せて、千葉の沖に捨てに行っていました。

しかし、私が原発はちょっとおかしいぞと思ったのは、このことからでした。海に捨てたドラム缶は一年も経つと腐ってしまうのに、中の放射性のゴミはどうなるのだろうか、魚はどうなるのだろうかと思つたのがはじめてでした。

現在は原発のゴミは、青森県の六ヶ所村へ持つて行つていきます。全部で三百万本のドラム缶をこれから三百年間管理すると言つていますが、いったい三百年ももつドラム缶があるのか、廃棄物業者が三百年間もつづくのか、どうなりますか。もうひとつの高レベル廃棄物、これは使用済み核燃料を再処理してプルトニウムを取り出した後に残つた放射性物質で、日本は、イギリスとフランスの会社に再処理を頼んでいます。

去年（九五五年）フランスから、二八本の高レベル廃棄物として返ってきました。これはどろどろの高レベル廃棄物をガラスと一緒に固めて、金属容器に入れたものです。こ

の容器のそばに二分間いると死んでしまうほどの放射線を出すそうですが、これを一時的に青森県の六ヶ所村に置いて、三十年から五十年間くらい冷やし続け、その後、どこか他の場所に持つて行つて、地中深く埋める予定だといつています。予定地は全く決まっています。

他の国でも、計画だけはあつても、実際にこの高レベル廃棄物を処分した国はありません。みんな困っています。

原発自体についても、国は、「止めてから五年か十年間、密閉管理してから、粉ごなにくだいてドラム缶に入れて、原発の敷地内に埋めるなどと、のんきなことを言っています、それでも一基で数万トンくらいの放射能まみれの廃材が出るんですよ。生活のゴミでさえ、捨てる所がないのに、いったいどうしようというんでしょうか。とにかく日本中が核のゴミだらけになることは、目に見えています。早くなんとかしないといけないんじゃないでしょうか。それに一日も早く、原発を止めるしかないんですよ。

私が五年ほど前に、北海道で話をしていた時、「放射能のゴミを五十年も三百年も監視を続ける」と言つたら、中学生の女の子が、手を挙げて、「お聞きしていいですか。今、

廃棄物を五十年、三百年監視すると言いましたが、今の大人がするんですか？ そうじゃないんでしょう。次の私たちの世代、また、その次の世代がするんじゃないんですか。だけど、私たちはいやだ」と叫ぶように言いました。この子に返事のできる大人はいますか。

それに、五十年とか三百年とかいうと、それだけ時間がたてば大丈夫なんだというふうに聞こえますが、そうじゃありません。原発が動いている限り、終わりのない永遠の五十年であり、三百年だということです。

●住民の被曝と恐ろしい差別

今までは、「日本の原発は放射能をいっさい出していません」と、何十年もウソをついてきた。でもそういうウソがつけなくなったのです。

原発にある高い排気筒からは、放射能が出ています。出ているのではなくて出しているんですが、二四時間放射能を出していますから、その周辺に住んでいる人たちは、一日中、放射能をあびて被曝しているのです。

ある女性から手紙が来ました。二三歳です。便せんに、涙の跡がにじんでいました。「東京で就職して恋愛し、結婚が決まって、結納も交わしました。ところが突然相手から婚約を解消されてしまったのです。相手の人から、『君には何も悪いところはない、自分も一緒にいたいと思っています。でも、親たちから、君は福井県の敦賀で十数年間育てられている。原発の周辺では白血病の子どもが生まれる確率が高いという。白血病の孫の顔は、ふびんで見たくない。だから結婚するのはやめてくれ』と言われた。私が何か悪いことをしましたか」と書いてありました。この娘さんに何の罪がありますか。こういう話が方々で起きています。

この話は原発現地の話ではない、東京で起きた話なんですよ、東京で。皆さんは、原発で働いていた男性と自分の娘とか、この女性のように、原発の近くで育った娘さんと、自分の息子とかの結婚を心から喜べますか。若い人も、そういう人と恋愛するかもしれないんですから、まったく、ひとことではないんです。

こういう話は、言えば差別になる。でも言わなければわからないことなんです。原発に反対している人も、「原発は

事故や故障が怖いだけではない、こういうことが起きるから原発はいやなんだ」と言つてほしいと思います。原発は事故だけではなしに、人の心まで壊しているのですから。

●私、子どもを生んでも大丈夫ですか。たとえ電気がなくなてもいいから、私は原発はいやだ。

最後に、私自身が大変ショックを受けた話です。

北海道の泊原発の隣の共和町で、教職員組合主催の講演をしていた時のお話をします。どこへいっても必ずこのお話は、しています。あとの話は全部忘れてくださつても結構ですが、この話だけは、ぜひ覚えておいてください。

その講演会は夜の集まりでしたが、父母と教職員が半々くらいで、およそ三百人くらいの人に来ていました。その中には中学生や高校生もいました。「原発は今の大人の問題ではない、私たち子どもの問題だから」と聞きに来ていたのです。

話がひと通り終わったので、私が「質問はありませんか」と言うと、中学二年の女の子が泣きながら手を挙げて、

こういうことを言いました。

「今夜この会場に集まっている大人たちは、大ウソつきのええかつこしいばかりだ。私はその顔を見に来たんだ。どんな顔をして来ているかと。今の大人たち、特にここに来てゐる大人たちは、農薬問題、ゴルフ場問題、原発問題、何かと言えば『子どもたちのために』と言つて、運動するふりばかりしている。私は泊原発のすぐ近くの共和町に住んで、二四時間被曝している。原子力発電所の周辺、イギリスのセラフィールドで白血病の子どもが生まれる確率が高いというのは、本を読んで知つてゐる。私も女の子です。年頃になったら結婚もするでしょう。私、子どもを生んでも大丈夫なんですか？」と、泣きながら三百人の大人たちに聞いたのです。でも、だれも答えてあげられない。

「原発がそんなに大変なものなら、今頃でなくて、なぜ最初に造るときに一生懸命反対してくれなかつたのか。まして、ここに来てゐる大人たちは、二号機も造らせたじゃないか。たとえ電気がなくなつてもいいから、私は原発はいやだ」と。ちょうど、泊原発の二号機が試運転に入つた時だつたんです。「なんで、今になつてこういう集会している

のかわからない。私が大人で子どもがいたら、命がけで体を張つても原発を止めている」「二基目ができて、今まで倍、私は放射能を浴びている。でも私は北海道から逃げない」って、泣きながら訴えました。

私が「そういう悩みをお母さんや先生に話したことがあ
るの?」と聞きましたら、「この会場には先生やお母さんも
来ている。でも話したことはない」と言いました。「女の子
同士では、いつもその話をしている。結婚もできない、子
どもも生めない」って。

担任の先生たちも、今の生徒たちがそういう悩みを抱え
ていることを少しも知らなかったそうです。

これは決して、原子力防災の八キロとか十キロの問題で
はない、五十キロ、百キロ圏でそういうことがいつぱい起
きているのです。そういう悩みを今の中学生、高校生が持
っていることをたえず知っていてほしいのです。

●原発がある限り、安心できない

みなさんには、ここまでのことから、原発がどんなもの

かわかってもらえたと思います。

チエルノブイリで原発の事故が起きて、「原発は怖いな
あ」と思った人も多かったと思います。でも、「原発が止ま
ったら、電気がなくなつて困る」と、特に都会の人は原発
から遠いですから、「少々怖くても仕方がない」と、そう考
えている人は多いんじゃないでしょうか。

でも、それは国や電力会社が「原発は核の平和利用で
す」「日本の原発は絶対に事故を起こしません。安全だから
安心しなさい」「日本には資源がないから、原発は絶対に必
要なんですよ」と、大金をかけて宣伝をしている結果なん
です。もんじゅの事故のように、本当のことはずーっと隠
しています。

原発はたしかに電気を作っています。しかし、私が二十
年間働いて、この目で見たら、この体で経験したことは、
「原発は、働く人を絶対に被曝させなければ動かないもの
だ」ということです。それに、原発を造るときから、地域
の人たちは賛成だ、反対だと割れて、心をスズスズにされ
る。できたらできたで、被曝させられ、何の罪もないのに
差別されて苦しんでいるんです。

みなさんは、「原発が事故を起こしたら怖い」のは知っている。だったら「原発は事故さえ起こさなければいい」のか。「平和利用」なのかと。そうじゃないでしょう。私のような話、働く人が被曝して死んでいたり、地域の人が苦しんでいる限り、原発は平和利用なんかではないんです。それに、「安全なこと」と「安心だ」ということは違うんです。「原発がある限り安心できない」のですから。

それから、今は電気を作っているように見えても、何万年も管理しなければならぬ核のゴミに、膨大な電気や石油が要るのです。それは、今作っている以上のエネルギーになることは間違いないですよ。その核のゴミや閉鎖した原発を管理するのは、私たちの子孫なのです。

そんな原発が、どうして平和利用だなんて言えますか。私は何度でも言います。原発は絶対に核の平和利用ではありません。

だから、私はお願いしたい。朝、必ず自分のお子さんの顔やお孫さんの顔をしっかりと見てほしいと。果たしてこのまま日本だけが原子力発電所をどんどん造って大丈夫なのかどうか。事故だけでなく、地震で壊れる心配もあって、

このままでは本当に取り返しをつかないことが起きてしまう。これをどうしても知ってほしいのです。

ですから私は、これ以上、原発を増やしてはいけません。原発の増設には絶対に反対し、いま稼働している原発も、着実に止めなければならないと思っています。原発があるかぎり、世界に本当の平和は来ないのですから。

やさしい地球 残そう子どもたちに

平井憲夫（ひらい・のりお）一九三八年十一月二五日生まれ 一級プラント配管技能士、原発事故調査国民会議顧問、原発被曝労働者救済センター代表、北陸電力能登（現・志賀）原発差し止め裁判原告特別補佐人、東北電力女川原発差し止め裁判原告特別補佐人、福島第二原発三号機運転差し止め訴訟原告証人。

九七年一月七日、その死が確認されたが、前年の十二月末の死亡では、と推定されている。「原発被曝労働者救済センター」は後継者がなく、閉鎖された。

PKO法「雑則」を広める会（郵便番号 一八〇〇〇三二
東京都武蔵野市境二二一四 電話〇四二二五一一七六〇二）

放射能のゴミの話

西尾 漠

「負の遺産」を残さないために

原発とは、原子力発電所の略語です。その名のとおり、原子力で発電を行います。原子の中心にある原子核を分裂させ、そのときに出る熱でお湯を沸かし水蒸気をつくってタービンを回し発電機を回す、というのが原子力発電のしくみです。

原子力発電には巨大な放射能災害をもたらす潜在的な危険性があり、また、核兵器の製造に道をひらく可能性を否定できません。さらに、多種多様でつかい難い放射性廃棄物を後の世代への「負の遺産」として残します。これらの点は、原子力発電を推進する考えか反対の考えかを問わず、誰しも認めることでしょう。そして、原子力発電が抱える問題はその三点に尽きるわけでは、もちろんありません。日常的な労働者の被曝や環境の汚染など、たちまち十指を超えます。

ここでは、それらの問題のうち、放射性廃棄物に限って少し詳しく解説をさせていただきます。この問題一つだけでも、原子力発電をやめるべきことは明らかでしょう。

放射性廃棄物とは、文字どおり放射性の廃棄物です。放射能（放射性物質）そのもの、放射能をふく

むもの、放射能で汚染されたものがあります。その放射能の大小で、高レベル、中レベル、低レベルなどと分けることができます。

しかし、必ずしも各国でこのように分類されているわけではなく、各レベルの区分値となる放射能の濃度も、国によってまちまちです。日本では、一般的に、原子炉で燃やされて「死の灰」のたまった核燃料Ⅱ使用済み燃料を再処理したあとに残る廃液と、その廃液を耐熱ガラスと混ぜてステンレスの容器に固めこんだ「ガラス固化体」だけを、高レベル放射性廃棄物と呼んでいます。それ以外は、すべて低レベル放射性廃棄物です。それも、一般的な呼び名であって、日本の法令では、高レベル放射性廃棄物や低レベル放射性廃棄物といった言葉は、使われていません。高レベル放射性廃棄物のガラス固化体のことは、法律上は「特定放射性廃棄物」と呼びます。

なお、世界的には、再処理をせず、使用済み燃料をそのまま高レベル放射性廃棄物とするほうが主流です。

ゴミがゴミを生む核燃料サイクル

低レベル放射性廃棄物は、原発からも他の原子力関連施設からも、発生します。原子力発電は、原発があるだけではできず、ウラン鉱石を掘り出して燃料を製造するためや、燃料を燃やした後の処理などに、いくつもの工程、いくつもの施設が必要となります。この各工程を「核燃料サイクル」と呼びます。核燃料サイクルには、つねに放射性廃棄物の問題がつきまといっています。

放射性廃棄物を処理したり管理したりする工程からも、また新たな放射性廃棄物が生まれます。施設が廃止されるときには、施設全体が放射性廃棄物となります。ゴミがゴミを生むのが核燃料サイクルで

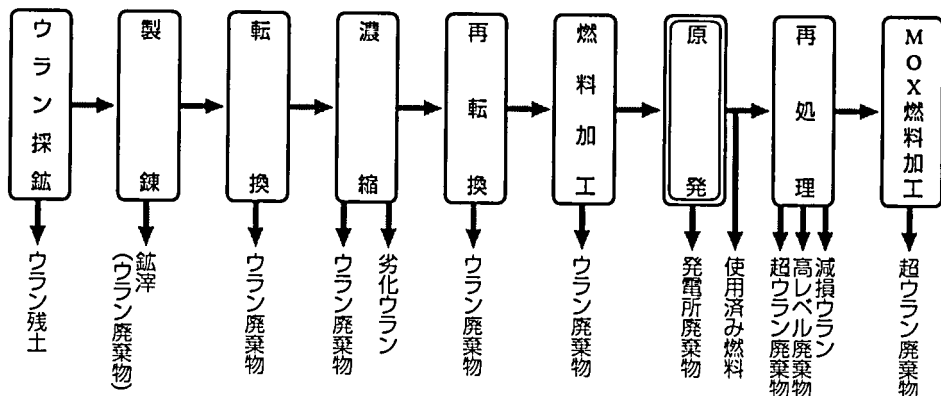
す。核燃料サイクルが、廃棄物問題を複雑にし、また、発生量を膨大なものとします。

原発の低レベル廃棄物というと、黄色いドラム缶が思い浮かぶという方もいらっしゃるでしょう。液体の廃棄物を蒸発処理した後の濃縮廃液を、セメントやアスファルト、プラスチックなどと混ぜたり、乾燥させてプラスチックといったように粒にしたりしてドラム缶に固め込みます。ほかに、可燃物を燃やした灰を同様に固め込んだもの、金属類やコンクリートなどの不燃物を切断・圧縮、あるいは可燃物とともに溶融して固め込んだものがあります。

低レベル廃棄物と言っても、それは高レベルと比較してのことです。中味は決して低レベルではありません。ドラム缶からは、抱きついて数分もすれば一般人の年間の許容量に達するほど強い放射線が出ています。

原発で発生した低レベル廃棄物のドラム缶は、まずは原発の敷地内で保管され、その後、青森県六ヶ所村の「低レベル放射性廃棄物埋設センター」へ運ばれて処分されます。埋設センターでは、コンクリート・ピットと

●核燃料サイクルの廃棄物



※低濃度の気体・液体廃棄物は薄めて放出される。

原子力資料情報室作成

呼ばれる浅い地中の施設にドラム缶を埋設し、埋設後三〇〇年のあいだ段階的に管理しながら捨てていくことになっています。

といっても、実際には、管理らしい管理をするのは、最初の「貯蔵」の段階だけ。要するに埋め捨て以外のなにものでもありません。

さすがに、埋めてすぐは「捨てた」ことにはしません。とりあえずは「貯蔵」です。地下につくったコンクリート製のピットの中にドラム缶を積む。ドラム缶やコンクリート・ピットがいたんだら修復する。ただし、モルタルで固めて蓋をした後では、たとえ漏れ出たとしても処置されることはありません。それでも、そうして貯蔵していくうちに、放射能のレベルがじょじょに下がるから、それに応じて、少しずつ管理をゆるめていけばよい——というのがです。

捨てられない廃棄物を捨てるために考えだされた苦肉の策が、この「段階的埋め捨て」です。

実際は、はじめから捨てるなんてとてもできないくらい放射能が強いのです。だんだんと放射能が減っていった、最後にやっと捨てたことにできるときでも、ドラム缶一本あたり、一般の人が一年間にそれ以上体の中に入れてはいけなさと法律で決められた量の一〇万倍もの放射能が、まだ残っています。

ドラム缶は、三〇〇万本が埋められる計画です。

「スソ切り」って何のこと？」

廃炉の解体から発生する廃棄物については、発生量の九五パーセント以上はレベルがきわめて低いはずとして、それらを「放射性廃棄物として扱う必要のない廃棄物」にしようと、一九九九年三月、原子力

安全委員会で、放射性廃棄物として扱う境界レベルが決められています。近く法令が整備される段取りです。

長いズボンのスロを足の長さにあわせて切るように、放射性廃棄物のうち、ある放射能レベル以下のものを切り捨てることから、これを俗に「スソ切り」といいます。原子力安全委員会などの呼び名では「クリアランス」。在庫一掃のクリアランス・セールを思い起こさせる点で、より適切なネーミングかもしれません。スソ切りなどという乱暴なことが考えられたのは、放射性廃棄物が増えすぎて、身動きがとれなくなってきたためなのですから。

増え過ぎた放射性廃棄物をみんな放射性廃棄物として管理していくのではたまらない、放射能レベルの低いものはふつうのゴミとして捨てたり、再利用したりできるようにしよう、というのが「スソ切り」です。鉄材などに再利用されたりしても、あるいは産業廃棄物なみに埋設され、その跡地が農業などに利用されたりしても、年間一〇マイクローシーベルト（被曝線量の単位）を超える被曝を人に与えないという放射能濃度が、放射能の種類ごとに決められたのです。

フライパンに使われる場合には、フライパンの面積や、水・調味液による鉄の腐食速度、フライパンを使用した年間調理時間、

■ 解体廃棄物発生量の試算例(1基当たり)

区分 \ 炉型		BWR		PWR		GCR	
		概略 (万トン)	概略 (%)	概略 (万トン)	概略 (%)	概略 (万トン)	概略 (%)
低レベル放射性廃棄物	高 $\beta\gamma$ 低レベル放射性廃棄物	0.01	0.1以下	0.02	0.1以下	0.3	2
		0.2	1以下	0.3	1以下	1.2	8
	極低レベル放射性廃棄物	1	2	0.3	1以下	0.8	5
放射性廃棄物として扱う必要のない廃棄物		53	98	49	99	13	85
合 計		55	—	50	—	16	—

飲料の缶に使われる場合なら、飲料中の鉄の濃度、飲料の年間摂取量、はたまたベッドへの利用なら、上に寝る人間との距離、ベッドの年間使用時間、埋設地が農地として利用されるケースでは、農耕作業時間、農作物の摂取量……と、そんなデータを集めてきて、どれくらいの放射能濃度の廃棄物が埋設処分されたり再利用されたりすると、最悪の場合、年間一〇マイクロシーベルトの被曝を与えてしまうかを試算した結果「クリアランス・レベルを規制値にするわけです」。

この「放射性廃棄物として扱う必要のない廃棄物」の埋設や再利用にあたって、たとえば金属の回収・溶融・製品化などの作業を行う労働者にも、再利用製品の消費者にも、何の警告も標示もないことは、大きな問題です。また、何かの事故などが起きた場合、誰がどう責任をとるのかは、きわめて不透明です。とりわけ再利用などということが行われると、その後の責任の所在はいっそうわからなくなり、放射性廃棄物を出した電力会社の責任は、まったく見えなくなってしまうでしょう。

医療器具や子どものおもちゃなどへの利用は、どうなのでしょう。複数の線源からの被曝が重なることなども考慮して、ほんとうに規制値未満に抑えられるでしょうか。

膨大な廃棄物の放射能測定が正しく行われることは、とても期待できません。放射能の中には、測定の難しいものも多くあります。きちんと測定しようとしたら、途方もない時間と費用がかかってしまいます。再利用しようにも、あまりに高価なりサイクル品となつて、引き取り手はないでしょう。

それを避けようとしたら、荒っぽい抜き取り検査だけにして、測定には時間をかけずに「検出限界以下」とするしかありません。「含まれていないはずの放射能は測らなくてよい、測りやすいものだけよい」とするわけです。

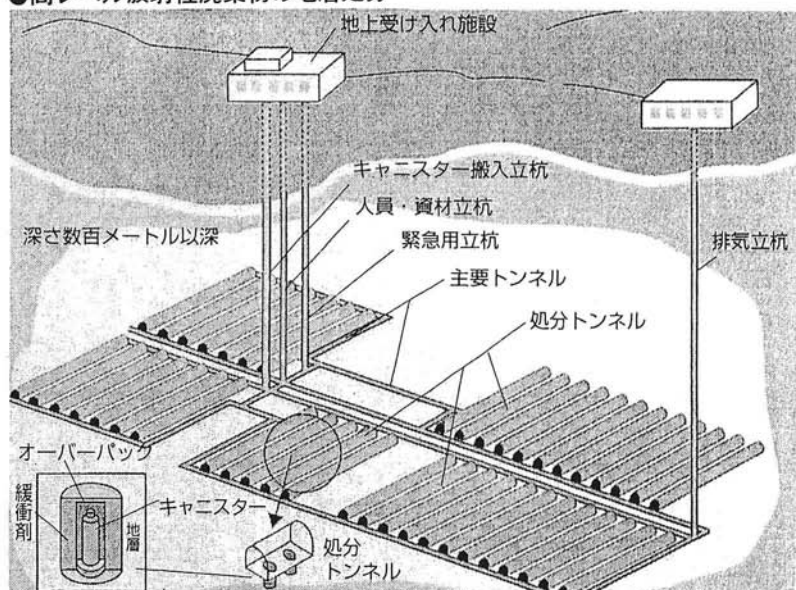
けつきよく規制値未満に抑えることは、あやしくならざるをえないでしょう。しかも、規制値の一〇マイクロシーベルト未満なら安全、とも言えません。否、安全であろうとなかろうと、放射性廃棄物を産業廃棄物扱いで埋設処分したり、日常用品に再利用したりなんて、そもそも願ひ下げにしたいと思います。

恐怖の高レベル廃棄物

いちばん放射能レベルの低い放射性廃棄物の話から、いちばん高い放射性廃棄物のことに、話を移しましょう。いちばん低いところにもいちばん高いところにも、それぞれに大きな問題があるということになれば、その間の種々雑多な放射性廃棄物にも、多種多様の問題があることは容易に理解されると思います。

さて、高レベル放射性廃棄物です。まず高レベル廃棄物とは何か、から見るとします。ひとことで言うなら、それは、原子力発電によって生み出された「死の灰」です。原子炉のなかで、核燃料のウラン-235に

●高レベル放射性廃棄物の地層処分



中性子がぶつされると、ウランの原子核が分裂して二つの別の元素に分かれます。この、新しく生まれた元素や、その元素が放射能を出しながら変わって生まれるさまざまな元素が、核分裂生成物、俗にいう死の灰です。

核燃料を燃やしたあとの使用済み燃料には、死の灰がたまっているほか、まだ燃え残りのウラン-235があります。燃料の大部分は「燃えにくいウラン」であるウラン-238で、ほとんどはそのまま残っていますが、一部は、中性子を吸収してプルトニウムという別の元素に変わっています。プルトニウムのうち六〇〜七〇％は、プルトニウム-239、同-241という「燃えるプルトニウム」です。つまり、燃料として使えるものです。もちろん、核兵器にも使えます。

そこで、日本などでは、使用済み燃料を再処理して、燃え残りのウランとプルトニウムを取り出します。あとに残った死の灰が高レベル廃棄物です。

もともと、この高レベル廃棄物には、死の灰以外のものが含まれていないわけではありません。ウランとプルトニウムを分けて取り出すといっても完全には分けられないので、ウランやプルトニウムも混入しています。ネプツニウムやキュリウムなど、中性子の吸収で生まれた「超ウラン元素」もあります。これらの元素は、寿命がきわめて長く、放射能毒性の強いものが多くあります。

工場内の機器の鉄錆びに中性子が当たってできる放射線のニッケルやクロムなども、ふくまれます。放射能ばかりでなく、再処理の工程で使われた薬剤や有機溶媒などが混じっています。

「高レベル廃棄物は、ひとことで言えば死の灰」——とは乱暴な言い方で、実は、「ひとつひとつ寿命も化学的性質もちがう種々雑多なゴミのかたまり」と訂正をしておくべきでしょうか。数百年後には、死の灰から超ウラン元素へと、高レベル廃棄物のなかの放射能の主役も交代します。

できたての高レベル放射性廃棄物のガラス固化体一本には、セシウム137という放射能で比べて、広島原爆で放出された量の一〇〇倍の放射能がふくまれています。放射線の強さもとほうもないものになり、すぐそばに一分間立っていると浴びる放射線被曝の量は、およそ二〇〇シーベルト。それがどれくらいの被曝かというと、二〇〇〇年版の『原子力安全白書』には「一五シーベルト以上で神経系の損傷による死、一〇〇シーベルト以上で急性中枢性ショック死」と書かれています。つまり、長くても三〇秒間そばに立っているだけで、確実に命を落とすことになるのです。

この高レベル廃棄物について、国や電力会社は、三〇年から五〇年の貯蔵期間中に放射能の量が少し減り、熱も半分くらいになるので、それを待って地下の深いところに埋めて捨てようと考えています。埋め捨てをする場所については、それがどこか決まっています。実際に捨てはじめるのは二〇三〇年代から遅くとも四〇年代前半とされています。

「それまでも高レベル廃棄物はどんどんたまってきて、二〇三〇年には七万本に達する」などと平気で述べている(原子力委員会高レベル放射性廃棄物処分懇談会の報告書)のですから、まさに無責任な話です。最大のごまかしは、廃棄物を増やしつづけることは是非を棚上げにしながら、「少なくともすでに存在する」ものは何とかしなくてはいけないと主張し、事実上、これから発生するものをふくめた処分をすめようとしていることです。

まず必要なのは、放射性廃棄物を増やしてでも原発をつづけたほうがよいのか否かを議論し、原発の廃止時期を定めることです。そうして初めて、あと始末すべき放射性廃棄物の総量がわかるからです。この議論に際しては、高レベル放射性廃棄物ばかりでなく、すべての放射性廃棄物について、どんなものがどれくらい発生せざるをえないかが、具体的な数字で示される必要があります。

もちろん、再処理するのがよいか、使用済み燃料をそのまま高レベル放射性廃棄物とするのがよいか、といったことも評価の対象となります。

そうしたことを、「後世代に残す負担を少しでも小さくするにはどうしたらよいか」という観点から評価し、議論し、結論を出すことこそが、まさに現世代の責任ではないでしょうか。

「地層処分」こそ無責任

そうした評価をせずに、すでに存在する高レベル放射性廃棄物があるからという理屈だけで「その処分を具体的に実施することが必要である」と言うのは、問題のすりかえです。また、すでに存在するのは何とかしなくてはいけなくとも、それを「地層処分」しなくてはいけなくと決めつけるのは、やはりすりかえです。

深い地層に処分したあとは、後の世代は何もしなくてよい、後世代に負担を残さないことで、現世代の責任をまっとうできる——というのが、地層処分論です。ガラス固化体を深い地層のなかに埋め捨てれば、超長期の管理をしなくともよいのです。どんなにがんじょうな施設をつくっても、何万年ものあいだの管理が必要なのですから、人間のつくるものでそれだけのあいだこわれないような施設はありえない、とも言われています。

でも、人間や人間のつくったものは信用できないから自然にまかせるとするのは、どうでしょうか。自然だって、いや自然だからこそ、人間のつくった高レベル廃棄物をおとなしく抱いていてはくれないでしょう。実際には、後世代にまったく負担を残さないなどということはありえないのです。地層処分

が安全に実施できることは実証されておらず、処分推進の立場に立つ研究者から見ても不確定要素がきわめて大きいものです。

「後世代に負担を残さない」と地層処分を急ぎ、あとになって大きな自然災害や事故に見舞われたり、その回避のために高レベル放射性廃棄物の回収が必要になったりしたら、環境汚染や労働者の被曝、膨大な費用など、かえって莫大な負担を強いることになります。

また、地層処分は、後の世代が別の処分法を採用しようとしても、それを著しく困難にします。「負担を残さない」ことに固執するのでなく、少しでも負担を小さくすることを考えるべきではないでしょうか。

地上にせよ浅い地下にせよ、初めから管理・回収が容易な形で貯蔵をつづけるほうが、けっきょく負担は小さく、堅実です。「長期管理をつづけていて、自然災害や戦争、航空機の墜落などが起きたら安全が確保できない」と主張する人は、現に地上にある原発や核燃料サイクル施設の危険性をどう考えているのでしょうか。

しかし、政府や電力会社などは、あくまで地層処分に固執し、その安全性は確保できると主張しています。そして二〇〇〇年五月三十一日、「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」を成立させてしまいました。九月二十九日、同法にもとづいて政府は、基本方針と最終処分計画を閣議決定しました。十月十八日には処分実施主体として「原子力発電環境整備機構」の設立が認可されて業務を開始しています。

同機構は二〇〇二年十二月十九日、処分場候補地の公募を開始しました。何とか応募する自治体を誘いだそうと、応募しただけで一年間の文献調査期間中に二・一億円、概要調査地区に選定されて調査に入れば単年度二〇億円（最高七年間で七〇億円）の交付金を受け取れるように制度をつくりました。い

ったん交付金を受け取らせてしまえばいずれ最終処分地を押しつけられるとする手法が見え見えます。

同機構が二〇〇三年四月に明らかにしたところでは四〇自治体から問い合わせがあったということですが、五月末現在、立候補した自治体はありません。

プルトニウムという名の危険なゴミ

日本などの「再処理国」では、原子炉で燃やされた後の使用済み燃料を再処理している、とお話しました。再処理によって取り出したプルトニウムを新しい核燃料として利用するためです。しかし、このプルトニウム利用には難しい問題がたくさんあって、けっきょく、うまくいきません。また、うまくいく見込みは、まったくありません。

プルトニウムを燃料として利用する新しい型の原発（といっても、開発の歴史はふるいのですが）が、高速増殖炉です。プルトニウムとウランを混合した燃料「MOX燃料

■ 高レベル放射性廃棄物の最終処分施設建設地の選定プロセス



通商産業省告示「特定放射性廃棄物の最終処分に関する計画」(2000年10月2日)より作成

のまわりに燃えにくいウラン-238を置き、発電をしながらウラン-238をプルトニウム-239に効率よく変えて、燃やした以上に新しいプルトニウムを「増殖」しようというものです。高速増殖炉にはさまざまな技術上の難点があります。日本でも実用化の目標時期は先へ先へと延ばされたあげく、「もんじゅ」事故のあとでは白紙とされてしまいました。世界的にも、アメリカ、ドイツ、イギリスと、開発を断念する国が続いています。最先進国のフランスでさえ、開発の続行には疑問符がつきます。

となると、使いみちのないプルトニウムが貯まる一方です。高速増殖炉は本来プルトニウムを増やす原子炉ですが、その前に、運転を開始するための燃料としてプルトニウムを必要とします。高速増殖炉の開発計画が次つぎと中止されたり延期されたりするようになって、燃料に使われるはずだったプルトニウムが余ってしまっているのです。

たいへんな手間をかけて、労働者を被曝させ、周辺環境を汚染してようやく取り出したプルトニウムも、これまた、つまるところはゴミそのもの。そこで何とかこのゴミの使いみちをさがそうと、ゴミをつくり出してしまったがゆえの後始末が必要になります。

プルトニウムは、核兵器の材料であり、また、きわめて放射能毒性が高いために、余ったら貯めておけばよいというわけにはいきません。

原発がプルトニウムというゴミをつくり出すために、それを「焼却」する原発が必要になるという皮肉が、よく理解されるでしょう。そうした皮肉のツケが私たちに、それも、より弱い立場の者に、より強いのしかかってくることを考えるなら、皮肉と言ってすむことはありません。

プルトニウム利用がうまくいかなければ、再処理にブレーキがかかります。また、そもそも再処理自体も、うまくいっていません。そこで、行き先をなくした使用済み燃料は、各原発に貯まりつづけるこ

とになります。

この使用済み燃料こそ、原発特有のやっかいな放射能のゴミと言えます。つまり、大量の副産物としてのゴミのみならず、燃料がそっくりそのまま、きわめて放射能レベルの高いゴミとなるのが原発なのです。「燃料」と言い「燃やす」と言っても、これは核分裂のことで、石油を燃やすのとは違いますから燃えた「燃料」と同じだけの「死の灰」（核分裂生成物）が生まれます。この死の灰をふくんだ「使用済み燃料」全体の量も、むろん、燃やす前と変わりません。放射能レベルが、何ケタも高くなるだけです。やっかいな、使用済み燃料というゴミを、原発は日々生産しています。このゴミは強い放射能を持つので捨てることはできず、高熱を発するので冷却しつづける必要があります。

子孫に対する犯罪行為

誰も本気になつて放射性廃棄物の後始末に取り組まないとしたら、原発が動いているときより、止まつてからのほうがはるかにおそろしいとすら言えるでしょう。どこでも拒否されるものを、どこかで引き受けなくてはならない。そしてそれを将来の世代にも引き継いでもらわなくてはなりません。いかに難問であることか。

しかし、それほど困難でも、すでに生み出されてしまったものは、管理をしていくしかありません。だからこそ原発を早く止めて管理すべき高レベル放射性廃棄物の量を確定し、責任の所在を明らかにし、どこでどう管理をしていくかについて大きな議論を起こす必要があります。

安直な世代責任論や電力消費者責任論に与（く）するのには、願（ねが）い下げにしたいと思います。とはいえ、私た

ちが無関心でいれば、高レベル放射性廃棄物に限らずあらゆる放射性廃棄物が生み出されつづけます。どこかに最終処分場が押しつけられ、将来の世代に時限爆弾をしかけるような乱暴な処分が行われてしまいます。そんな出鱈目を許さないことこそが、現世代の、電力消費者たる私たちのほんとうの責任でしょう。

もう一度、これまで述べてきたことをくり返して結論としましょう。原発を運転すると、使用済み燃料というゴミが生まれるから、再処理工場がつくられます。再処理をしてプルトニウムというゴミを生み出すから、そのゴミを燃やすための燃料加工工場などが必要になります。原発の運転にもなつて、またそのために必要な核燃料サイクルにもなつて、大量の放射能のゴミが生みれますから、その処理施設が必要になります。そして、原発も、核燃料サイクルの諸施設も、廃棄物処理施設も、やがてそれ自身が巨大な放射能のゴミのかたまりとなります。

まさにゴミがゴミを生む原子力開発と言えないでしょうか。しかもそのゴミは、消すことも捨てることもできないゴミなのです。捨てた放射能は、そのまま環境中に残るのですから。そして、そのはじめから終わりまで、国内外の多くの人びとの犠牲を必然とするゴミです。

すでにある放射能のゴミと、ゴミのままで終わってほしい核兵器と、ゴミになるしかない核・原子力施設だけでも、ものすごい量の放射性廃棄物を、否応なく子孫に残さざるをえないのです。これ以上、それを増やすことは、子孫に対する犯罪行為と言わざるをえないでしょう。

とすれば、せめて私たちにできることは、その量を増やさないこと、少しでも安全管理の方法を用意すること、そして、将来の世代が原子力にも化石燃料にも依存せずに豊かな生活ができるような社会のしくみをつくることではないでしょうか。

原発は要らなかつたんだ

原発の検査でのトラブル隠しが発覚した結果、二〇〇三年四月十五日には、ついに東京電力の三原発の十七基の原子炉すべてが停止する事態となりました。五月七日には一基の運転が再開されたとはいえ、全原発停止が三週間つづいたというのは画期的なことですよ。そして、ほとんどの原発が止まったまま、東京電力で夏が越せたら、多くの人が「原発は要らなかつたんだ」と気づくでしょう。

原発全基停止の事態は、エネルギー供給の点でも地球温暖化対策の点でも、原発に頼ろうとしていた複数の原発がいつせいに止まる「連座リスク」で足元をすくわれることがある、と教えてくれました。原発を止め、エネルギー消費を小さくしてこそ、エネルギーの安定供給が容易になり、温暖化対策も現実的なものとなるのです。

西尾 漢（にしお・はく）一九四七年 東京生まれ。NPO法人・原子力資料情報室共同代表。『はんげんぱつ新聞』編集長。主な著書に『原発を考える50話』（岩波ジュニア新書）、『脱！フルトニウム社会』『地球を救うエネルギー・メニュー』（七つ森書館）、『なぜ脱原発なのか？』（緑風出版）

あらゆる

資料を網羅

原子力市民年鑑2003

七つ森書館

東海地震の前に、浜岡原発を止めよう！

馬場利子

私たちは、予想される東海大地震の前に浜岡原発四基の運転差し止めを求めて、昨年二月「浜岡原発とめよう裁判の会」を結成し、静岡地方裁判所で民事仮処分の裁判をしています。

私は二人の子どもを持つ母親として、〈裁判の会〉に参加しました。

県民の不安は……

私たちの住む静岡県では、明日起きるかもしれない東海地震に対して、地域防災組織が行政主導で組織され、各家庭に防災用具・食料・水の備蓄が指導され、建物の耐震補強が県費をかけて行われている。

こうして地震対策が地域で徹底されればされるほど、チェルノブイリ原発事故をきっかけに原発問題に気づいた私のような母親たちは、静岡県にある浜岡原発四基の安全性に、強い不安を感じるようになります。

阪神大震災で倒れた高速道路の光景は、否が応でも巨大な建物に放射性物質を抱える浜岡原発と重ね

合わせて思わないわけにはいきませんでした。大震災が襲うその地域の真つ只中に、原発が建っている例は、世界中どこにもありません。東海地震は阪神大震災の三〇倍ものエネルギーを持つ地震と言われているのです。

加えて一昨年十一月に起こった一号炉の配管爆発破断事故は、金属配管が一メートルにわたって破断し、鉄製の扉が七メートルも吹き飛ばすさまじいものでした。運転開始から二七年を経過した浜岡原発は、地震が来なくても、古くなってトラブルが続き、廃炉を望む声が行政からもあがるほどになっています。

巨大地震が街を襲う時、破壊された建物や道路などは、人の力で再建できます。しかし、原発が破壊されれば、放射能が日本中を襲います。そして放射能がいったん環境に放出されたならば、チェルノブイリの街がそうであるように、その後何百年もの間、汚染地は人の住めない街となってしまう。

国の東海地震の被害予測が次つぎに大きく見直されていく中で、なぜか、「浜岡原発は絶対大丈夫」として、報告では被害はゼロ。予測にも加えられていません。ところが、浜岡原発一、二号炉は、東海地震が予測される前に許可されたもので、国の耐震設計指針によって建てられていないのです。

私たち母親は、「東海地震の震源域のエネルギーが限界を超えている」と行政関係者から聴くようになった二〇〇一年、地震によって原発が破壊した時に備え、子どもたちを放射性ヨウ素から守ろうと「ヨウ素剤」の頒布を始めました。事故直後に服用できるよう各家庭に常備するためです。

チェルノブイリ事故の被曝によって、十代の若者たちが次つぎに甲状腺がんを発病していく姿は、私たち母親にとって他国の出来事ではありません。

ヨウ素剤を三五〇人以上頒布しながら、私たちは自己矛盾におちいりました。

私自身、我が子にヨウ素剤を携帯させるために「ビルが壊れるような地震が起きたら、誰も指示してくれないけれど、これを一回分飲みなさい。あとは、その日のうちに会えるように……」と説明しながら、こんなバカな親がいるだろうか……と激しい自己嫌悪に陥りました。

何も知らない子どもに、原発事故の怖さを言う前に、大人としてできることがあるはずだ……。

地震は止められないけれど、電気のためだけに原発でなくても電気はできる。放射線障害をたえ軽くしたところで、それが何になるのだろうか……。できるかぎりの手を尽くして、地震の前に原発を止めたい。

こうした地域の想いと、裁判で浜岡原発の運転を止め、原発震災を未然に防ごう……という弁護団の活動が出あって、裁判は始まりました。

裁判から見えてきたこと……

この裁判に参加している人の中には、二〇代、三〇代の若い女性たちも多く、子どもを持つてはじめて、命や暮らしの問題に関心をもった人たちがいます。

裁判をきっかけに、原発の放射性廃棄物の問題や労働者被曝の問題を、少しずつ知り始めています。こうした若い母親たちは、国や電力会社に対しておぼろげに感じてきた不信感を、この裁判で、はっきりと「おかしい」と口にするようになっていきます。

裁判が始まり、私たち原告の申し立てに対し、中部電力側は「原発はいつも、きちんとした点検と国の厳しい検査を受けているから、二七年経っても新品同様、何の欠損もない。耐震性も十分な検査済み。東海地震が来ても大丈夫」と反論しました。

しかし、どうでしょう。

昨年七月の東京電力のトラブル隠しに端を発した電力会社による原発事故隠しは、中部電力も例外ではなく「傷一つない」はずの原子炉に膨大な傷があることがわかりました。それも、中部電力は自主検査ですでに知っていて、国に報告していなかったのです。

それが知れると、国は「原発に傷があっても大丈夫」と言い始め、電力会社を擁護しています。

確かに少々の傷なら、静かに運転していれば、すぐには事故に繋がらないかもしれません。しかし、浜岡は他の原発と全く違う条件の中で運転しています。〈巨大地震が明日にも来る地域〉に建っているのです。

ドイツの市民電力会社を設立し、自然エネルギーを供給している市民団体の代表である私の知人は、その市民活動の中で、ドイツの脱原発政策を実現させ、エネルギー供給方法を市民が選択することができるように、国の法律も変えてきました。その知人が私たちの裁判に強い関心を寄せ、私に問いました。「なぜ、裁判などする必要があるのか？ 原発は、地震が来るところには、建設してはいけないことになっている。世界の約束事だ。地震発生を予測したのが国ならば、なぜ国は原発の運転を止めないのか？」

私たちは、この当たり前の質問に答えられない社会の中に暮らしています。

この裁判は、市民自らが、「地震の前に原発を止めて安心して暮らしたい」と声にする行動です。

原告は一、八四六名。支援会員は三五〇名。

裁判に踏み出したきっかけはさまざまですが、「子どもに対する大人の責任」は、みなに共通するものだと言えます。

私たちは浜岡原発を、地震の前に止めたいと願っています。なぜなら、子どもたちが生まれ、私たちが暮らしたこの街で、いつまでも皆が幸せに暮らしたいと思うからです。

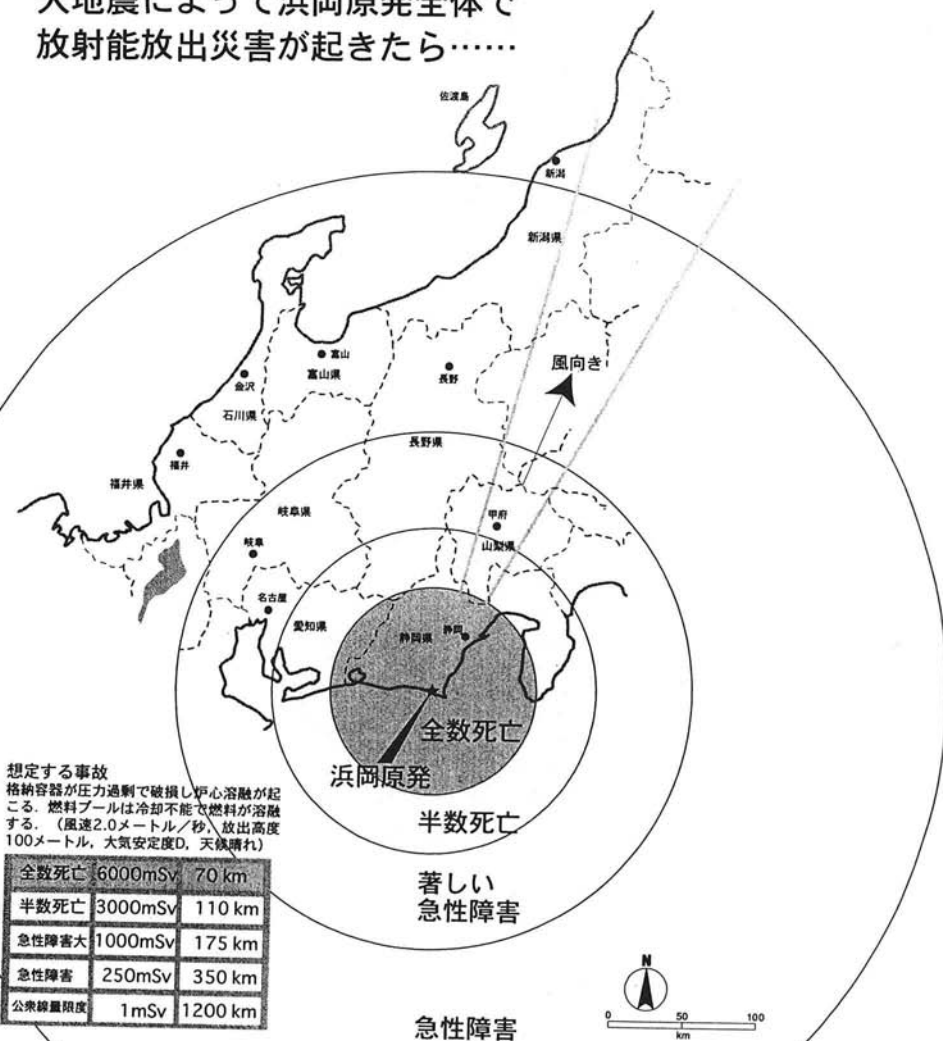
そして、狭い日本では浜岡原発が地震で壊れたら、風向きと放出された放射性物質の量によっては、千葉から愛知まで人の住めない避難地区になってしまう予測もされています。決して、東海地震と浜岡原発は遠くの街の出来事ではないのです。

何百年も先の子孫に負の遺産を残さぬよう、原発を止めて自然エネルギーで暮らす社会を皆で創りましょう。

そのために、私たち母親は、裁判とは別に、自然エネルギー発電システムを地域にひろげようと、本年二月から「市民エネルギーギフト」の活動もはじめています。

馬場利子（はば・としこ）一九五三年生まれ。〈浜岡原発とめよう裁判の会〉事務局長。「健やかな命のための生活講座」代表。
「市民エネルギーギフト」事務局環境カウンセラー

大地震によって浜岡原発全体で 放射能放出災害が起きたら……



「死の灰」が赤ん坊を殺している？

子どもを見捨てた原子力政策

小田美智子

私はチェルノブイリ事故の後、原発の危険性について目覚めたのですが、阪神・淡路大震災後は、東海地震と浜岡原発を重ねて考えることで、原発がいかに無責任なものかを知りました。さらに、原発から日常的に排出されている「死の灰」が赤ん坊を殺しているということも知りました。原発は想像以上に危険なものです。一刻も早く止めなければならぬと考えます。

マウスで起るいじはトにも起る

一九九一年、膨大なマウスを使って放射線の研究をし、小児がんの原因が「放射線によって遺伝子が傷ついた結果」であるということ明らかにされた大阪大学の野村大成教授のお話を聞く機会がありました。このとき、原爆の影響が子孫に現れるのは、三代、四代先のことで聞いて、広島で被曝した知人の人知れぬ苦しみを垣間見た気がして、とても落ち込みました。しかし、このことが私にとっても深い意味をもっていたことがわかったのは、愚かにもずっと後のことでした。

七〇年代に、野村教授が明らかにされたことは、●親マウスが被曝するとその線量に比例して奇形が

増える、●胎児は生まれる前に死ぬ頻度が高い、●生まれた子マウスは、がんになる、●父マウスの被曝によって二〇代目の子孫に白血病が遺伝した、というような内容でした。

九〇年に、イギリスのセラフィールド再処理工場で従業員の子どもに白血病が多いことがわかって、イギリスで大問題になったのですが、野村教授の研究がヒトで証明された形になって、教授自身も大変驚かれたそうです。遺伝子から見ると、ヒトとマウスはいくらも違わないのです。マウスに起きることはヒトにも起きるということが証明されたのです。野村教授は、さらに、ヒトの脳が放射線に弱いことがわかっていて、実験動物では知恵遅れは調べようがないこと、ヒトが妊娠してもその三分の一は自覚のないまま流産していることも明らかにされています。五八年には、アリス・スチュアート博士が「レントゲン写真の枚数が増えると、小児がんと白血病が増える」ことを発表し、胎児が低レベルの放射線に敏感なことを警告していたことも知りました。五八年は、まだ日本に原発が一基もないころです。

「死の灰」が赤ん坊を殺している

二〇〇〇年四月に、「原子炉閉鎖で乳幼児死亡激減」という衝撃的な報道がありました。アメリカの研究機関の調査結果でした。原発が日常的に「死の灰」（放射能は放射線を出して生命を殺傷します。「死の灰」は「死の放射能・放射線」の意味で使います）を放出しているものとは知っていましたが、やはり、放射線に一番弱い赤ん坊を殺していたのです。ショックでした。

いろいろと調べていくと、八〇年代には、カナダで新生児の死亡率と原発からのトリチウム放出量が関係することや、原発周辺で小児白血病死が増加していることが報告されていました。トリチウムは原

発から垂れ流されている「死の灰」です。水の形で存在するので取り除くことができないため、垂れ流しするしかないのだそうですが、トリチウムが発がん物質であり、遺伝子を傷つけて新生児死や小児白血病の原因となることがわかっています。

トリチウムのことを調べている最中の二〇〇〇年八月、「日本の原発周辺で妊娠二週から生後一週間までの間の赤ちゃんの死亡率が急上昇しつづけている」という恐ろしいレポートをルポライター・明石昇二郎さんが発表しました。そこには仮説としてトリチウム原因説が取り上げられています。

二〇〇〇年八月、NHKテレビで放映された『ブッダの嘆き』には、インドのウラン公害に苦しめられている地域住民の悲惨な姿、とりわけ痛ましい子どもたちの姿が映し出されていました。皮肉なことにこの映画は、日本で行われた「第八回地球環境映像祭優秀賞」を受賞しています。ウラン鉱山周辺の問題は、日本が輸入しているウラン鉱山周辺でも、同じように起きていることです。

二〇〇三年三月に米英が始め、小泉首相が「支持」したイラク戦争。その戦場で使われた劣化ウラン弾は、放射能の働きからみると、原発の燃料とほぼ同じ程度といわれるほどの放射線を発するといわれています。米軍は九一年の湾岸戦争でも、大量の劣化ウラン弾を使用しました。そのために、イラクの子どもたちが白血病で亡くなったり、障害をもつ赤ん坊が増えたりしました。このとき、被曝国日本の橋本首相は、「劣化ウラン弾は核兵器ではない」としました。

ヒトの被曝限度量

危険な放射能を原発や原爆製造などで利用するために、ヒトの被曝限度量が決められています。国際

的に権威ある機関とされている国際放射線防護委員会（ICRP）が決定した最新の被曝限度量は、放射線作業者が一年に五〇ミリシーベルト（五年で一〇〇ミリシーベルト）、公衆が一ミリシーベルトです。日本もこの基準を採用しています。

問題は「公衆」です。「公衆」とは要するに放射線作業者以外のヒトです。老若男女、赤ん坊（受精卵や胎児）や子ども、大人など、いろいろなヒトで、世の中はそういうさまざまなヒトで構成されています。

胎児や赤ん坊などの細胞分裂の盛んな子どもが放射線に弱いことは、マウスなど動物実験によって証明された事実です。細胞が異常増殖するがんを放射線で殺すのもこの理屈からです。子どもは大人の数十倍、胎児は数百倍、胎児になる前の受精卵はさらに弱いといわれています。

そうなのです。本気で放射線からヒトを守るというのなら、被曝限度量は最も弱い胎児を基準にしなければならぬのです。しかし、そのような限度量では放射能は利用できません。安全対策の費用が莫大なものとなつて、原子力産業は利益を得ることができないからです。

国際機関がどれほど汚い手を使って、原子力産業を守るための被曝限度量を決定してきたのか、中川保雄著『放射線被曝の歴史』に詳しく書かれていますから、ぜひ読んでみてください。今までの知識がいかに原発推進側に洗脳されたものか、目からウロコがいつぱい落ちます。

人間は「死の灰」を無害にできない

人間は地中深く存在したウランを、大量に地上に掘り出して原爆や原発に使ってきました。ウランとというのは放射能です。「崩壊」といって自然に放射線を出しながら他の放射能に変わっていきます。ウラ

ンとともに存在するトリウムと合わせると、一四〇億年の間に三六種類の放射能に変化し、最後に放射線を出さない鉛になって安定します。

ウラン鉱山から天然ウランを取り出した後には、その一万倍ものウランの鉱さいや残土が残ります。

岡山県の人形峠では、原発半年分ほどのウランを取り出したあとに、ドラム缶一〇〇万本のウラン残土が残りました。残土の中には当然ウランの崩壊でできた多くの放射能が残っているのです。周辺環境を汚染し、人びとを被曝させます。

一キログラムの天然ウランには、原爆の材料や原発の燃料になるウラン-235がわずかに七グラム（〇・七％）しか含まれていません。残りの九九三グラムが核分裂しないウラン-238です。これは核のゴミの一種である劣化ウランです。

天然ウランはそのままでは効率がよくないので、核分裂するウラン-235の含有率を高めるために「濃縮」します。三％に濃縮したものが原発の燃料に、一〇〇％に濃縮したものが広島型原爆の材料に使われます。

原発の使用済み燃料には、「死の灰」が三％とプルトニウムが一％発生しています。プルトニウムは燃料の中のウラン-238が、変化したものです。この世で最も猛毒といわれるプルトニウムは「再処理工場」で作られます。プルトニウムは核分裂するエネルギーがウランより桁はずれに強いので、核兵器の材料に最適であり、原発と再処理工場があれば、長崎型原爆を作ることができます。再処理工場ではウラン燃料の中にしっかりと閉じ込められていた「死の灰」が、化学処理によって開放されるので、一日で原発一年分もの「死の灰」が放出されるといわれています。

原発の危険性は「死の灰」の危険性そのものです。そして、最悪の問題は、「死の灰」を人間の手で無

害にできないということです。「死の灰」は、半減期の一〇倍、二〇倍という時間でしか無害にならないのです。セシウムやストロンチウムは三〇〇年以上、プルトニウムは二四万年以上、劣化ウランは四五〇億年以上!です。「死の灰」の害は未来永劫に続くのです。「死の灰」を排出した人間にはその行く末を見届けることはできないのです。

ただか数十年分の電気のために、このような「死の灰」を残す原発は、どこから見ても無責任にならざるを得ません。原発を始めるまえに「死の灰」を無害にする技術を発明すべきでした。研究はしていませんが、試験管レベルなら可能でも、膨大な「死の灰」を無害にすることは不可能です。「そのうちに何とかなるだろう」と見切り発車で動かし始めた原発。「後は野となれ山となれ」と。しかし、「死の灰」の野や山を歓迎する子孫はいません。なんという無責任さでしょうか。

子どもを見捨てた原子力政策

原発推進派や必要派はもちろん、原発に無関心な人びとは、「あなたのお子さんが被曝してもいいのですか」と問われたとき、どう答えるでしょうか。おそらく「我が子を被曝させてもいい。国策のために原発を推進してください」とは言わないでしょう。でも、本心では、「快適な生活に欠かせない電気は必要だ。自分の子どもが被曝するのはいやだけど、どこかの子どもが被曝してどうなろうと、自分には関係ない。文明には犠牲がつきものだ」などと考えているのではないのでしょうか。そういう人は我が子を見捨てているのと同じです。

「原爆の影響は、三代、四代先に現れる」という野村教授の言葉を思い出してください。私は六〇年代

に二人の娘をもうけましたが、長女が結婚した相手は同じ年代でした。ある時、核実験の年表を見て、彼らが核実験の「死の灰」が地球に降り注いだ時代に育ったことに気づいたのです。ぞーっとしました。世界の脱原発の流れに逆らうように、被曝国日本は国策原発を固持しています。大事故や地震によって起きる原発震災の不安を抱えながら、増えつつける「死の灰」……。

現在、私の孫たちは元気です。でも、三代、四代の先にどうなのか、私はこの世に存在していないのでわかりません。振り返れば連綿とつながってきたからこそある生命。未来の生命もそのようにつながっていつてほしい。でも、生命が「死の灰」によって断ち切られるのです。「死の灰」が遺伝子を傷つけたら取り返しがつかないのです。「死の灰」が大量生産されてしまった核の時代の中で、ひとり我が子だけを守ることは不可能だとわかります。

中川保雄さんの言葉

次に、「目からウロコが落ちた」中川保雄さんの本から、私が、一番感銘を受けた部分を紹介します。ゆつくりと、何度も読んで、このまま原発を利用していいのかどうか、考えてみてください。

「人類が築きあげてきた文明の度合いと豊かさの程度は、最も弱い立場にある人たちをどのように遇してきたかによって判断されると私は思う。ここで扱う問題に即していえば、放射線をあびせられたヒバクシャの被害や、将来の時代を担う赤ん坊や子どもたちへの放射線の影響をどのように考えてきたかで測られると思う。その子どもたちの安全を守るという場合、放射線の人体への影響という科学的な判断とともに、安全をどのように考えるかという社会的な判断が絡むことになる。その判断は、情報と社会

的な権力を握る人たちが、自分たちに都合のよいように行なってきた。その結果、原子力産業と原発を推進する人びとは、子どもたちを放射線の被害から守るという問題においてすら、経済的な利益を至上とする原理や、人の生命すら貨幣的価値に換算する仕組みをつくりあげたのである」

緊急の呼びかけ―東海地震が起きる前に浜岡原発を止めよう！

静岡県を中心に八都県一二〇万人を超える人びとを襲うと言われている「東海地震は、M8クラス。エネルギーで比べると阪神大震災の十五倍とも三〇倍ともいわれるほどの巨大な地震です。政府はその「震源域」の真中に、浜岡原発五基を許可しました。「東海地震が起きても浜岡原発が壊れないように設計してある。地震防災対策は必要ない」と説明していますが、正気の沙汰とは思えません。

「浜岡原発震災」を未然に防ぐために、馬場さんなど、浜岡にお住まいの方の運動に連動して、共に行動しませんか。

「浜岡原発震災」を未然に防ぐには、「東海地震が起きる前に浜岡原発を止めることです。電気の大消費地である東京に住む私たちは、東京の区市町村の議会へ、「原発震災を未然に防ぐために、経済産業大臣に対して、『浜岡原発全機を一刻も早く停止するよう中部電力に対して勧告せよ』という意見書を提出します。陳情は一人でも、団体でも出せます。詳細については、「陳情を出そう！ 浜岡原発を止める会（世話人・PKO法「雑則」を広める会・電話〇四二二―五一一七六〇二 佐藤、〇四七―三九五―九七二七 小田）「へ」連絡ください。」

（二〇〇三年七月）

あなたの地域は安全ですか？

高レベル放射性廃棄物処分場に狙われた岐阜・東濃

兼松秀代

岡山県の人形峠（上斎原村）かみさいばら）以外に、国内でウラン鉱床がある地域をご存じでしょうか。

岐阜県の東部・東濃地域（多治見市・土岐市、瑞浪市、笠原町）は、美濃焼と呼ばれる陶器の産地です。そして日本で最大のウラン埋蔵地域です。この地域が、住民の知らない間に、高レベル放射性廃棄物処分場にされようとしています。これに対し東濃地域や岐阜の住民が一九九五年八月から反対運動を続けていますが、危機的な状況は今も続いています。その実情をご報告します。

原発にはトイレ（原発ゴミの高レベル放射性廃棄物処分場）がありません。そこで全国の全自治体に対し、多額の交付金と引き換えに、高レベル処分場の公募をしています。

あなたの地域は大丈夫ですか。この小さな記録が、お役に立てば幸いです。

寝耳に水の超深地層研究所計画発表

一九六二年、東濃ウランが発見され、旧動燃Ⅱ動力炉・核燃料開発事業団（九八年一〇月、核燃料サ

イクル開発機構に改組、以後「核燃機構」通称（核燃）となるが、ウラン探査を行なっていました。しかし海外から安くて高品位のウランが輸入できるようになり、国内ウラン探査は終了しました。

ウラン探査終了と前後して、八六年、（核燃）は、東濃地域で高レベル放射性廃棄物地下処分のための研究を開始しました。

私たちはこの調査を、九五年八月二一日、東濃の調査地域内の瑞浪市明世町月吉区つきよしぐにある（核燃）所有地・正馬様洞しょうばさまほらに直径六メートル、深さ一〇〇〇メートルの巨大な立坑を掘り、地震の研究などのほか高レベル放射性廃棄物地層処分研究のための研究所を建設するという新聞報道によって知りました。それまで（核燃）が高レベル放射性廃棄物処分の研究をしていたことを全く知りませんでした。自治体からも、（核燃）からも知らされていなかったのです。寝耳に水でした。

研究所計画発表の翌日、（核燃）と瑞浪市、（核燃）の事業所がある土岐市、岐阜県との間で協定の調印が予定されていました。協定は、議会や住民の説明を求める声、署名活動などで延期されましたが、国の予算編成にあわせて、もんじゅの事故で非難を浴びている（核燃）と自治体が同年十二月二十八日のご用納めの日に協定を結びました。

協定を待つてほしいという瑞浪市民約半数の請願署名は、議会によって否決されました。協定凍結の是非を問う住民投票条例直接請求提出直後の、強引な協定でした。協定では研究所は処分場にならない、研究所には放射性廃棄物を持ち込まない、使わないことになっています。

資料を入手、反対運動を重ねる

私たちは日本で最も地下調査が進み、しかも研究所と地層を同じくする東濃地域のどこかが処分場になる可能性が高いと考えて、研究所の建設に反対をしています。現に「核燃」は「処分場と研究所はセット」という内部文書を作成しています。この考え方は日本の地質の特性を考えれば当然のことです。

国は研究所の計画と処分場の計画は明確に区別して進めると言っていますが、区別されるのは計画だけで、地域が区別されたわけではありません。区別されたはずの二つの計画が同じ地域で進んでいるのが東濃です。

私たちは高レベル放射性廃棄物処分場に反対している岡山、北海道、原子力資料情報室などから資料を得、国や推進側の資料を入手して「核燃」の事業計画の危険性を、地域の人びとや議会に訴えました。

「核燃」は研究所の用地は取得していましたが、大型重機などを搬入する進入路の確保ができませんでした。雇用の拡大で、地域を取り込もうとする「核燃」、そして「核燃」に手を貸す瑞浪市の、さまざまな圧力にも屈せず、研究所建設地の月吉区の人びとは、進入路の測量すら七年間許しませんでした。

市長の画策で建設開始

こうして住民が拒んできた研究所建設を、二〇〇一年七月、瑞浪市長は、正馬様洞から約一・二キロ東南の瑞浪市有地に誘致することで一気に打開しようとした。「新たな交付金を得ること」が市長の条件でした。移転も極秘に進められ、住民は最後に突然知らされました。

市有地への誘致という事態に直面させられた市有地周辺の住民と市民団体は、移転地域の土地取得に関わる不明朗さや移転に関する賃貸借契約の問題点などを指摘し、議会で闘いましたが、体制を崩すこ

とはできず、今後二〇年間とする賃貸借契約は認められ、二〇〇二年一月市有地に移転しました。

国は瑞浪市を含む隣接一〇市町村（愛知県小原村を含む）に年間約一三・五億万円の交付金を交付するために電源三法交付金の規則を変えました。そして交付手続き期間を視野に入れた二〇〇二年七月、研究所は重機による沈砂池の建設をもって「着工」しました。立坑建設ではなく、交付金を与えるための儀式です。しかもその工事も準備が整わないからという理由で、着工式の午後埋め戻しました。二重のまやかしは交付金を交付するための儀式です。

そして「核燃」は、今年七月、立坑の建設を計画しています。内径が六メートルだったはずの立坑は、六・五メートルに拡大されました。処分場の立坑と同規模です。換気立坑も建設されます。立坑の五〇〇メートル、一〇〇〇メートルの地下では、高レベル放射性廃棄物の処分坑道さながらの水平坑道が建設され、今後十八年間研究することになっていますが、それで終わる保証はありません。もんじゅ再開の見込みのない「核燃」が継続できる事業は、放射性廃棄物の処理処分研究しかありません。東濃に居座るしか生き残る手だてがないのです。

研究所の地下施設は原子力発電環境整備機構（以下「原環」）が使うこともできます。さらに首長が承知し、形ばかりのステップを踏めば、精密調査のための地下施設として使うこともできます。精密調査地区での地下施設建設時期と、研究所の終了時期が接近しています。処分場の隣接地に研究所があることは「原環」にとつては最良の条件でしょう。時間と金を投入した東濃地域がありながら、公募があつたからといって別の地域に本気で処分場をつくらうとするでしょうか。公募は私たちには、ダミーに見えます。公募と言いつつ、申し入れを放棄したわけではありません。私たちは、ジワジワと交付金がらみで受け入れを迫られることを最も警戒しています。

情報公開で真実の情報を得る

私たちが「核燃」という存在に注意を払わなかったのは、うかつであり、責められてもしかたがないのかもしれない。でも高レベル放射性廃棄物処分のための研究をするとは知っていたら、岩手県釜石市のように研究所を拒否していたでしょう。ところが「核燃」は事業目的を隠して別の名目で調査していたため、私たちは反対はおろか、内容を知ることすらできませんでした。

〈動燃〉時代の数かずの不祥事により、〈核燃〉は情報公開を強いられました。

高い手数料を払いながらも私たちはやっと〈核燃〉の情報を入手できるようになりました。

情報公開を使つてさまざまな情報を得るなかで、私たちは高レベル放射性廃棄物処分研究に変更した早期から東濃に地下研究施設を建設する計画があったものと推察しました。そして最近、推察どおり「核燃」の一九八九年九月の理事会承認文書、「地層処分研究開発の考え方と進め方について」のなかに、地下研究施設の計画があったことを確認しました。またそれまで「地層処分研究」と言っていたものを意味不明な「地層科学研究」と言い換えたことも明らかにしました。

さらに、広域地下水流動研究という名目で一〇キロ四方という広い範囲を調査したのは、研究所の立地可能性調査のためであり、この調査は処分場の概要調査に匹敵するものであることもつきとめました。

秘密裏に進めた研究所計画の次に来るのは処分場づくり

この調査地域一〇キロ四方のほぼ中央にある、〈核燃〉所有の東濃ウラン鉱山では、放射性廃棄物ではなく、ウランやトリウム、ウラン鉱床を使って処分研究をしています。高レベル放射性廃棄物の容器やそれを覆うオーバーパックなど人工バリア材腐食実験、処分坑道掘削の試験も行いました。第二立坑という名前で研究所の立坑建設の練習も行いました。ところが岐阜県と土岐市などは、この立坑の一部を利用する第三セクター「㈱日本無重量総合研究所」を設立し、あたかも第三セクター利用が目的であるかのようにカムフラージュしました。東濃ウラン鉱山を含む一〇キロ四方は、地層処分研究の本拠地です。

〈核燃〉は住民に知らせずに黙って研究所計画を進めていました。黙って進める研究所の先に、私たちは「だまして進める処分場づくり」があると確信し、研究所の反対運動を続けています。

だれもが受け入れがたい高レベル放射性廃棄物処分場を受け入れさせるために、国、〈核燃〉、岐阜県は、大きな仕掛けをし、住民の目をそらしながら事業を進めていたことも、わかってきました。ただ、その仕掛けは社会状況にあわせて少しずつ形を変えながら動いているとみています。それほど高レベル放射性廃棄物は受け入れがたいものであることを、推進者は重々承知しているのです。

一九八〇年代、〈核燃〉は処分地選定と試験的処分を担っていました。その時期の八六年から八七年度にかけて、実際に処分候補地を選定していました。この事実には国会議員の質問主意書で初めて明らかになりました。そして情報公開請求により、具体的に全国十九道府県の五十数か所が処分候補地とされていた事実も明らかになりました。同目的の他の報告書では約五七〇地点が処分地選定のために調査されていたことが判明しました。しかし〈原環〉は、報告書は使わないと言っています。税金で行なった過去の調査は公開して当然なのに、〈核燃〉は公開すると自分たちの信頼が損なわれるなどとして、地名

や、地名を推測させる記述はすべて非公開にしました。五〇万分の一の地図まで白抜きです。岐阜県は四地域が処分候補地に上げられていました。「核燃」のこの情報は、当然公開すべきものとして、私は、情報公開取消訴訟を闘っています。

地下水を介して人間を脅かす核廃棄物

ところで長年調査した東濃の地下は、どうなっているのでしょうか。そして高レベル放射性廃棄物地下処分にとつて最も問題となる地下水は、どのようになっているのでしょうか。

東濃は、地下深くから隆起した花崗岩が基盤岩です。花崗岩は地上にも露出し、多くはひび割れて亀裂が走り、雨水や雪がしみ込み風化しています。亀裂には草や木が生え、大雨が降ると崩落することがあります。そして東濃は赤河断層、屏風山断層、木曽川に囲まれた地域です。

地下の様子を知るには「核燃」が実施したボーリング・サンプル（コア）を見ることが有効です。地下も断層が走り、断層破砕帯では花崗岩がコナゴナに砕かれています。もっとひどいところは、ボーリング・サンプル採取のために使用した水でコアが流失してしまい、採取できない場所もあります。コアの中には地下水が流れ茶褐



色に変色した部分もあります。

「核燃は、「東濃の地下水の動きは非常にゆっくりで、一年間で三センチ程度、ハワイが日本に近づく速さだ」と説明します。地下深いほど流れはゆっくりになると想定していました。しかし東濃のボーリング孔で実際に地下水の流れを観測したところ、地下深くでも、断層破砕帯では流れは速く、年間五〇メートルという観測結果を公表せざるをえなくなりました。場所によつてはもつと早いことも予想されます。地下処分した放射性物質が地下水を介して、人間の生活圏を脅かす可能性は十分考えられます。東濃の地下が特別悪いのではなく、地殻変動帯に位置する日本の地下は東濃と同様だと思っています。

ところで、高レベル放射性廃棄物に含まれる放射性物質は毒性がとて強く、ガラス固化体一本で広島型原爆の三〇発分の毒性があると言われています。また、プルトニウムの半減期は二万四千年、ジルコニウム九三万年、ネプツニウムは二一四万年など超長寿命核種も多く含まれています。こうした放射性廃棄物が地下水とともに移動し人間の生活圏を汚染する可能性が考えられます。それだけではなく、ガラス固化体の搬出搬入、輸送、オーバーパック封入作業、処分坑道移動時の事故など、つねに危険と隣り合わせです。アメリカでは使用済み燃料の移動でさえその危険性を「モバイル・チェルノブイリ」と表現しています。

住民が知らない間に進む処分場への道——公募

日本では原発の使用済み核燃料を再処理してプルトニウムを取り出した後に残る死の灰、高レベル放射性廃棄物を地下三〇〇メートル以深に埋め捨てる法律（「特定放射性廃棄物の処分に関する法律」）

「最終処分法」が二〇〇〇年五月三十一日成立しました。法案は衆参あわせてわずか十日間の審議でした。多くの国民に知らせないまま成立させました。

この法律を基に設立された処分実施主体（原環）は二〇〇二年十二月、全国のすべての地方自治体を対象として、処分場の公募を開始しました。平野、半島の突端、山岳地帯などの区別なく、高レベル放射性廃棄物の処分候補地です。青森県、岐阜県、北海道など、科学技術庁長官が「知事が受け入れないと言っているから、処分場にしない」という主旨の回答文書（通称確約書）を出したその道県の自治体も、処分候補地です。

処分場は大まかにいって活断層の上と火山から半径十五キロの範囲を避けられよいとされています。

皆さんの自治体は処分場に応募するでしょうか。皆さんは高レベル放射性廃棄物の処分場を受け入れますか。全国世論調査会の二〇〇一年調査では、地下処分に反対が六七・四％、自分の住む地域に処分場は嫌だと考えている人は九〇％でした。

応募は首長の署名と押印で可能です。原環以上に多額の交付金がついています。少数者の水面下の工作や検討で応募してしまったら、住民は外堀を埋められてから知らされることになり、熾烈な闘いを強いられます。処分場を受け入れないように、積極的に働きかけてください。

いま（原環）は、「アメリカやフィンランドでは処分地が決まった、日本でも応募してほしい」と宣伝しています。アメリカやフィンランドはどのようなところを処分場を選んだのでしょうか。地質は日本と似ているのでしょうか。国民やその地域の住民はどのように考えているのかなど、ぜひ確認されることをお勧めします。

私は危険と隣り合わせの原発をこのまま続けていくのか、使いみちのないプルトニウムを取り出すた

めに、海を、空を、そして大地を、放射能で汚す再処理を許すのか、究極の核ゴミ・高レベル放射性廃棄物を目に見えない地下に埋め捨ててよいのかなど、岐阜県東濃が直面している問題を通して国の原子力政策を問いつづけていきたいと思っています。

兼松秀代（かねまつ・ひでよ）一九四八年 新潟県生まれ。岐阜県岐阜市在住。教員退職後、生活協同組合の平和・環境活動に参加。瑞浪市の

超深地層研究所計画を知って研究所建設と処分場反対運動を続ける。（放射能のゴミはいらないー市民ネット・岐阜）の代表。高レベル放射性廃棄物処分と、超深地層研究所問題を中心としたホームページ<http://www5b.biglobe.ne.jp/~rengen/>『れんげ通信』を発行。

著書『明確に区別』できないー超深地層研究所と高レベル処分場（私家版）、『だまして進める高レベル処分場づくり』（核のゴミキャンペーン発行）、共著西尾漠編『原発のゴミはどこにいくのかー最終処分場のゆくえ』（創史社）、共著西尾漠編『原発ゴミの危険なツケー最終処分場のゆくえ2』（創史社）

応募書

年 月 日

原子力発電環境整備機構
理事長宛

市町村名
市町村長の氏名

高レベル放射性廃棄物の最終処分施設の設置可能性を調査する区域について、下記のとおり返答します。

記

1. 応募する区域

2. 連絡先

- (1) 郵便番号
- (2) 住 所
- (3) 連絡者の所属および氏名
- (4) 電話番号
- (5) FAX番号

3. その他特記事項

この紙一枚で、住民の知らぬ間に応募されます。

原発怖いよ！

思わず世界を駆けめぐること

竹野内真理

一九九九年、「コンピュータ二〇〇〇年問題」に関する講演会で、実験中に被曝した米国人女性が原発に反対する話をしました。「原発で事故が起きたら、この世の生きとし生けるものの、世代を超えた生命の輪が断ち切られてしまう」。この時私は自分の知らなかった脅威の存在に心底ショックを受けました。その講演記録を翻訳しながら、自分でも驚くほど涙が止まりませんでした。

そして気がついたら無我夢中で行動していました。大まじめに、「原発問題は、市民団体の枠を超えて世に知らしめ、あらゆる階層の人が当然取り組まねばならない問題」と、原発を持つ世界各国の大使館に資料を送り、関連する会社や機関に電話をかけ、ビルゲイツやマイケル・ジャクソンまでを含む有名人名にも手紙を送り（滑稽でしょうけど）、知り合いのついでで当時の小渕首相の秘書や内閣官房危機管理官にまで話しに行きました。「馬鹿言うんじゃない。日本の原子力の技術は高く、絶対に安全」というようなお返事を頂いてから一か月ちょっとでJCO事故が起きたことを記憶しております。

その頃、「日本国内ではちがあかない、脱原発を模索するドイツなどの欧州諸国に直接働きかけてはどうか」と、知り合いになった活動家に勧められ、単独で欧州に行くことになりました。英国、オランダ、ドイツ、ベルギー、ルクセンブルク、スイス、フランスの七か国を訪れて、各地でさまざまな個人

やNGOなどの団体に連絡を取りました。

オランダでは、現地の活動家とともにNATOの軍事基地にある核兵器に反対する抗議行動に参加し、面白がりながら金網を乗り越えていたら、みんな仲良くプラスチックの手錠をかけられ、逮捕されました。もちろん逮捕されるなんて生まれて初めての経験ですが、何も悪いことはやっていないという気持ちでまったく気になりませんでした。拘留所のようなところに入れられましたが、そこでは、ひとりひとり話したい人が立って演説を始めていました。私もこの時、「日本は広島と長崎を経験し、放射能被害の恐ろしさを知っている。しかし、核兵器だけでなく、より放射能を大量に含んでいる原発も、同時に皆で反対して世界の原発を止めるべきです」と、生まれて初めて政治的な話を人前で話していました。初めての演説が軍の拘留所の中というのも、かつこうがつかない話ですが。

その後ベルギーのマザー・アースの活動家に会ったのはラッキーでした。欧州議会の緑の党の政治家やエネルギーの専門家を紹介してくれ、私の持参した資料を、なんとたった二日間で決議案にしてくれたのです。面白いことに、この人も、実はこの問題をたいそう気にしており、「なぜ欧州議会の誰一人として騒がないのか不思議だった。自分は家族と一緒に危険な時期に離れ小島で休暇をとるつもりだ」と言い、私がこの資料を持ってけしかけたことを歓迎してくれたのです。この時ほど形式ばかり重んじる日本の官僚的なシステムと、市民の声に耳を傾け、迅速に行動に移すヨーロッパの政治との違いに驚いたことはありませんでした。

緑の党のエネルギー担当者は言いました。「さあ、今度は君がすべての政党に資料を持参して説得しに行きなさい。緑の党の政治家が与党の政治家に働きかけても聞いてはくれないから、君がすべての政治家を廻るんです」。そういうことで、私は知らない間に生まれて初めてのロビー活動をしていました。

このとき与党のキリスト教民主主義党のエネルギー担当者は、私の持参した資料の内容について、「原発と二〇〇〇年問題でこんな危険性があつたなんて知らなかった」と驚きました。私にとつては保守党のエネルギー担当者のこの言葉も、非常に印象的でした。保守的な政治家や官僚は、どんなに大きな問題であつても、単に正しい情報が届いていないだけで間違つた政策を行なっていることがままあるという事です。もちろん共犯者や確信犯はいるし、そういう場面も私はじかに見てきていますが、少なくとも知らない人も大勢いるはずです。

このことを考えると、私はやはり、政治的な諸問題はあきらめるべきではないと思っています。上に立つ政治家や官僚が勉強不足で世の中が大変な方向に進んでおり、正確な情報を提供することで彼らが気づく可能性はありうるからです。この時の決議案は、「コンピュータ二〇〇〇年問題で原発に不具合が生じ何らかの事故がおきたら大変なので年末年始には原発をすべて休止せよ」というもので、そして驚くことにこの決議案は二か月後に、与野党満場一致で可決されました。

しかし、考えてみれば「日本では、このような問題よりも何よりも、大地震で事故がおきたら大変だ」とこの時から思うようになりました。地震は交渉の余地がありません。戦争勃発を防ぐより大変な話です。今も私はこの問題を考えると、暗澹たる気持ちになります。時には日本にいたくないと思うこともあるくらいです。

実はほんの先日、中部電力の株主総会に出席しました。市民の人たちとともに、地震と原発の危険性について、細かなデータも出しながらかなり具体的に質問しましたが、経営側ばかりか株主たちも、挙手の段階になると、まったく反応してくれませんでした。中部電力は一五〇年ほど前に起きた過去最大の地震である「マグニチュード八・四の安政の大地震のデータを基に計算しているから絶対安全です」

というのですが、今回いつ起きてもおかしくないといわれる東海地震は直下二〇キロで起きる地震です。ところが、この安政の地震の計算は、地震の起きる場所を遠くに設定しています。耐えられる最大加速度は六〇〇ガルですが、阪神以来、岩盤上でもそれ以上の数値は出ているし、それに地震がなくても事故を起こし、ヒビが割れている原発が、人知を超えた自然災害に、どうして絶対に耐えられる、と言えるのでしょうか。経営陣の回答を聞き、株主の無感動の様子を見て、私は「もう間に合わないんだろうなあ」と感じ、涙が出てきてしまいました。

地震と原発の問題について、ほかにもとても印象的な出来事がありました。二年ちよつと前に、筑波で開催された地震学会に出席したときのことです。そこには日本全国から数百人の地震学者が来ていました。この時、質疑応答の時間があつたので、私は会場から勇気を出して次の質問をダイレクトに投げかけてみました。「今の平均の大きさの六分の一の原発が重大事故を起こしたとき、避難する人の数は一、七六〇万人、国家予算の二倍以上の損害額がでて、国土の四〇％が農業ができなくなるほど汚染されるという試算がここにあります。地震学会としてはこの国民の命に直接かわる問題にどういう見解をもっているのか、またこの問題に関して何か行動を起こす予定はあるのですか」と。

すると、一番初めにそれに答えた学者は「原子力発電所は地震が来ても絶対に事故がおきない設計になっていきます」と答えました。地震がなくとも原発で事故は頻発しているにもかかわらず、なんといい加減でひどい学者だろうとあきれた瞬間、会場から「なんと無責任なことを言うのだ」という意見が続出しました。それまで眠たげだった学会が一気に盛り上がり、最後には当時の地震学会会長であつた入倉先生に意見をその場で求めることになりました。「この問題は見直しが必要である」というのが入倉先生の最終的な見解でした。本当は地震学会としてこの議論をより発展させ、実質的な行動につなげてくれ

なければ、人命が奪われてしまうかもしれないのに、すべての地震学者たちが、この問題に一刻も早く真剣に取り組んでくれれば、と願いました。

もうひとつはちょうど去年の今頃、私が単独でIAEA（国際原子力機関）に行ったときのことです。当時原子力資料情報室の国際担当として働いていた私は、「九月十一日以降の原子力政策」という国際会議に参加していました。そこでIAEAの副事務局長のアメリカ人にお会いし、「地震と原発」、特に「浜岡原発と東海地震」のことについて訴えました。すると意外なことに、彼は「私は七年ほど前に日本に行ったことがあります。その時、大きな地震がありました。あなたがこの問題を恐れることは、よく理解できます。IAEAに来ることがあれば、アポを取って差し上げます」というではありませんか。実際、IAEAでは五人ほどの人たちに会うことができました。原子力安全部の人には三人会いました。安全部長の方は元通産省の方で、私の言い分に対し、安全だとも安全でないともコメントはなく、面白いことにご言いました。「あなたはこういうことをやっていて、生活は大丈夫なのですか？」と。反原発をやっていたら、生活が危うくなるということは、推進側がよくわかっていることです。

さらに面白かったのは、かつて私が企業通訳をしていたときの同僚で、元IAEAのインターンをやっていた知人の上司に会ったときです。この人は原子力業界で二十年以上働いてきた人で、核物質保障措置部門の人です。知り合いの知り合いということでバーカウンターでビールを飲みながら、残業のすむのを待っていました。その甲斐があつてか、この方は大変さつくばらんに語ってくれました。

「竹野内さん、この問題はね、問題が大きすぎて誰も手がつけれないんだ。仮に日本で大事故があつて五百万人が死んでもあきらめるしかない」。私は心底ショックを受けました。「え、それはひどいですよ」となるべく冷静さを保ちながら、「しかし日本がそんなことになったら、産業側が一番大事にしてい

る世界経済が破滅してしまうのではないですか」と、聞いてみました。彼は答えました。「そんなことはないでしょう。日本は輸出大国だから、ライバルがいなくなつて、かえつて経済に活気がつく」

「それはひどい。ところでご家族は、日本にはいないのですか?」「いや、僕の家族はみんなウィーンにいます。日本の人たちはよく怖がらずに生活できているなと思つていますよ」「でも、まだ事故は起きていないんです。間に合わないかもしれないけれど、やるだけのことはやりたいんです。そうでなければ事実を知っているものとして、未来の子供たちに申し訳が立たないではないですか」

私は正直に話してくれた彼に感謝しています。しかし、原子力の推進側にこのように言われ、「ああ、やつぱりそうなのだ。私が単に心配しすぎているのではないのだ」ということを確認させられた感じで呆然としてしまいました。この方には繰り返し、どうか協力してIAEAの内部で広げてほしいと頼みましたが、彼はすまなそうな顔をして、次の日も私を部屋に一度招いてくれたものの、この件についてはコメントせずに見送つてくれました。

去年の十一月、私は柄にもないのですが、松戸市議会選挙に立候補しました。初めはひよんなことから松戸の市会議員と千葉県議会議員から「立候補してみないか」と持ちかけられたのですが、私がとても頑固に「原発のことが最優先事項です」と言い張つていたら、そのうち話はなくなつてしまいました。その後、たまたま青森の再処理工場反対運動をしている人にその話をしたら、「原発のない消費地の人たちがこのことを考えてくれるのは非常に大事だ。ぜひ、出てくれ」と言われました。一般の人に七三五枚の選挙ポスターを手渡し、松戸市住民の全戸に原発と地震の危険性について訴えるチャンスと考えれば、やる価値も少しはあるかもしれないと思いました。実は家族の猛反対などあり、かなり神経の擦り切れる思いをしながら、何度も「やる」「やめる」を行き来しながら、ぎりぎりになって出馬しました。


結果は、当選ライン一、七〇〇票のところを九〇〇票でしたが、とりあえず供託金を取られずにすんでよかったと思っています。とはいっても、世論が動いて原発が実際に止まるまでにならなければ、どうしようもないと思います。IAEAの人も言っていました。「日本全国の人びとがみんな気づくくらいにならなければ、原発は止まりませんよと。それで決死の覚悟で立候補したのですが、もう少し広まってくれてもよいのになあと、正直がっかりしています。

ただ、つい先日ですが、原発震災のことを広めるための明るい兆し（暗いニュースでもあるわけですが）も出てきています。いま札幌では国際測地学・地球物理学連合総会が開かれており、七月二日の朝日新聞に元地震予知連絡会会長の茂木清夫さんの「浜岡原発、きわめて危険」という警告が出ています。このような記事が全国紙で専門家の意見として出たのは、これが初めてではないでしょうか？そして同様にこの学会で、神戸大学の石橋先生が、「原発震災……日本列島における地震と地震に誘発される原子力事故による複合的過酷災害」という論文を発表され、これが七月七日の記者会見のメイン・トピックになることが決まりました。これは大変なことです。つまり、この日本の存続にかかわる問題に、ようやく国際的な学会およびメディアが注目を集めるための最大のチャンスがやってきたということなのです。もちろん当然、このニュースは国際ニュースのトップとして扱われるべき内容です。それにもかかわらず、今までほとんど注目されてこなかった問題でもあります。この問題が、手遅れとなる前に、将来の命と環境が破壊されてしまう前に、世論が高まってくれ、実際に原発が止まってくれることが、私のいま一番の願いであり、これに向けてやれるだけのことはやろうと思っています。

竹野内真理（たけのうち・まり）翻訳・通訳をしながら、原発や平和運動で活躍中。（あこら）会員、元原子力資料情報室・国際担当 元イラク大使秘書

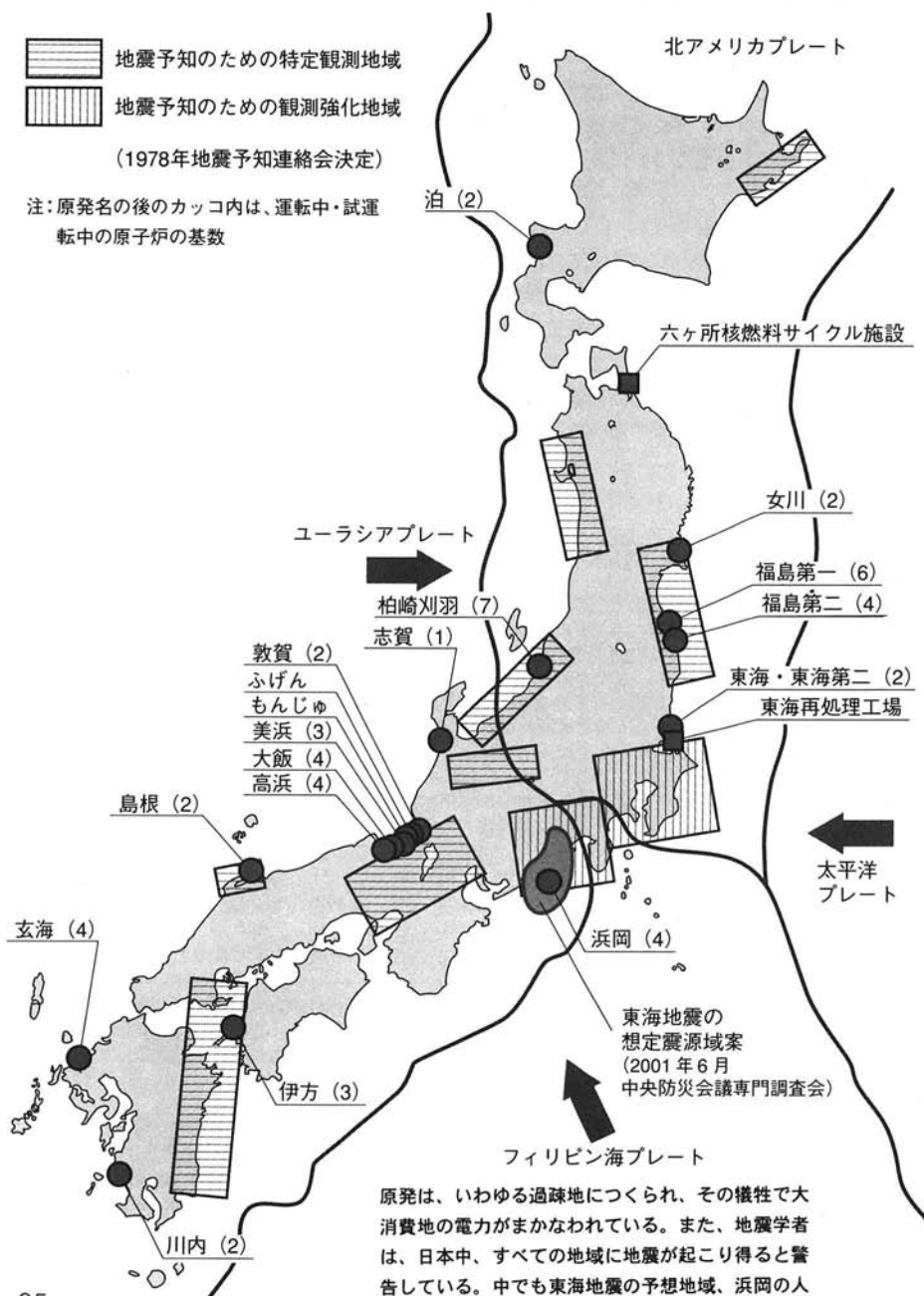
原発・核施設と地震観測地域

 地震予知のための特定観測地域

 地震予知のための観測強化地域

(1978年地震予知連絡会決定)

注：原発名の後のカッコ内は、運転中・運転中の原子炉の基数



原発は、いわゆる過疎地につくられ、その犠牲で大消費地の電力がまかなわれている。また、地震学者は、日本中、すべての地域に地震が起こり得ると警告している。中でも東海地震の予想地域、浜岡の人びとの不安は深刻だ。

脱原発・ドイツに学ぶ

奥平せい子

アメリカ政府は大量破壊兵器を無くするために大量破壊兵器を大量に使うというナンセンスを当然のように行なっている。打開策はまだ残されていたし、その可能性に続投せずに武力行使に突入したことを「怒っている市民」の私も一人だ。それで大量破壊の兵器が見つからなかったらどうするの？と多くの人は腹の中で思っているに違いない。

九〇%の国民が戦争に反対したスペインも、すばらしい反戦デモの拡がりを見せた英国も、アメリカと同様、政治家の質の低さを露呈している。それに比べて三月二六日付『朝日』夕刊に寄稿されたギンター・グラス氏のイラク戦争に対してのエッセーは強い印象を与えるものだ。氏は「大多数の市民が戦争を拒否したことに誇りを持つ」と記し、それはドイツ市民が二つの世界大戦を経て、「大変困難なことではあったが、歴史から学習し、われわれに課せられた教訓を理解した」との顚れであり、それに応えて首相、外相が、勇気をもって主権行使したことに謝意を表していた。「彼らはすべての内部からや外部からの敵視や中傷をもともせず、信頼できる姿勢を貫いてくれた」と。日本の代表者が日米同盟体制を「国益」とする発言に終始したことを許すわけにはゆかない。エネルギー政策に於いても、日、独には格段の差がある。三月二二日、グリーンピース・ジャパン主催「ドイツに学ぶ原発をやめる道／コストの視点から考える」講演会があった。

ドイツ連邦政府が二〇〇二年二月「脱原発法」を施行し、二〇二一年全廃の見通しのもとに、原

発の寿命を稼働開始から三〇年程度として順次廃棄し、新設は認めない。使用済み燃料の再処理（英・仏の再処理施設への依頼のもの）は二〇〇五年六月以降は輸送禁止、公共の道路は使用できないなど段階的に着手を始めたことは新聞紙上でキャッチしていたが、具体的情報にはなぜか乏しかった。それだけに、今回のエコ研究所（一九七七年創設、再生エネルギーの利用、省エネ工学の問題を調査研究し、その経済的分析も行なっている）上級研究員クリスチャン・キュッパース氏とグリーンピース・ドイツのスペン・テスケ氏（再生可能エネルギー担当）及び國學院大學経済学部教授菅井益郎氏の講演は、切迫した問題を抱えながら、なぜ世界世論に背いて日本は原子力推進強化策をとろうとするのかと問い、原発廃止へ転換させる可能性をさぐる示唆に富むものであった。

例えば日本原燃の財務状況（二〇〇二年六月有価証券報告書より）は、年間売上げ五七〇億円に対し、長期借入金約一兆円、支払利息二三五億円、再処理前払い金、六、九九一億円という破綻を示しているし、全体の借入金は六〇〇兆円にのぼっていることを考えると、原子力エネルギー行政への私たちの不信と疑惑は大きい。悪名高きラ・アークやセラフィードからの報告で、私たちがその危険性を恐れている六ヶ所村再処理施設の試運転が近づいているとき、私たちはそれを阻止することで脱原発への道を選択したい。省エネと再生可能なエネルギー推進の政策と施策（予算の振り分け、制度の整備など）の実践へ踏み出す「時」を、もはや先延ばしにしてはならない。

キュッパース氏によると、ドイツ国民の六〇％が「原発ノー」の意見を持っているので、脱原発社会への理解と意欲が定着してきているという。「地球規模の未来社会へのまなざしが醸成されつつある国」というイメージは私たちの希望なのだ。

コストの視点からの図表説明は実にわかりやすかったし、これなら誰もが考えていけると思った。原発には、きわだった経済的優位性がないことを、はつきりと説明し、二〇〇五年をメドに政略シ

ナリオを描き、さらに技術的可能性に基づいてポテンシャル・シナリオを付加してゆくという二重構造で図表は描かれている。再処理をやめる理由も、環境汚染のほかに、直接処分比べて大幅にコスト高であることも説得力があり、何よりも脱原発をめざした時点で再処理施設など不必要になるわけだから、チェコ国境のヴァツカースドルフでは、ほぼ完成していた再処理施設を自動車内装部品や掘削機メーカーの工場に変身させ、雇用率は再処理施設の想定を上回っているという。オランダ国境の村、カルターでは、高速増殖炉の操業をさせず遊園地「核と水のワンダーランド」の建設地として利用されている。いずれも六ヶ所村同様貧しい地域であった所で、森は伐採され、施設が建てられたりしたが、それはそれで地方経済の貢献になっている。

テスケ氏の講演は主にグリーン・エネルギー協同組合の設立と電力市場に関したもので、グリーン・エネルギーの可能性と現代的な消費者の在り方に未来への抱負が窺われた。なるほどと面白く聞いたのは、脱原発に伴い関連産業が活性化していく繋がり方、例えば省エネと建築材料や設計、風力タービンの改良（今やドイツでは産業としての進出が大きい）、地域的な小型水力発電所や新しいタイプの太陽光発電所など。日本の政策が脱原発の決断をしたなら、身動きのとれない現在をうち破って、科学の分野は理念に基づいた多様な展開を繰りひろげる活動を想像したい。

菅井氏は原発の深刻な現状を怒りをこめて分析された。土地買収費、建設費、長距離送電の費用、修繕費、廃炉解体費用、放射性廃棄物の処理処分、自己安全対策費の増大、それにテロ対策費まで含めて巨大にふくれあがっていくばかりのコスト。危険な放射能の捨て場がこの狭い国土には「ありません」と。

ここまできても「グリーン・エネルギーの脱原発社会を創りたい」という声は大きくならないのだろうか、この国では。

東京の都心にも風力発電

高さ四四メートル、羽根の直径五二メートル。

強い潮風を受けて、勢いよく回る風力発電装置。

東京都心、お台場付近に、今年三月から稼働開始！

この二基で年間約二五〇万キロワットアワー。

一般家庭八〇〇世帯分の電力をまかいます。

デンマークは早くから風力発電を導入、原発はゼロ。

奨励金で個人の家庭に据え付け、

電力の供給で家計をうるおしている家もあります。

日本も最近、国産機がどんどん改良され、

小型で高性能、格安の装置の開発も進んでいます。

ビルの屋上などは、どこでも強い風。

絶好の設置場所かもしれませんね。

原発をなくせ！と叫んでも、

政・財・大労組、暴力団までが組んでいる現状では、

容易なことではありません。

事故隠しで、多くの原発が休眠中の今こそチャンス。

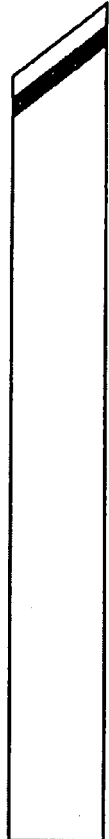
自然のエネルギーを電力に活用しませんか。

風は年中無休。年中無料。排出物も全くありません。





意見
異見



〈お土産つきの子ども原発ツアー〉を市議会で質して 小川みさ子

鹿児島市議の小川みさ子です。突然にこめんない。

助けて下さい！九州電力社員の議員から不当な攻撃を受けています。傍聴に来て下さい。

七月一日午前十時から議会運営委員会が小川みさ子追及第二弾のために開かれます。〈無料バス・お土産つきの原発見学子どもツアー〉について、質問し、私見を述べたことで、思いもかけぬ言いがかりをつけられたのです。

私は、大ベテランの富久尾・東京都武蔵村山市元議員や鹿児島大学の橋爪先生、それに、反原発・脱原発・環境派の市民たちに電話で相談した結果、「何もおかしいことを言っているわけではなく、九電が変なことをしているのであって、言いがかりをつけられる筋合いの問題ではない。こ

し、間違ったことをしているのが浮き彫りになるだろう。恥ずかしいのは九電のやっているとなので頑張るように！」と激励を頂き、議会に一人座り込んでいる気持ちで貫いているところです。

とはいえ、たった一人の闘いです。どうぞ傍聴にいらして！こんなことで税金の無駄遣いをしている議会の現実を見てください。

コトの次第をもう少し詳しく述べましょう。

六月議会の個人質問で、市長に原発や新エネルギービジョンの質問をした中で「原発現地への児童生徒の遠足と交通局のあり方」について質問し、関連して「原発推進のためには、子どもたちまで、無料のバスやお弁当、そしてお土産でだまさないかならないか、と情けなくなりました」と私の意見を言ったところ、九電の議員（九電社員でもあ

る議員)が「何を根拠にだました!と言っているのか。事実関係をはつきりせよ!」と、五日後の議会運営委員会(以下議運)で問題提起をしたのです。そこで事実関係として、市民から聞いた声を伝え、「これは私の意見でもありません!」と言いました。

これに対し、「川内原発を視察した後、九電が『推進派になるように!』求めているとでもいうのか?」と九電議員は私に質問。そこで、「推進派になるようにとおっしゃるほうが、むしろ正直でいいと思います。市民が感じ、私もそう思ったことを代弁して質問しているつもりです」と回答すると、申し合わせたように「質問の前に意見をいうのは、議会規則五四条に抵触する」などの攻撃が始まったというのがコトの次第です。

質問の前に、事実関係のないことを持ち出して質問したのなら別ですが、関連事項の意見を言ったり、前語りをし質問をするのは当たり前のことです。私の場合、事実関係に關しての思いを短く述べ、交通局長への質問へ結びつけています。これは、よく本会議で議員たちが行なっている手法なのです。

九電がたくさんのPR費を使って宣伝している(原発見学

ツアー)のお誘いに対し、児童・生徒の遠足には不向きである旨、教育長にせまり、昨年から、待った!をかける質問をあれこれしていることに対する応酬だとは思いますが、私はたとえば懲罰!と脅されたとしても頑張り抜く決意です。

以下は議運で配付された、私の個人質問会議録の抜粋です。これを議員たちが見て、「ルールルール!」と叫んでいるのです。長いですが、ぜひ読んでください。そして、ご意見をお知らせください。

【個人質問会議録から】

(みさ子質問)

只今のご答弁で、川内原発の環境調査について、市長は、「知事が自らの責任で総合的に判断された」と答弁されました。また、知事は、一昨日の県議会でも「環境調査の受け入れは、原発を是認・理解することではない」と、切り離し論を強調されたようですが、(環境調査をして建設されなかった原発)は、全国的に例がないとのこと。子々孫々への責任を須賀知事が引き受けるというのでしょうか?

環境調査には、これから三年かけて、百億円もの巨費を

使うというのです。これは、鹿児島市のホテルがすでに稼働させ、イメージアップにも成功している風力発電なら三〇基以上も設置できるという額です。それだけに知事のゴーストに対して内閣府原子力委員会専門委員の吉岡齊・九州大学・大学院教授は、「細管破損事故の翌日に諒承するとは」と絶句され、「安全審査への信頼性は現在も揺らいでいる中、最悪のタイミング」「志が低くて情けない。原発増設は多くの負担を残すもので環境調査受け入れは国民への背任」と厳しく批判されました。

それぞれの局長がご答弁下さいましたように、新エネルギーへの転換の検討と省エネは、（時の要請）だと思います。本市の公共施設も太陽光が外灯などだけではなく、本格的に導入されることを期待したいと思います。

次に、このテーマの最後の質問です。昨年の九月議会で原発への児童生徒の遠足などを質問させていただきましたが、つい最近、前年度の児童の遠足で美山の竊元への見学が決まり、女性教師が市の交通局と私鉄にバス手配の連絡をとったとき、電話窓口で対応された方から「提案をさせてほしい。原発は賛否がありますが、ぜひ川内原発に行つて、実際に見学をしてみていますか？」お弁当もバス

代も無料になりますよ」と勧誘されたそうです。原発推進のために子どもたちまで無料のバスやお弁当、お土産でだまさないやならないのかと、それこそ情けない思いになりました。市の交通局でも、このようなことがあるのか、お示し下さい。以上、ご答弁を求めます。（傍聴問題になった箇所）

（交通局長）

お答えします。交通局の貸し切りバスにつきましては、お客様が決定された旅行日程等に従ってバスを運行しております。その際、お客様から目的地付近の主な施設や観光地についてお尋ねがあればお答えしておりますが、局のほうから特定の施設等を勧めることは、いたしていないところであります。

（みさ子質問）

交通局のご答弁に安心致しました。この小学校では、女教師が勧誘されたメモの内容を、横から見た教頭先生が、驚いて指導、原発への見学は免れたとのこと。まったく、油断もスキありません。

また、原発は、事故や地震の危険性ばかりでなく、（原発

テロ」という新たな危険性もでてきました。「有事法制」を備えたばかりに原発がターゲットにされ、憂いを招くというわけです。鹿児島県警と海上保安本部が、先頃、国内初の大規模テロに備え、連携強化を図るため、川内原発警備の共同図上訓練を県警本部で行なったことを報道で知りしました。核のゴミも溜まる一方で、原発があるかぎり、私たちは安心して暮らせないことを実感します。平成十三年度決算では、率先行動で谷山支所や美術館なども節電効果が見れておりましたが、市庁舎でも窓を開放放つて職務に精出されている光景をよく見かけ、その努力には、敬意を表しております。節電、省エネは一人からでもできる地球温暖化防止対策で、脱原発でもあります。本市策定の新エネルギービジョンのカラーページは、かごしま市民共同発電所の展開など、新しい時代の到来が感じられ、何度、開いてもワクワクします。子どもたちの未来のためにも持続可能な分散型エネルギーの時代がやってくることを希望し、次の質問に入ります。(後略)

市民から、そして全国からの熱い応援

七月三日。応援下さった数かずの皆さま、心ある皆さまへ。――針のムシロも、市民の支えで乗り越えていきます。ご心配かけました。今回、本会議での個人質問の時よりも多くの傍聴者の方がかけつけて下さり、一緒に不当攻撃に対して座りこんで下さっているような雰囲気、励まされました。用があつて行けないけれど頑張つて！とお電話だつたり全国からのメールも頂き、徹夜覚悟の主婦とか私の送信FAXを手にするなり、原発周辺市から走つて来て下さった牧師さんはじめ、見えないエールにも助けられて貰うことができ感謝しています!! 不当懲罰日本一で訴訟まで起こっている門真市の戸田市議にもアドバイスをしました。改めてお礼を申し上げます。

多くの、見知らぬ市民からも「鹿児島市日当平の六月二二日の老人会の原発見学にも、保育園児、小学生、中学生等も参加していますよ。あなたの言っていることは、間違っていないよ。このことも貴方のお役に立つのなら、本当のことですから調べて言つて下さい」などなどのお電話。意外な反応です。そういえば、昨年は地引き綱に誘われて、原発見学に連れていかれた子どもたちもいました。

今回、問題になった小学校の「原発遠足」に待った！をかけた教頭先生は、その校区の主婦たちからの株が上がっています（意外！）。

九電の議員は継続して私を追及していく姿勢を表明して、六月議会は昨日で終わりました。私にどんなつもりで質問したのか、九電に確認して質問したのか、通告を逸脱してはいないか？等々と、しどろもどろになりながらも、追及を続ける九電の議員に対して、私は一貫して「参考資料で提出されている本会議の会議録を見てご理解ください」の一点張りを通しました。一週間前の本会議場での個人質問での発言を、さもとんでもないことでも犯したかのように、「小川議員の自分への答弁は誠意がない！」なんて怒っている九電の議員。答える必要もないことを聞かれて、うんざりの私。あまりにバカバカしい議会のやりとりを、わざわざ日当つきで開いている委員長や議長にも市民からブーイングの嵐。私が個人質問をした背景や思いを、九電の議員が法的な議会の場でいちいち説明を迫ること自体、言論封じこめの侮辱でバカバカしいことなのに、そのことに待った！をかけられるリーダー議員がないということも情

けないと、傍聴者たちの怒り。「今後も追及する」と言った手前、手を変え品を変え、重箱のスミツツきのためのネタ探しをしているようで、昨日は市交通局を議会に呼んでいたようです。たまたまバッタリ会った私に、逃げるようなバツの悪そうな市交通局幹部の対応が気になりましたが、「ここもやはり、ミニ永田町」と実感する毎日です。

「九電の議員は、お抱え議員として、『原発に対していつも問題提起している小川の、揚げ足取りや嫌がらせをしている』という姿勢を企業側に見せないと、それこそ九電から送り込まれている存在意義を問われ、評価されないと思っているでしょうね」と傍聴者たち。

私自身、追及されながら、そんなに余裕がある場面ではなかった議会中の尋問でさえ、九電の議員の御用議員ぶりが、哀れに見えて仕方ありませんでした。

こんなことをしてまで（九電に忠誠を尽くしている）という姿勢で、〈命よりお金〉（命より核）を、立場上？通さなくてはならない議員、利益誘導のためにがんじがらめになっている議員に対して、怒りを通りすぎ、心底、悲しくなりました。



命が大事を貫く活躍!



市議会初の無所属女性議員に

読んでください! みさ子の本!!



生まれて初めて絵本も出しました

しかしながら、このような会議で議員報酬以外に、日当八千円がペイされるわけです。市町村合併特別委員会も返上して、市民にとっては二重、三重の損害。市民の生活感覚のないある議員は、この日当についても「たった八千円だ」と市民感覚不在。そして、「お金のことを持ちだす小川

議員はハシタナイ!」といった雰囲気。「市民の常識を議会の非常識!」として、日々福祉のことや教育、環境、人権のことが話されているわけです。弱い立場にある人にとって、生活の根底にかかわる政策がどんなに重大なことから、少しもわかってないのですね。

(鹿児島市市議会議員)

有事法反対で「突然の逮捕」

木瀬慶子

六月六日、有事法が成立し、日本はついに「戦争のできる国」になってしまいました。アメリカの一方的な戦争を是とした「イラク新法」も、可決されようとしています。

半世紀の間、二度と過ちをくり返さないという国民の声に支えられ平和憲法が守られてきましたが、日本の国是は憲法を変えることなく大転換を遂げています。

とくにＪＲの場合は、指定公共機関として軍需物資の輸送など戦争の後方支援に労働者が強制的に駆り出され、拒否しようものなら獄につながれてしまうという状況になりました。（女たちのＪＲ連絡会）は、鉄道で働く女性と鉄道員の妻たちが集まっているので、これからどうなるのか、とても心



配しています。

そんな最中、昨年十一月一日、ＪＲ浦和電車区で働くＪＲ総連組合員七名が、突然逮捕されました。本人たちも何が起こったのかわからないほど突然の出来事でした。以来九か月を経た今日も、七名の仲間は、小菅の独房に勾留されたままです。弁護士と限られた家族以外は、誰も会うことはできません。「愛する家族と引き裂かれ、病氣の子どもをさわつてやることさえできない」と、上原さんは、裁判で司法への不信感を述べました。

ＪＲには戦争に協力すると言っている組合があります。「国家の最大の福祉は、国防」と主張しているのですが、その組合の指示を受けて、元組合員がＪＲ総連を破壊するために、嘘をつき続けたあげく、私たちの仲間を警察に売ったのです。

不当な取り調べと、あまりにも異常な長期勾留に、時が経つにつれ、私たちは不当逮捕に秘められた真相を知ることになりました。

「君はもう組合にも、会社にも残れない」「ガサ入れは第二弾、三弾もあるぞ。組織を内部から変えられないから、国家権力が介入するんだ」「子どもの結婚にも影響がでる」「このままだと家族もどうなるかわからない」

こんな人権侵害もはなはだしい取り調べが毎日行われました。

獄中からの大淵さんの詩をご紹介します。

調べ

窒息するほどの気配

戦慄がうずく

瓦解の恐怖

脱落のささやき

あやしい誘惑

とらわれの苦悶

さげすみの眼さし

単調さ。

たとえ一瞬でも

しんから安心できない

用心に用心を重ねながら

果てしない困難を

追いかけていく。

さらに、警視庁公安二課が被害届を書かせたことが裁判の中で明らかになりました。警察が仕組んだ事件であることが今、やっとわかってきたのです。

かつて朝鮮戦争が始まろうとする一九四九年に松川事件という鉄道の謀略事件が起きました。それは現在では、労働組合つぶしのために米占領軍が企てた事件だったことが明らかになっていますが、当時は赤間少年が密室で嘘の自白を強要され、労働組合がつぶされていきました。

有事法が成立した今、状況は、かつての暗い時代へ舞い戻ったようにみえます。

六月十二日には、私の働くJR総連や役員宅など十九か所に家宅捜索が入りました。一五〇名もの警視庁公安二課がものものしい機動隊の装甲車二台とともにやってきて、総計九一二点以上の書類を押収していきました。

二年前の東京駅頭でのピラ配りの際に、管理者に対して暴力行為があった」というものですが、正当な組合活動を監視し威圧したのは、管理者です。事実無根も甚だしいのです。理由にもならない理由をつけて家宅捜索を行い、押収物の約三分の二は、被疑事件とは全く関係のない会計の帳簿、伝票などでした。明らかに別件捜査です。

そして六月二七日には、右翼による広島県教職員組合本部への発砲事件が起きました。これは平和憲法や教育基本法が改悪されようとしていることと無縁ではありません。時代の曲がり角に、いま私たちは立っています。平和を求

める勢力に攻撃的が絞られ、意図的な情報操作が行われています。このままでは、言論の自由も何もなくなってしまうでしょう。再び戦争の時代としないために、皆さん声をあげていきましょう。(戦争を許さない女たちのJ R連絡会)

「女たちのJ R連絡会」はこんな活動をしています。一緒に九条の輪を拡げましょう！

◆二か月に一度のペースで、『いのち輝く』というミニコミ誌を発行しています。手づくりに近いものですが、全国の女たちの活動を紹介しています。ミニコミ誌の定期交流をしませんか。

地に事務所を開設し、現地NGOと協力し支援を行なっています。以来派遣団を送っていますが、(女たちの会)も大活躍。皆さん一緒に、異文化体験をしてみませんか。

(<http://jr-source.com>)

◆昨年五月二四日に有楽町マリオン前で、さまざまな分野で活躍する女性たちの有立法制反対のリレートークとチラシ配りを行いました。以来東京地区では、毎月一回、J Rの駅頭で平和を訴えるチラシ配りを行なっています。

◆「慰安婦」問題の解決をめざす「戦時性的強制被害問題の解決の促進に関する法律案」も、野党議員の手で今年一月に提出されてすでに七か月がたちますが、依然として委員会に付託もされず、審議もされていません。

◆二〇〇一年末、アメリカによるアフガニスタンへの「報復戦争」がエスカレートするなか、内戦と干ばつによって五〇〇万人の難民が生み出され、戦争によってさらに被害が拡大しました。J R総連は、飢えと寒さに苦しむ子どもたちに食料や衣類

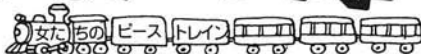
を届け、一人でも多くの命を救うためにできるかぎりのことをしようと、チャリティー・コンサートを開きました。そして現

す。私たちは、法案の早期成立のために多くの署名を集めています。ぜひご協力ください。

戦争を許さない女たちのJR連絡会



いのち輝く



〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13 JR総連内 ☎ 03-3491-7191 JR 057-4596

不当逮捕は許せん

一日も早く7名の仲間を家族のもとに!

12月14日、エンジェルは「不当逮捕・捜索」の大弾圧を受けている浦和電車区分会への激励行動を行いました。この行動は、エンジェルの仲間を中心に、東京、横浜、八王子、大宮、各地方本部の家族、JR総連、JR東海労、JR貨物労組の書記30名で行いました。

私たちは、逮捕されている7名の方々への激励はもちろんですが、突然の不当弾圧で「夫や息子、そしてお父さんを奪われた」家族の方々の悲しみ、怒りに、同じ家族として何かできることはないかと相談しあい、不安と闘いながらがんばっている家族の皆さんに私たち一人ひとりの「メッセージ」を入れて、少し早いクリスマスプレゼント

浦和電車区分会に 激励に行きました



7名の仲間へ激励のメッセージを書きました

トを贈らせていただきました。

当日は森田分会長から状況報告を受けました。11月22日、不起訴を願う7名それぞれの勾留先で出迎え体制をとったが、残念なことに起訴されてしまったこと、家族の接見も許されなかったこと、怒りと悔しさの中から早期釈放にむけたたかっていくことが話されました。続いて尾形副委員長から「吉田問題」とはどのようなものなのかを説明していただきました。当時の状況を初めて聞いた家族の方は、7名の逮捕がいかに不当なのか理解することができました。

最後に浦和支部菊池委員長より、「上原さん、八ッ田さん」の手紙が紹介され、参加者は涙が止まりませんでした。その手紙からは、家族に対する思いや、職場の仲間、JR東労組の仲間を信じて、一人でも力強く頑張っている様子を伺うことができました。さらに、家族も含めた団結をつくり出すことが重要であることから、早急に「家族会」の結成をおこなうことが話されました。

今後、エンジェルも「家族会」と協力しあって「不当弾圧を許さない、早期釈放、無罪をかちとる」ために行動を共につくり出していきたいと思います。

(エンジェル K・K)

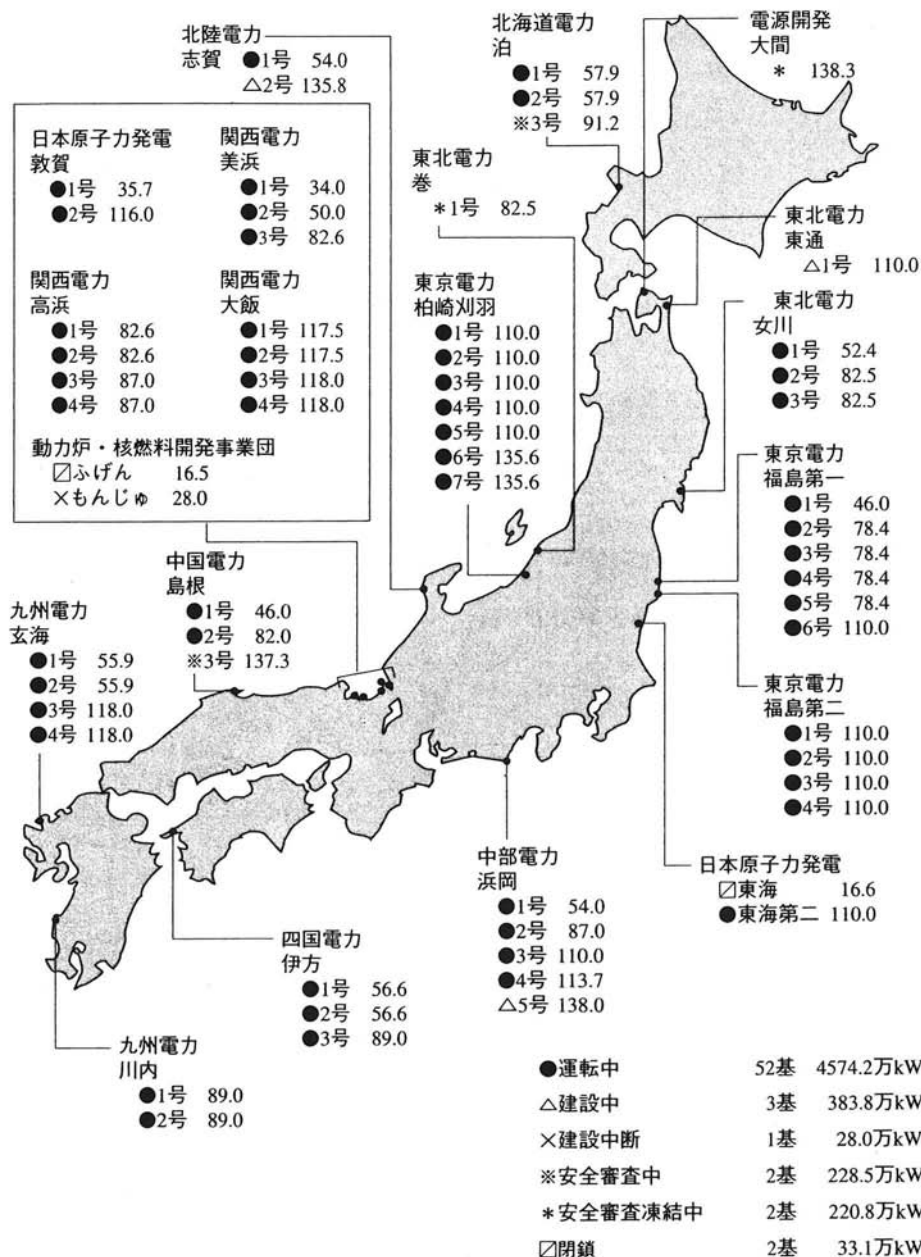


有事法制反対で第5回目のビラ配布行動：エンジェル「イース艦」のインド洋派遣が決定され、日本の参戦体制が着々と準備されているなか、大宮駅前で「有事法制反対」5回目のビラ配布行動を取り組みました。(12月14日、浦和電車区分会への激励行動の前段で。1月18日には第6回のビラ配布行動を行いました。)

4 不当逮捕された7名の仲間を釈放せよ。我々は日本政府による鉄道労働者への弾圧に抗議すると断言されています。ブラジルで開催された「世界社会フォーラム」で、多くの共感と連帯の輪が生まれました。(2・3頁参照)

イラクへの武力攻撃反対! 有事法制反対!

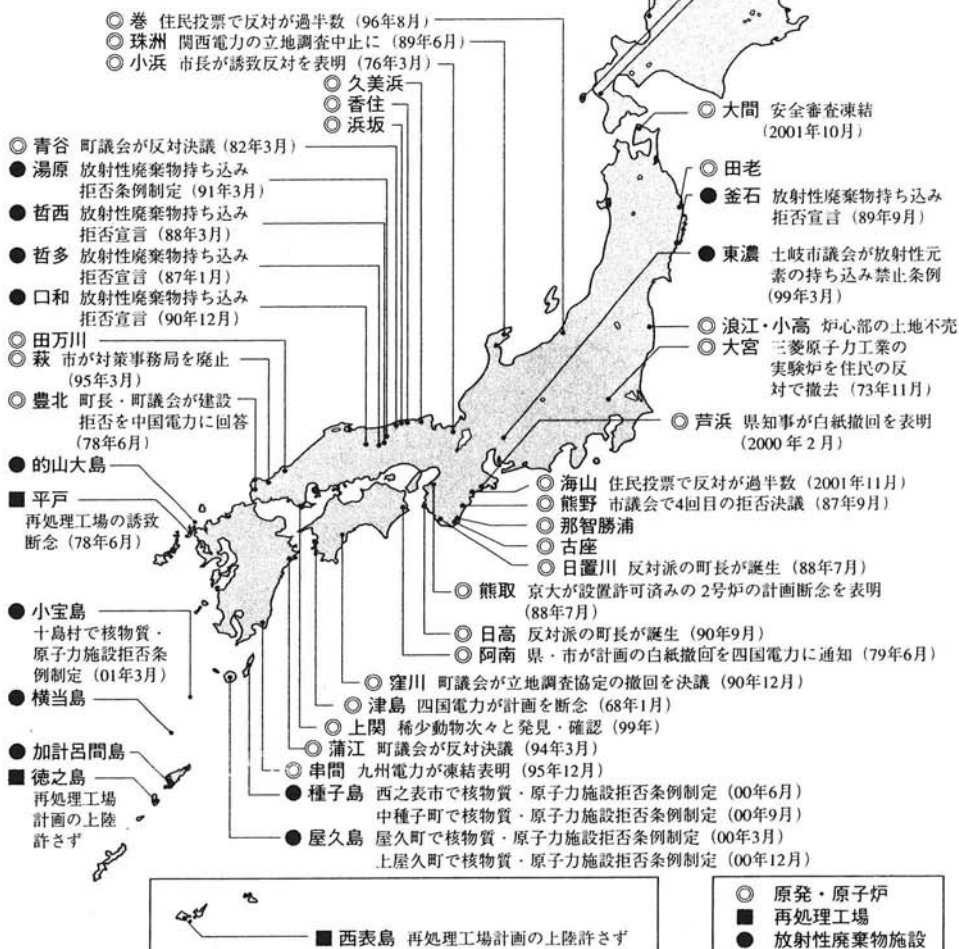
日本の原子力発電所一覧 (2003年3月末現在)



原発おことわりマップ (2003年3月末現在)

〈原発建設阻止状況〉

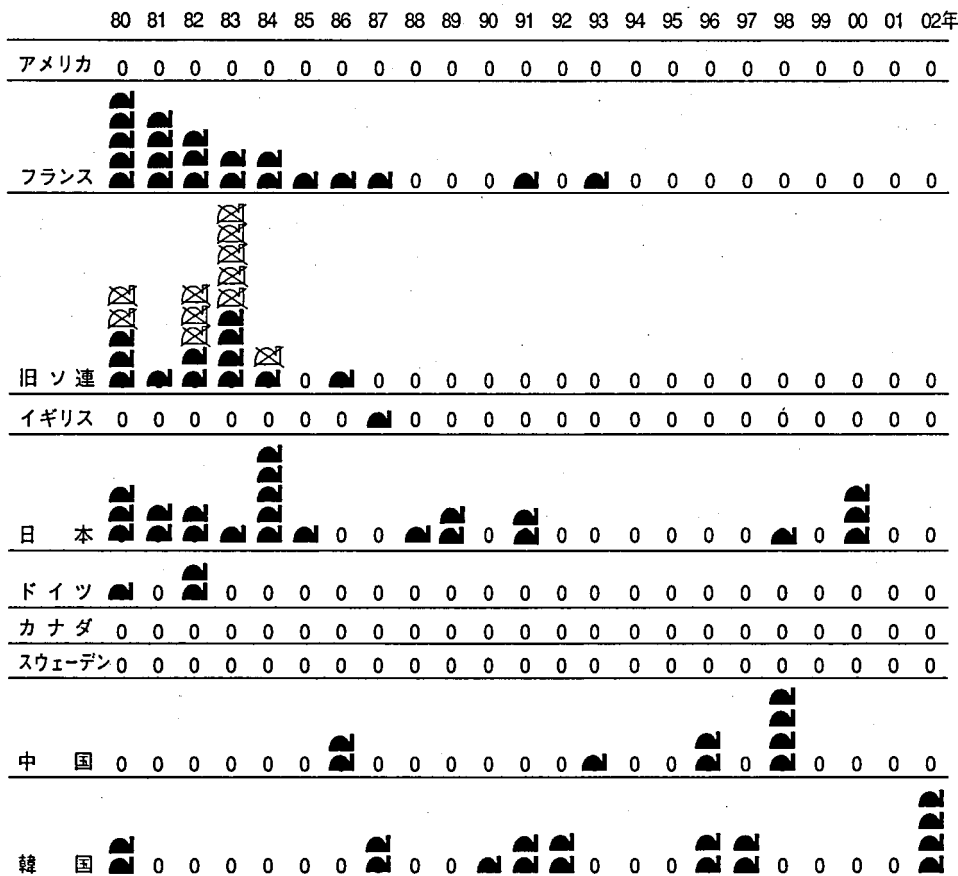
計画浮上時期	未 着 工	建設中	運 転 中
1960年以前			東海
1961～65年	芦浜	もんじゅ 東通	敦賀、美浜、福島、川内、 能登（志賀）
1966～70年	日高、浪江・小高、 田万川、巻、古座、 那智勝浦		高浜、玄海、浜岡、島根、 伊方、大飯、女川、ふげん、 泊、柏崎刈羽
1971～75年	熊野、浜坂、田老、 久美浜、珠洲		
1976～80年	阿南、日置川、大間、 豊北、窪川		
1981年以降	上関、萩、青谷、串間		



世界の原発ランキング

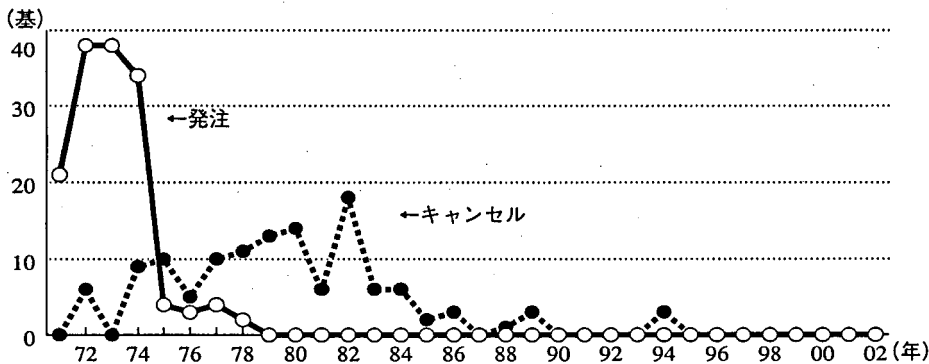
順位	原発設備容量 (万kW)		人口1人当たりの原 発設備容量 (kW)		面積1km ² 当たりの 原発設備容量 (kW)		発電電力量に占める原 子力発電の割合 (%)	
	02年末		02年末		02年末		01年	
1	アメリカ	10,199.8	フランス	1.1	ベルギー	196	リトアニア	78
2	フランス	6,595.2	スウェーデン	1.1	韓国	159	フランス	77
3	日本	4,590.7	リトアニア	0.8	台湾	142	ベルギー	58
4	ロシア	2,355.6	ベルギー	0.6	日本	122	スロバキア	53
5	ドイツ	2,236.5	フィンランド	0.5	フランス	120	ウクライナ	46
6	韓国	1,571.6	スロバキア	0.5	スイス	82	スウェーデン	44
7	イギリス	1,327.3	スイス	0.5	ドイツ	63	ブルガリア	42
8	ウクライナ	1,183.6	アメリカ	0.4	イギリス	54	韓国	39
9	カナダ	1,061.5	日本	0.4	スロバキア	54	ハンガリー	39
10	スウェーデン	982.6	スロベニア	0.4	リトアニア	46	スロベニア	39
11	スペイン	787.6	カナダ	0.4	スロベニア	35	スイス	36
12	ベルギー	599.5	韓国	0.3	ブルガリア	26	アルメニア	35
13	台湾	514.4	ブルガリア	0.3	チェコ	22	日本	34
14	中国	460.0	ドイツ	0.3	スウェーデン	22	フィンランド	31
15	スイス	337.2	台湾	0.2	ハンガリー	20	ドイツ	31

■ 主要国の原発発注状況



注) X印は後にキャンセルしたもの

■ アメリカの原発発注とキャンセル



世界の原子力開発の現状(2002年末現在)

(出力の単位は万kW)

		運転中		建設中		計画中		合計	
		出力	基数	出力	基数	出力	基数	出力	基数
1	アメリカ	10,199.8	103					10,199.8	103
2	フランス	6,595.2	59					6,595.2	59
3	日本	4,590.7	53	411.8	4	1,031.5	8	6,034.0	65
4	ロシア	2,255.6	30	300.0	3			2,555.6	34
5	ドイツ	2,236.5	19					2,236.5	19
6	韓国	1,571.6	18	200.0	2	680.0	6	2,451.6	26
7	イギリス	1,327.3	31					1,327.3	31
8	ウクライナ	1,183.6	13	500.0	5			1,683.6	18
9	カナダ	1,061.5	14					1,061.5	14
10	スウェーデン	982.6	11					982.6	11
11	スペイン	787.6	9					787.6	9
12	ベルギー	599.5	7					599.5	7
13	台湾	514.4	6	270.0	2			784.4	8
14	中国	460.0	6	445.2	5			905.2	11
15	スイス	337.2	5					337.2	5
16	リトアニア	300.0	2					300.0	2
17	ブルガリア	288.0	4					288.0	4
18	フィンランド	276.0	4					276.0	4
19	インド	272.0	14	374.0	7	72.0	2	718.0	23
20	スロバキア	264.0	6			88.0	2	352.0	11
21	ブラジル	200.7	2			130.9	1	331.6	3
22	南アフリカ	193.0	2					193.0	2
23	ハンガリー	186.6	4					186.6	4
24	チェコ	176.0	4	196.2	2			372.2	6
25	メキシコ	136.4	2					136.4	2
26	アルゼンチン	100.5	2	74.5	1			175.0	3
27	スロベニア	70.7	1					70.7	1
28	ルーマニア	70.6	1	268.6	4			339.2	5
29	オランダ	48.1	1					48.1	1
30	パキスタン	46.2	2					46.2	2
31	アルメニア	40.8	1					40.8	1
32	イラン			229.3	2	88.0	2	317.3	4
33	北朝鮮			200.0	2			200.0	2
34	カザフスタン					192.0	3	192.0	3
35	エジプト					187.2	2	187.2	2
36	イスラエル					66.4	1	66.4	1
合 計		37,372.7	436	3,469.6	39	2,536.0	27	43,378.3	502
() 内は前年値		(36,628.6)	(432)	(4,127.1)	(43)	(2,660.4)	(35)	(43,416.1)	(510)

日本原子力産業会議発表

主な原発裁判 (2003年3月末現在)

	訴えの内容	原告	被告	第一審	控訴審	最高裁
確定済み	伊方1号炉 設置許可取り消し	30km 圏内 住民	国	73.8.27 提訴 78.4.25 棄却 (松山地裁)	78.4.30 原告控訴 84.12.14 棄却 (高松地裁)	84.12.27 原告上告 92.10.29 棄却
	福島第二1号炉 設置許可取り消し	60km 圏内 住民	国	75.1.7 提訴 84.7.23 棄却 (福島地裁)	84.8.6 原告控訴 90.3.20 棄却 (仙台高裁)	90.4.3 原告上告 92.10.29 棄却
	伊方2号炉 設置許可取り消し	30km 圏内 住民	国	2000.12.15 棄却 (松山地裁)		
	泊1, 2号炉 建設・運転差し止め	130km 圏内 住民	北海道電力	88.8.31 提訴 99.2.22 棄却 (札幌地裁)		
	女川1, 2号炉 建設・運転差し止め	20km 圏内 住民	東北電力	81.12.26 提訴 94.1.31 棄却 (仙台地裁)	94.2.14 原告控訴 99.3.31 棄却 (仙台高裁)	99.4.14 原告上告 2000.12.19 棄却
	志賀1号炉 建設・運転差し止め	全国住民		88.12.11 一次提訴 89.7.14 二次提訴 94.8.25 棄却 (金沢地裁)	94.8.31 原告控訴 98.9.9 棄却 (名古屋高裁金沢支部)	98.9.22 原告上告 2000.12.19 棄却
	福島第三3号炉 運転差し止め	東京電力 株主	東京電力 3取締役	91.4.3 提訴 96.12.19 棄却 (東京地裁)	96.12.26 原告控訴 99.3.25 棄却 (東京高裁)	99.4.6 原告上告 2000.7.17 棄却
	高浜2号炉 運転差し止め	150km 圏内 住民	関西電力	91.10.9 提訴 93.12.24 棄却 (大阪地裁)		
	もんじゅ 建設・運転差し止め	60km 圏内 住民	核燃機構	85.9.26 提訴 2000.3.22 棄却 (福井地裁)	2000.3.24 原告控訴 2002.3.12 取り下げ (名古屋高裁金沢支部)	
	東海第二 設置許可取り消し	20km 圏内 住民	国	73.10.27 提訴 85.6.25 棄却 (水戸地裁)	85.7.5 原告控訴 01.7.4 棄却 (東京高裁)	01.7.18 原告上告
係争中	柏崎1号炉 設置許可取り消し	90km 圏内 住民	国	79.7.20 一次提訴 80.3.11 二次提訴 94.3.24 棄却	94.4.6 原告控訴 (東京地裁)	
	志賀2号炉 建設差し止め	全国住民	北陸電力	99.8.31 提訴 (金沢地裁)		
	島根1, 2号炉 運転差し止め	中国5県 住民	中国電力	99.4.8 提訴 (松江地裁)		
	もんじゅ 設置許可無効確認	60km 圏内 住民	国	85.9.26 提訴 87.12.25 却下 (福井地裁) 92.11.20 差し戻し審開始 2000.3.22 棄却 (福井地裁)	87.12.25 原告控訴 89.7.19 一部差し戻し (名古屋高裁金沢支部) 2000.3.24 原告控訴 2003.1.27 無効確認 (名古屋高裁金沢支部)	89.7.31 原告上告 8.1 被告上告 92.9.22 地裁差し戻し 被告上告棄却 2003.1.31 被告上告
	ウラン濃縮 事業許可無効確認 ・許可取り消し	全国住民	国	89.7.13 提訴 2002.3.15 却下/棄却 (青森地裁)	2002.3.28 原告控訴 (仙台高裁)	
	低レベル廃棄物埋設 事業許可取り消し	全国住民	国	91.11.7 提訴 (青森地裁)		
	高レベル廃棄物貯蔵 事業許可取り消し	全国住民	国	93.9.17 提訴 (青森地裁)		
	再処理 事業許可取り消し	全国住民	国	93.12.3 提訴 (青森地裁)		
	浜岡1~4号炉 運転差し止め	全国住民	中部電力	02.4.25 仮処分申請 (静岡地裁)		
	JCO 臨界事故 健康損害補償	大泉昭一氏 恵子氏	ジェー・シー・オー	02.9.3 提訴 (水戸地裁)		

そうこうしているうちに、この1月、日本の高速増殖炉計画40年以上開発を続けて合計で一時間の発電しか達成してこなかった計画が手痛い打撃を受けました。

日本の高等裁判所が高速増殖炉の原型炉である「もんじゅ」に対し、日本政府が出した設置許可を無効としたのです。

「もんじゅ」は、2週間に核兵器一個分の核兵器級プルトニウムを生産する能力を有しています。現在の日本の「原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画」には、高速増殖炉技術の商業化計画はありません。それにもかかわらず、日本政府は「もんじゅ」の早期運転再開を求めているのです。

日本のプルトニウム管理実績には、いままでさまざまな問題があります。1994年、「もんじゅ」の燃料加工中に起こったプルトニウム燃料製造施設（PFPF）での70kgのプルトニウム滞留とその後の除洗作業の大幅な遅れがありました。当時の長崎市長はこの問題に対し、プルトニウム管理が「あまりにもずさん」であると述べています。今年、東海村再処理工場（120tU／年）で206kgの受払間差異（SRD）が記録されました（最近になってその差異は59kgに変更されています）。日本のプルトニウム管理の今までのずさんさを考えると、はるかに大規模な六ヶ所再処理工場でのプルトニウム管理に対する懸念はずっと深刻なものとなります。

アジアの安全保障を憂慮されるすべての国々に訴えます。日本の青森県の六ヶ所再処理工場におけるプルトニウム分離を進めないようにただちに日本に求めてください。

世界を核兵器から解放するための皆様の粘り強いご努力に感謝いたします。そして、核不拡散体制の前に立ちはだかるさまざまな重大問題について討議するジュネーブでのNPT会議に参加される締約国として、このアピールにある私たちのお願いを考慮してくださるよう望みます。

2003年4月25日

アピール提出団体

原子力資料情報室／日本消費者連盟／グリーン・アクション／グリーンピース・ジャパン／美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会／ノーニュークス・アジアフォーラム・ジャパン（NNAF）／プルトニウム・アクション・ヒロシマ／ストップ・ザ・もんじゅ（団体名・英語アルファベット順）

アピール

全世界のNPT締約国政府へ 六ヶ所再処理工場での大量のプルトニウム分離を 進めないよう日本に要請してください

わたしたちは、核兵器の拡散を憂慮する日本の市民団体です。広島と長崎への原爆の破壊的効果は、日本人の共通の記憶として残っています。それゆえに私たちは極東朝鮮半島と日本に高まっている「核」を巡る緊張に対し大変憂慮しています。ほかでもなく、このことのために、わたしたちは今日皆様にお手紙を差し上げるしだいです。

日本は、大量のプルトニウム民事利用計画を有しています。その計画の実施は完全に行き詰まっているため、現在のところ日本ではプルトニウムの需要はまったくありません。にもかかわらず、日本は大量のプルトニウム分離能力のある巨大な再処理工場の稼働を進めようとしています。

六ヶ所再処理工場は、非核保有国における大規模再処理工場としては初めてのものとなります。六ヶ所再処理工場は、年間7トンのプルトニウムを分離する能力を持っています。(再処理能力800tU /年) 今こそ六ヶ所再処理工場を止めなければなりません。工場の運転開始予定は2005年です。今年(2003年)後半には劣化ウランを使用した試験が始まることになっています。試験が始まれば工場は汚染され、日本の再処理へのコミットメントはいっそう深まり、六ヶ所再処理工場の本格運転を止めることがより困難となります。

日本はすでに膨大な量の余剰プルトニウムを保有しています。2001年末には、日本は既に国内に4.1トンの余剰プルトニウムを保有し、更にヨーロッパ(英仏)の再処理工場での日本のプルトニウム蓄積量は32.4トンとなっていました。

六ヶ所のプルトニウムは、日本の商業用原子炉で消費されることになっていました。

しかし、その計画はいまだに実施されていません。この燃料を日本で初めて利用するよう予定されていた3県のうち2県の知事は、その計画の事前了解を撤回しています。

欠陥原発を動かす「維持基準」を許さない

損傷隠しの発覚後、傷があっても運転を認める維持基準導入が決まりました。しかし、その後、傷を把握する超音波試験に問題があることが判明。これでは維持基準による判断はできません。導入を撤回すべきです。

劣化ウラン弾許すな

イラク攻撃でも使用された劣化ウラン弾。原子力のごみからできていて、放射能汚染による被害が深刻です。製造・使用禁止を訴えます。

もんじゅを廃炉に

ナトリウム火災事故を起こした高速増殖炉もんじゅの設置許可を無効とする判決が出ました。核武装につながる高速増殖炉の開発は世界各国でも断念されています。もんじゅをそのまま廃炉とすべきです。

有事法制に反対しよう

国会審議中の有事法制。いざという時に守られるのは国民ではなく、原子力施設です。テロ予防を口実にした核管理社会はごめんです。

あなたにできること★★★★★★★★★★★★



★省エネ★

おうちでの省エネもちろんだけど、ピークのおよそ7割は産業活動から。だから、職場に省エネ機器導入などをすすめよう。



★勉強★

原発の放射能のこと、エネルギーの問題、温暖化のこと、いろいろ学んでみよう。



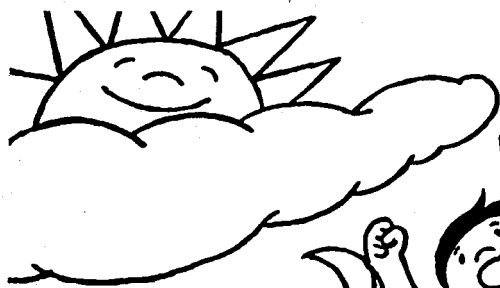
★声をあげる★

新聞への投書やテレビへ意見を寄せることってものすごく大切です。地元の議員さんや知事、国会議員に政策の提案をしたりもしてみよう。メールで送るのもOK!



★行動しよう★

世の中には、原発をとめるためにパレードをしたり、裁判を起こしたり、勉強会を開いたり、Tシャツをつくったり、ほんとにいろいろな人やグループがあります。動いてみよう。仲間がほしい人は賛同団体などに連絡をとってみよう。



原発政策・核燃料サイクル政策の大転換を。
エネルギー政策を変えて、脱原発へ
電力自由化時代に割高な原発は電力会社にとってもお
荷物になってきました。原子力一辺倒の硬直化した政
策から、省エネルギーと太陽光や風力など自然エネル
ギー中心の政策に転換させましょう。未来のために！

原発なくても電気はだいじょうぶ
損傷隠しの発覚で東電の原発がすべて止ま
ったままでも、夏の電力ピークは一瞬で、省
エネに努めれば乗り切れます。安全と地元
の安心が最優先です。

六ヶ所再処理工場を動かすな
青森県六ヶ所村で建設中の再処理工場で
は、欠陥溶接が次々見つかる異常事態。プ
ルトニウムの使い道がない今、再処理は必
要ありません。近く予定されているウラン
溶液を用いた試験を許せば、工場自体が汚
染されてしまいます。その前に中止を！

JCO臨界事故にハク被害者の救援・支援を！
国・核燃料サイクル機構の責任も追及しよう
1999年9月30日に茨城県東海村で起きた臨界事故。事
故原因は、JCOに無理な発注をした核燃料サイクル機構
と国にもあります。健康被害を認めない国などの責任
を追及し、ハク被害者を支援しましょう。

放射能のゴミ捨てを許すな
高レベル廃棄物の処分場探し、候補地
の公募で本格化しています。放射能が漏
れ出す埋め捨て処分を許すわけにはい
きません。また、廃炉で多量に発生する
低レベル廃棄物を、一般のごみとして扱う
スソキリ処分導入にも反対しましょう。

プルトニウム利用をやめよう
日本は、核爆弾数千発相当のプルトニウム
38トン余りを既に保有(2001年末現在)。
余剰を持たないという国際公約に違反し
ています。ウラン用の原発で燃やすプルサ
ーマル計画など利用政策の撤回を！

LOVE & PEACE

報道部記者二十年

内木いづみ

(岐阜新聞 生活文化部)

報道部記者二十年。放送へ出向して、ラジオ番組のディレクター三年。再び編集に戻り、生活文化部記者半年余り。何がやりたいか、ようやくわかつてきたところです。

入社当時は、女性の現職取材記者は一人という時代でしたから、写真の現像技術も、無線の資格も、同期の男性は習得できるが、女性は電話で原稿取りという環境でした。教えてくれないので、自分で写真部へ通つてカメラマンの横で仕事を眺めて覚え、警察原稿を書かせてもらえないことより、書けないのが悔しくて、尊敬する部長に直接サツ回りを担当したいと直訴しました。すぐに「女性は使えない」と回答がありました。が、「そんなもんだらう」と思い、サツ原稿のスクラップを作ったものです。同僚の男性以上に働かなければ、記者の数にも入らず、女性を囲む壁は分厚いんだという現実、体に染み込みました。

でも、私は極めて好運で、わが社ではちょうど、女性記者の数が幾分増えていく時代でした。後輩の女性記者が増えて、空気鉄砲のように押し出された私は、「女性初のクラブ詰め」「女性初の地方勤務」といつては、常に大きな花束をもらつて新天地へ向かいました。好運は同時に、続けていれば道はできる、という実感でした。

同僚記者の夫を置いて、小学校に入学した子どもを連れ、複数の記者が配置される地域の総局へ、通算六年間「母子赴任」できたのも幸運でした。総局では職場の二階に住むことができましたから、職住一体です。別居といつても県内ですから、夫は休みの前日から来て翌日早くに出勤でき、家族の時間もあります。何より、子どもの様子を敏感に感じ取つて、仕事に打ち込めるありがたい環境でした。

振り返つてみると、私は、特別幸運にめぐまれていたのかも知れませんが、特別な幸運は、落胆してもあきらめなければ転がり込んでくるようにも思います。徹底した「女性だから」の壁からスタートしたおかげで、女性問題について周囲がどんな展望をもち、あるいは持たずに、区別と差別をどの程度曖昧にしているかを、体験的に見抜く力を身につけることができました。どんなときでも、あき

いたため、押し入れの戸を開けると同時に、どどと崩れてきそうになったので、私は指揮をして、実際に物を動かすのは手伝ってもらって、思いきって片付けに踏み切った？というわけである。私にとつては、みんな大事なもののばかりだけれども、十年もたてばきれいに忘れているものが多い。誰かからブレゼントされたものも出てきて「ああ、これはあの時に頂いたものだった」と、懐かしくなるものもあった。

押し入れの中の大部分を占めているものは、いろいろな人びとからきた一年分ずつの手紙の束、束、束だった。

私は、誰かから頂いた手紙をどんなに古くなっても燃やすことも、捨てることもできない性格で三十年も前の手紙もある。

別に熱烈なラブレターがあるわけではない。ただなんでもないごく普通の手紙。今度こそ、燃やす手紙と残す手紙を整理してと思って、押し入れの前の方にある手紙だけをダンボール箱二個にピツシリ入れた。

これで押し入れに多少のゆとりが出来て、また物が入れられるようになった。

でも、ダンボール箱に詰めた手紙の束は、いつ整理できるか分からないまま、月日を重ねて行きそうだ。

(Eメールアドレス fuusen@abeam.ocn.ne.jp)

ら室 ご書 あ読

『闇に消される原発被曝者』

樋口健二著
(御茶の水書房刊)

七〇年代から「原発」を追い、その内部まで密着取材し、被曝した労働者一人ひとりを丹念に追ってきた筆者は、八一年、『闇に消される原発被曝者』を三二書房から刊行。大きな衝撃を読者に与えたが、マスメディアからは無視された。

二〇〇三年夏、東電の原発ひび割れ

事故のデータ偽造と隠ぺい工作が、アメリカGE社の内部告発によって表面化、初めてマスメディアを賑わせた。しかし原発労働者の悲惨な被曝には、マスメディアは、またも、触れなかった。

財団法人・放射線従事者中央登録センターに登録された放射線被曝者は三十五万人を超える。白血病その他のがんで死亡した原発労働者も数えきれない数にのぼるのに、原発被曝労働者はいまだに社会問題になっていない。

その憤りをこめて二〇〇三年五月、御茶の水書房から再刊されたこの本は、すべてが具体的な事実に基づいているだけに、一行一行がズシリと胸に響く。

日本では評価されなかった筆者の著作は、反核NGO(ワールド・ウラム・ヒアリング)(本部 ドイツ・ミュンヘン)の、二〇〇一年度「核のな

い未来賞」教育部門賞を受賞した。「原発とは何か」を、根源から問う本としてぜひ一読をすすめたい。(千)

(二〇〇三年五月刊。一四五×二〇〇センチ、二二二ページ。二、四〇〇円+税)

「なぜ脱原発なのか？」

放射能のこみから非浪費型社会まで

西尾 漢著

(緑風出版刊)

内容は、Ⅰなぜ脱原発か Ⅱ放射能のこみ Ⅲ核燃料サイクルという虚妄 Ⅳ原発のメリットは？ Ⅴ原発を止める、の五章。

その各章それぞれに、たとえば「原発を廃止しないといけないという理由は何ですか?」「原発と原爆とは、まったく違うものではないのですか?」「日本の原発では大事故は起きないと言わ

なぜ脱原発なのか？

【放射能のこみから非浪費型社会まで】
西尾 漢・著



**暮らしの中にある原発
でもやっぱり不安……**
あなたの素朴な疑問に答えます

れますが？」「原発の寿命は六〇年とすると、まだ老朽化とは言えないのではありませんか？」「原発の危険性は、事故さえ防げれば問題ないのではありませんか？」といった五つの疑問が掲げられ、七〇八ページを使って、なるほどと納得のいく説明がついている。図版や表も豊富で、初心者にも、原発問題に長く関わってきた人にも役に立つ本、と感心した。

筆者は、大学の文系を中退、広告業

界に入り、七三年、電気事業連合会（電力会社の連合体）が、全国各紙に毎月一回出している全面広告にシヨックを受けたことが人生の転機となった。

「たった今、電気が止まったら」という大きな文字。真つ暗なかに止まってしまったエレベーター。そして、「発電所の建設に対するご理解とご協力をお願いする」というコメント。

誰を脅すのか。対象は明らかに「電気が止まったら困る」都市の住民。その住民に、発電所建設に反対する住民を「敵」と見るように促し、力づくで建設の強行に同意を迫る――。

この広告に考えこんだことがきっかけで、筆者はやがて広告業界を去り、〈反原発運動全国連合会〉発行『はんげんぱつ新聞』の編集者、そして原子力資料情報室の共同代表にまでなったという。

プロの広告作家、そしてミニコミの編集者だっただけに、文章は読みやすく、わかりやすく、編集も十分な工夫がこらされている。「原発ってなあに」と思っている無関心派にも、反原発の活動家にも、役に立つ本として、すすめたい。

（二〇〇三年一月刊。A5変形判、一七三ページ。一、七〇〇円＋税）

『原発ゴミの危険なツケ ―最終処分場のゆくえ2―』

西尾 漢 編
（創史社刊）

二〇〇一年五月に同じ創史社から出た全く同じ書名の本の〈パート2〉。

環境機構（原子力発電環境整備機構）は、二〇〇二年十二月から高レベル放射性廃棄物処分候補地の公募を

始めた。原子力業界で「環境」とは「放射能」のことを言う。「環境整備」とは、そのゴミの捨て場のこと。もちろん引き受け地には多額の報酬が支払われる。この時の公募には四〇自治体から問い合わせがあり、数か所で説明会を開いたという。

原環機構では「公募に応じる自治体があった時は、直ちに公表する」としているが、全面的に発表されたかどうかは不明。この本には幌延、六ヶ所村、東濃など、候補地にされ、それとたたかった六人の住民の運動の記録が掲載されている。

自治体に知らせず調査した地域、自治体が住民に知らせなかった地域にかかわらず、住民が要求して取り寄せた報告書は、マスキングだらけで、かんの部分は不明。

これは、「トイレなきマンション」と

言われる原発の、悲壮なトイレ探しの記録とも言える。もともと原発はつくってはいけなかったということを物語る貴重な記録でもある。それだけに二度三度読み返さないと文意を把握しにくい部分もあるのが惜しまれる。(H) (二〇〇三年六月刊。A5判、一五七ページ。一、四〇〇円＋税)

『原子力市民年鑑2003』

原子力資料情報室編
(七つ森書館刊)

細かい字でびっしり三五八ページ。原子力に関するあらゆるデータを網羅した年鑑の、二〇〇三年度版。

第一部は、データで見る日本の原発。日本の原発設置地図(位置・稼働数・出力)、各原発の運転開始計画、発電コスト試算値に始まり、原発を拒否した地区と、その時期、主な原発裁判、原

発に関する住民投票条例一覧、総理府世論調査、日本世論調査会の調査、今後の計画地点、BWR(沸騰水型軽水炉)とPWR(加圧水型軽水炉)の概念図等々に至るまで、あらゆるデータが網羅されている。

第二部は、データで見る原発をとりまく状況。プルトニウム、核燃料サイクル、廃棄物、事故、地震、被爆、放射能、核、世界の原発、アジアの原発、原子力行政、原子力産業、輸送、エネルギー、核融合、原発立地市町村の地域経済など、至れり尽くせりのデータを満載。

研究者、専門家必携の本だが、小・中・高校等で、このいくつかの図表を生徒に示し、原発について考えさせるなど、活用する方法も、数かず考えられる。(千) (二〇〇三年六月刊。A5判、三六〇ページ。二、八〇〇円＋税)



イラク特措法、大詰めへ

国家総動員法以来の悪法〔有事三法〕を成立させた政府・与党は、イラクに自衛隊を派遣する「イラク人道復興支援特措法」(イラク特措法)を、圧倒的多数で、衆議院で可決、参議院での質疑応答に入った。この法の目的は、イラクへの自衛隊の派遣。活動内容は、①人道復興支援②安全確保支援③大量破壊兵器処理支援の三分野で、四年間の時限立法だが、延長もできる。しかし、③の「大量破壊兵器」は、米・英の情報操作であったことが発覚、ブッシュ大統領もブレア首相も、いま厳しい追及を受けている。

本来、今回のイラク攻撃には何の大義名分もなく、米国の西アジア支配、石油利権・軍需産業が要因であったことは、周知の事実。爆撃に次ぐ爆撃で、すべてのインフラも、病院も民家も破壊し、多くの市民を死傷させた米英は、ま

ずは、その謝罪をし、補償をすべきである。その米英を支持した日本も、イラク人民に謝罪し、自衛隊ではなく、NGOや技術者・医師を送ってインフラを再建し、傷病者を治療し、イラク人民の自治を支援するのが本筋なのは明白。また全土で米軍と住民との交戦が今も続いているイラクに、「現に戦闘が行われておらず、活動期間中に戦闘行為が行われることがない地域」など、どこにもないことも明らかだ。

参議院では、衆議院よりは手厳しい質問が続けられているが、政府は、自衛隊員の死傷を覚悟のうえで法案を通し、米国に追従するかまえ。もしもこの法律が成立すれば、憲法九条は、実質的に崩壊し、日本は再び、「戦争をする国」になる。(あごろ)は、この非常事態を視覚的に訴えようと、緊急特集、広河隆一写真集『アメリカはイラクで何をしたか』を発行したが、イラク侵略の時のようなデモ

の盛り上がりはない。一人ひとりの運動の積み重ねが今ほど重要な時はない。

国会議事堂外周に「監視カメラ」

有事三法、イラク特措法等で、このところ市民は連日国会に請願・陳情が続けているが、うわさされていたとおり、議事堂の外周に監視カメラが二三基設置されていることが確認された。

七月十一日、〈許すな憲法改悪・市民連絡会〉や〈日本消費者連盟〉などの呼びかけで、緊急集会が参議院議員会館で開かれ、「国会監視カメラの即時運用停止と即時撤去を求める共同声明」を出すことを決定。共同声明の賛同団体を募集中。(二三〇ページ「集会から」参照)

またも米兵のレイプ

日米地位協定見直しに沖縄から熱い発信

五月末の米兵による女性暴行事件は、六月十八日、米兵がようやく日本側に引き渡されたものの、沖縄では、九五

年の少女事件以来の強い憤り。さらに六月二〇日には、普天間基地に大型ヘリが胴体着陸、二九日も名護市の公園に突如、救護ヘリが着陸するなどの無法に、今年の6・23は、近年にない高まりを見せた。

日米地位協定の見直しはもとより、日米安保も廃止して、沖縄の基地問題を解決しようという動きは、〈イラク特措法〉がらみで本土にも高まってきた。沖縄県の稲嶺恵一知事らは、ヤマトと連帯して日米地位協定改定を實現させようと、東京はじめ米軍施設を抱える十三都道府県の「行脚」を続け、東京都の石原都知事、神奈川の松沢知事はじめ、協力体制を固めた。

差別発言に女性団体が続々抗議

「集団レイプをするくらいの男は元氣がある」「加害者の両親は市中を引き回して打ち首にせよ」など、二〇世紀とは思えない暴言の続出。それを首相は「言論の自由」とは認めない。政府高官には、人権意識が全くないゆえの差別発言。黙視するわけにはいかないと、〈あこら〉(ふえみん)〈日本消費者連盟〉(アジア太平洋資料センター)等が、こぞって

抗議しても、どこ吹く風。「九月とか十月とか言わず、一刻も早く議會を解散して、日本を底辺から建て直してほしい。(市民新党)でもつくらなくては」の声も出始めた。

有事法反対で労組員七名逮捕

「有事法は治安維持法に似た悪法」と、市民は早くから抵抗を続けていたが、有事三法に反対していたJ・R総連の組合員七名が、昨年十一月、突然逮捕、東京拘留所(小菅)に勾留され、弁護士と家族以外は接見も許されない厳しい監視を受け続けている。有事法成立で、事態はますます厳しくなった。(一〇六ページ「意見／異見」参照)

山口県に原発推進派の女性町長誕生

山口県上関町に、県下で初の女性町長が四月二七日誕生。しかし、当選した前町議会副議長・加納藤香さん(七一)は、原発推進派。原発反対派の候補との一騎打ちで初挑戦、初当選となったもの。ただし、後援会長らは、公選法違反(現金買収)で逮捕され、百日裁判に入った。後援会長が

有罪の場合は、町長の当選も無効になるが、裁判の結果は百日後(八月中旬)にならないわからぬ。

今年の女性学シエンダー研究フォーラムは

8月22〜24日

〈ヌエック〉主催の恒例のフォーラム。今年は八月二日(金)〜二四日(日)。各地の〈あこらめいと〉も発表。

金土の夜は自由交流の時間。金曜は七時半、土曜は七時から宿泊棟で〈あこら〉交流会を開く予定。会場は、宿泊棟の掲示板に掲示します。

第四回「女性と仕事の展示」企画を公募中

東京・港区の女性と仕事の未来館では、「女性と仕事の展示」を三回開いてきたが、「女性と仕事」についての、さまざまな話題を具体的に展示する第四回の企画を公募している。内容は働く女性をテーマにした「女性と仕事の未来館」の企画展としてふさわしいもので、下記の実施条件に基づくもの。

1 制作、設置が展示開始日までに間に合い、展示期間中、継続して展示できる。

2 営利、政治、宗教目的ではない。

3 入場料を取らない。

4 物品などの販売を伴わない。

募集企画数 二件

応募資格 個人・団体、性別を問わない。

展示機関（予定）二〇〇四年一月一日～三月三十一日

応募用紙は左記へ――

〒一〇八・〇〇一四 港区芝五―三五―三

女性と仕事の未来館 展示担当

TEL 〇三・五四四四・四一六三 FAX 〇三・五四四四・四一五二

E-mail tenji @ miraijaaww.or.jp

埼玉に女性知事を！

差別的言動でかねてひんしゆくを買っていた土屋知事がついに辞職。次の知事選に保・革両勢力がそれぞれ知恵を絞っているが、この好機に、ぜひとも女性知事を誕生させようと、《あいら埼玉》はじめ女性団体も動き始めた。

専業主婦の年金保険料 本人負担については意見が二分

内閣府は、専業主婦が保険料を負担しなくても国民年金が給付される「第三号被保険者制度」を中心に、今年二月全国の二〇歳以上の男女五、〇〇〇人を対象に世論調査を行い、四月二六日、その結果を公表した（回答率七一・六％）。

現行制度については、「現行制度がよい」三一・〇％に対し、「夫の納めた保険料の一部を妻の分とみなして夫婦別々に年金を支給するのがよい」が三一・三％、「専業主婦も別途保険料を負担する」一七・四％、「保険料を負担しないのだから、専業主婦への年金は減額する」七・五％で、主婦の自立志向は意外に少ないことが明らかになった。女性に多いパート労働者の厚生年金加入についても、

「老後の所得保障が行われるので適用したほうがよい」が約六割、「新たに負担が生じるので適用しないほうがよい」は三割。「夫の厚生年金に入っていれば現金支出をしないですむ現行制度」が、「男女共同参画を目指す改革案」よりは主婦には歓迎されている模様。

東京・国立市、教育長を全国から公募

東京・国立市の上原市長は、全国で五人の女性市長の一人。このたび九月末で任期が終わる市の教育長を、全国から公募で選ぶ方針を発表した。

国立市は、これまで市議会的主要会派などとあらかじめ調整したうえで、教育長を含む教育委員の候補者を選び、市議会に人事を提案、同意を得てきたが、一部の市議などから「選考過程がわかりにくい」との指摘が出ていたため、公募に踏み切ったもの。

全国の公募教育長

市町村名	教育町長名(年齢)	主な経歴	就任日	応募者数
福島県三春町	前田 昌敏(六七)	埼玉大名塾教授	〇〇・一一・一	四五三人
静岡県浜岡町	山下 一三(六二)	公立小・中校長	〇一・五・二六	二〇二人
愛知県西春日町	吉野 茂雄(五三)	名古屋大学大学院理学研究科講師	〇一・一〇・一	九六人
神奈川県蓮田市	野村 昇司(六八)	公立小学校長、児童文学作家	〇一・一二・二二	五八人
千葉県浦安市	村井 由敏(五八)	早稲田大学客員教授	〇一・一二・二五	二五七人
東京都青ヶ島村	飯島 夕雄(三七)	福祉施設職員	〇一・四・一	一七三人
石川県加賀市	伊藤 啓一(五二)	高知大学教育学部教授	〇一・四・一	九四人
福島県飯沼市	渡邊 光男(五三)	日本教育新聞社編集局長	〇一・九・二六	二八人
福島県白河市	平山伊智男(六五)	県立高等学校校長	〇一・一二・二五	二四人

応募資格は、二五歳以上で、国立市長の被選挙権がある人。教育・学術・文化についての一定の見識を持つていれば、教職や教育行政での経験は問わない。志望書と課題論文、三人の推薦状を七月末日までに提出。書類審査と面接審査を経て八月下旬までに決定、九月議会の同意を得て正式に任命される。市民団体は、議会では少数派の上原市長の「片腕になる女性」の推せんを期待しており、「気骨のある革新派の女性」に、全国どこからでも名乗りでてほしいと期待している。

全国の公募教育長は表のとおり。いずれも好評。

官製消費者団体発足に女性団体が猛反発

経済産業省の支援で、NPO法人NCOS(標準により消費者の利益を増進するコア・グループ)が発足すること、主婦連合会・全国地域婦人団体連絡協議会・日本消費者連盟などは猛反発。とくに趣旨文の「人材不足の既存の消費者団体では対応できない状況を打開する」という文章に憤慨して、平沼赳夫経産相に抗議文を送るとともに、五月十五日、同省に赴き、佐藤哲哉審議員らに強く抗議した。

国際婦人年連絡会の加盟団体も、女性を中心とする民間消費者団体の、多年にわたる辛苦と実績を熟知するだけに、実情も知らずに官製団体を立ち上げらせる政府の態度に、揃って憤慨している。

七月末に地方議員全国交流会

「こんな人たちが日本を代表する政府の高官だろうか」と嗤然とするような暴言・迷言が続くなか、「地方から世なおしを」の声は、日ごとに強くなっている。

〈自主・平和・民主のための広範な国民連合〉は、「政党や会派の違いを越えた地方議員のネットワークで地方から政府の悪政を包囲しよう」と、七月三〇日（水）午後一時

敗北の豊かさからの出発

一五〇〇円

——「津軽」で鮮烈な民主主義教育を受けて

しま・ようこ
敗戦の年秋から弘前中央高校卒業までの八年間、弘前で受けた教育と暮らしを記憶に沿って検証し、その社会的・政治的意味を問いかける、草の根からのメッセージ。

半〇八時、三一日（木）午前九時〇〇分午後三時、川崎市で全国交流会を開催する。会場はサンビアンかわさき（川崎市立労働会館）。

第一日は、鹿児島大学教授、平井一臣氏の講演「岐路に立つ地方自治——構造改革」のなかの地方自治のゆくえ」ののち、参加議員の自己紹介と懇談パーティ。

第二日は、大蔵律子・平塚市長の特別報告ののち、三つの分科会に分かれて活動報告と討論、参加費はパーティ代込みで一万円。詳細は下記にお問合わせを。

〒二二〇〇〇一一川崎市幸区幸町四一八 青柳ビル二階

自主・平和・民主のための広範な国民連合

TEL 〇四四一五一一〇四二七

FAX 〇四四一五四一一二〇六六

しま・ようこ

詩集 北の方位

二〇〇〇円

谷 敬

詩とエッセイ

光、そして崖

二二〇〇円

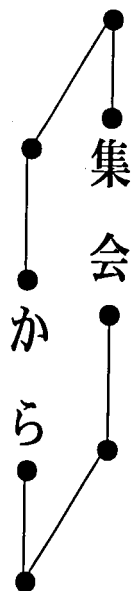
津軽書房

〈価格税別〉

弘前市亀甲町75

TEL 0172-33-1412

FAX 0172-35-7951



核廃絶のためにできることはある

劣化ウラン弾被害と「ブッシュの戦争」を考える集会が六月中旬、岐阜市で開かれた。〈暴力はいらない人びとのあつまり〉など十三市民団体が主催。アルジャジーラTV制作のビデオ『劣化ウラン弾の嵐』を上映後、先にジュネーブで開催された核拡散防止条約再検討準備委・NGO会議に出席した大庭里美さん（ブルトニウム・アクシオン・ヒロシマ）が講演。大庭さんは「核体制の見直しを言明したブッシュの昨年一月の年頭演説で核抑止の時代は終わった。イラクでも大量に使われた劣化ウラン弾や米のミサイル防衛構想によってすでに私たちは現実の核戦争に入ってしまった。ジュネーブで見たものは、世界のNGOはへこたれてはいない、ということ。市民でも核廃絶のために

できることあはる。希望をなくさないで」と訴え、共感を呼んだ。
(岩田すみ子)

原発やめよう全国集会

「子どもたちに核も原発もない未来を」の願いを込めて、六月七日（土）東京・代々木公園で開催。

会場となったイベント広場は、自然エネルギーの展示、体験学習、本の販売などがあり、熱心な参加者（主催者発表五〇〇〇人）であふれた。

全体集会では、いま人気の講師・神田香織さんが、新潟、福島、静岡、青森、大阪、岐阜の各地からの参加者を順次紹介。参加者は「原発を今すぐ止めたい」強い気持ちをアピールした。

いろいろな発言の中でも元GEの技術者、菊地洋一さんの、「昨年、東電の事故隠しが大きな問題となっていていろいろ検査した結果、数え切れないほどの亀裂がシユラウドや再循環系配管に見えられております。GEの人間がなぜ密告せざるをえなかったか。スリーマイル島の事故の直前にGEのベテラン技術者三人が、『このままでは必ず巨大事故が

起きる』と言って、GEを去ったのです。私はその時、福島原発を造っておりまして。いつか必ず巨大事故が起きる、地球規模の大震災が起きるとすれば、それは浜岡に違いありません。東海大地震の震源域の真上に浜岡原発があり、老朽化しています。(中略)神戸の地震の十倍規模の地震が明日起きたら、どういうことになるか。東京はもちろん、関東一円は人が住めなくなります。そんなことが本当にあつてはいけない。私は九州から出てきて、日本中を飛びまわっておりまして。いったん、ことが起きてしまったら、日本は風上であろうと、風下であろうと、人が住めない国になつてしまいます」という、原発を熟知している専門家ならではのお話がとくに心に浸みた。

みんなの力で止めようよ、原発を。

地震が来る前に、今なら間に合うよ。

地震が来る前に、今なら間に合うよ。

コーラスにあわせて歌いながら、原発を止めることはもう「待ったなし」であることを痛感する。パレードでは、風力発電に見たてた風車かざぐるまを手にした人なども見られ、たくさんエネルギーをもらつて帰路についた。

(縮)

教育基本法 改悪反対集会に五千人

憲法九条を瓦解させる動きとして着々と進められている教育基本法改悪の動きは、緊急の意思表示が必要と、六月十四日、東京・芝公園で、「教育基本法改悪反対中央集会」が、日教組・フォーラム平和・部落解放同盟など八団体の呼びかけで開かれ、五千人が会場にあふれた。榊原良一・日教組委員長は、「小泉政権の『構造改革』で、教育の分野でも国家主義や競争主義、民営化が進められている。日の丸・君が代に始まり、総仕上げとして教育基本法を改悪、根幹である第十条を変質させ、『愛国心』や『忠誠心』で『戦争ができる国』への帰風意識を定着させようとしている」と、強く呼びかけた。参加諸団体のエールののち、集会アピール「変えることよりも生かすこと、改悪を許さない運動を広げよう」を採択、デモ行進で一般市民に訴えた。

「民族差別を許すな」と、朝鮮中高生

自衛隊を軍隊にしたい政府は、マスメディアの力を借り

て、『北朝鮮の脅威』を連日あおっている。あおりを受けて、民族服の学生に対するいやがらせも激化した。

六月十八日に、「すべての外国人学校に平等な権利を求める東京緊急集会」が開かれた。梅雨のなか、朝鮮中高生や父母など二、四〇〇人が参加、「チマ・チョゴリを着て歩かず、万景峰号は入港できない。祖国への修学旅行も中止になった。大学入試資格も認められない。私たちをどこまでいじめるのか」という東京朝鮮高校三年の女子生徒の日本政府に対する強い抗議は大きな拍手に包まれた。それを受けて繰り出したデモには〈在日コリアンの子どもたちに対する嫌がらせを許さない若年弁護士会〉など、人権団体も加わって、雨をものともせず、道行く人びとに「すべての外国人学校に平等な権利を」と訴え続けた。

商工中金横田裁判和解報告集会

一九九四年六月に政府系金融機関の商工中金に働く横田幸子さんが、大阪地裁に、総合職女性としては初めて男女昇格・賃金差別是正を求めて提訴した裁判は、約九年の歳月を費やし今年三月に和解終結。これを祝う報告集会が六

月七日大阪弥生会館で約四十名が参加し開催された。

集会は宮地弁護士から裁判和解終結の報告の後、弁護団・支援者からの発言などが続いたが、横田さんは被告金庫側の原告横田さんに対する執拗なあらさがしと、裁判長期化により、体調を崩して参加できず、次のメッセージを。「皆様の長年にわたるご支援に心から感謝の気持ちでいっぱいです。おかげ様で、男女差別の闘いの歴史に貴重な足跡を残すことができました。本当にありがとうございます。た」

横田さんの参加がないのが心残りであったが、和解解決をみんなで祝った。

(沢)

国会監視カメラの即時運用停止と即時撤去を求める市民の集い

今年の四月頃から「国会議事堂の周りに監視カメラがとりつけられている」という噂を耳にしていたが、有事法案反対などでたびたび国会周辺へ行くことがあっても、どんな形をしているのか知らなかったもので、気にとめることはなかった。それがとんでもなくうつなことであったの

は、七月十一日に参議院議員会館で開かれた「国会監視カメラの即時運用停止と即時撤去を求める市民の集い」に参加したからである（主催「日本消費者連盟」〈許すな！憲法改悪・市民連絡会〉）。

集会冒頭の小谷洋之さん（フリージャーナリスト）の報告によると、議事堂の外周だけで監視カメラが二十三基も設置されており、そのほとんどが国会敷地内から突き出たアームにとりつけられた「釣り鐘型」。光学ズームで二十二倍、三百六十度回転する高性能デジタルカメラで、「怪しい」とみなされた人物について回つて撮影できるというシロモノ。「撮影中」と断わり書きがあるわけでもなく、映像がどこで見られ、どこでどう使われて保存されているのかもはっきりしない。カメラは議事堂周辺だけでなく、議事堂内部、議員会館にも設置されている。「盗撮に限りなく近いものであり、憲法で保障された国民の肖像権を犯すもの」と小谷さんは強調した。

「監視カメラ大国」と言われるイギリスの事情に詳しい山口響さん（一橋大学大学院生）は、国会監視カメラの問題点として「国会周辺へ来る人への萎縮効果」「国会に請願に来る人をブラックリスト化する恐れがある」と指摘した。

衆参両議員面会所の入口にもカメラは設置されており、請願に来る人はすべて撮影されるのだから、この恐れは充分にありうる。イギリスでは「データ保護法」「内務省作成の取扱規定」という監視カメラ規制法があるにはあるが、実際はほとんど守られていない由。

この国会監視カメラの設置は、衆議院の警察小委員会でも「テロ対策」として、参議院の議院運営委員会でも承認されたものという。国民に選ばれたはずの議員が、国会に正当な権利としての「意見表明」をしに来ている国民を、頭から怪しいと決めつけ、監視し、プライバシーを踏みにじる。しかもカメラは私たちの税金でつくられているのだ。試しに国会周辺を歩いてみたら、一見街灯のように見える監視カメラが、あるわあるわ……。誰かに見られているような気がして、思わずゾツとした。

「日本消費者連盟」など八団体が呼びかけている「国会監視カメラの即時運用停止と即時撤去を求める共同声明」が、賛同団体を募集中。

（あ）
〈連絡先〉

日本消費者連盟

〇三五一三三三四七六五

許すな！憲法改悪・市民連絡会

〇三一二二二一四六六八

留守 TEL/FAX 〇五二一八四二一二七三九

海社長）「次世代の日本を築くためには、

男子のみのエリート校はおかしい

E-mail DZH03114@nifty.ne.jp

多様な能力や豊かな教養、日本人とし

「トヨタ、中電、JR東海への抗議文に

についての抗議声明

った人が必要で、そうした人材を育て

連名しませんか？

二〇〇三年一月八日、東海旅客鐵道

たい」(太田宏次・中部電力会長)「独

二〇〇三年一月八日、トヨタ自動車
・中電・J R 東海は、愛知県内に中高
一貫校を設立する計画を発表しました。

株式会社（以下 JR 東海）葛西敬之社長、中部電力株式会社太田宏次会長、トヨタ自動車株式会社豊田章一郎名誉

創性を持った人物を育成したい」(豊田章一郎・トヨタ自動車名誉会長)(教育Web「教育事情」より)といった考

私たちは、その学校が「男子校」であることに疑問を抱き、連名で公開質問状を出しましたが、以下の抗議文にありますように合理的な回答はありませんでした。

会長の三名が、この三社で、愛知県に全寮制の中高一貫男子校を設立する方針を明らかにしました。四月二十五日には、二〇〇六年四月開設、一学年の定員を一二〇人することを発表。五月

えのもと、学校を設立するものです。
しかし、なぜ、「男子校」なのでしょう
うか？ 男性のみが、「獨創性を持つ
た」「次世代の日本を築く」「すべての
基礎を備えた」人物として、期待に沿

私たちは女性差別的な学校設立に対して三社に抗議し、また広く社会にも訴えたいと考えています。

一五日に、J R東海本社内（名古屋市中村区）に、「新しい学校設立準備委員会」が発足しました。

うことができるということなのでしょう
うか？「将来は女子を受け入れること
も検討する」とのことですが、なぜ、

ご賛同をお待ちしています。

「連絡先」
ワーキングウーマン

女性は「後」で「検討する」のでしょ
うか？

—男女差別をなくす愛知連絡会—

人物を育成したい」(葛西敬之・J R東

この疑問に対する明快かつ納得のい

く回答をいただきたいと、公開質問状を三社に送りましたが、返事はありませんでした。

催促したところ、三社の返事は以下のとおりでした。

J R 東海……「返事をするつもりはない」

中部電力とトヨタ自動車……準備委員会に回答を託す

新しい学校設立準備委員会……「女子を否定するわけではないが、当面は男子のみしか答えられない」

※

女性差別撤廃条約には「いかなる分野においても（性に基づく区別・排除または制限）をされるべきでないことが謳われています。入学対象者を男性のみに限定することは、この精神に反しています。上記三社が考える「教養のある、世界で活躍できる人材」は、

当然、この女性差別撤廃条約に謳われている人権意識も兼ね備えるべきだと、私たちは考えます。したがって、設立される学校を「男子校」とすることは、こうした人権意識をもつ人材を育てることと、矛盾しています。

また、男性のみを入学対象にするということは、日本を代表する三社が、「将来を担う人材は男性のみ」と考えている現れではないでしょうか？

日本国内でも九九年に男女共同参画社会基本法が制定されています。その第一〇条に「国民は、職域、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野において、基本理念にのっとり、男女共同参画社会の形成に寄与するように努めなければならない」と男女共同参画に対する国民の責務が明記されている時代に、将来を担う人材育成に女子を対象外とすることには（それが「当

面」であつても）、いかなる理由も考えられません。三社および準備委員会が私たちの質問に対して合理的理由を述べられなかったことが、それを示しているといえるでしょう。つまり女性に対する差別であるといわざるを得ません。

J R 東海葛西敬之社長は「既存の学校のひとつの手本を目指す」とも述べています。手本となる学校ならば、なおさら女子を排除すべきではないと考えます。私たちは、J R 東海・中電・トヨタの中高一貫男子校の設立に抗議し、女子を排除しないよう要望します。

I 女性会議に名称を変えました

いま日本列島には反戦の声がこだましています。

私も日本婦人会議は、今春四月より名称をI女性会議と改めることにい

たしました。発行しておりますしんぶんはすでに「I女のしんぶん」と改称いたしております。Iには「私」「女の目」そして女性たちの「友愛」の意味をこめています。

私たちは、差別や戦争のない世界、女性やマイノリティが生きやすい社会を創っていくためにいつそう力を尽くし、この道を次世代にひきついでいきたいと希っております。

今後とも相変わりませずお力添えをたまわりますよう、心からお願い申し上げます。

(I女性会議 議長 津和慶子)

「ニューメイト」

増田れい子さんにご紹介いただき入会いたしました。二八四号拝読。落着いた、しかし的確なというか、真へ

の探索というか、押しつけがましきのない論調へ好感を持ちました。新鮮さを感じました。

日本人の手でアメリカ大統領を変えよう！なんていうのも、すごい発想ですが、思えば不可能ではないかもしれなことです。

そしてバックナンバー二五三号と二八〇号。長谷川テルという女性のこと。感動しています。

一人の人間の力。そのバカにできない大きさを、ひとり一人が自分の中心に見いだせる手がかりになる人がいた。長谷川テルさんもその一人だと実感させられる編集でした。

私自身全く知らない世界を『あら』から知らされるという楽しみがこれからも発展しそうです。

(加賀市 海部公子)

「カンパありがとう」

夏のカンパにたくさんのお心づかい、本当にありがとうございました。大助かりです。お礼状の発送が遅れておりますことを、おわびします。

【編集後記】

◆原発を止めることは「焦眉の急」、「まったなし」です。その思いを、この一冊に込めました。(W)

◆原発ってこんなことだったのか。ため息をつきながら編集しました。こんなひどいもの。すべて利権がからんでいたのです。(K)

◆原発の耐用年数が過ぎた時の始末は、どうなるのか。——市民は、導入開始以前から追及していたことを、三十年ぶりに思い出しました。

「国民は無知」と利権のために勝手

放題を続けてきた人びとに何かのかたちで市民の底力を示さなくては。

◆与党絶対多数の国会構成は、サダム・フセイン治下の政治そっくりですね。

絶望を希望に変えたいと、二八五号・二八六号に力を注ぎました。「カンケイナイ」と思っている方がたに、少しでも振りむいていただけるでしょうか。(千)

◆この号を一人でも二人でも、周囲の方に手渡してください。そして読書会など開いてください。(〇)
◆原発を廃止するには、今の政府を変えるしかない。——これが、編集を終えた結論です。(N)

【この号の編集協力者】

芦沢礼子・天野尚美・大浅田敦子・荻原有希・黒沢照代・桑原ちえ子・斎藤千代・斎藤曜子・佐々木春代・沢田和子・中島克子・中島精一・綿津靖子・綿津陽子

チョムスキー9.11を見て

いま私たちにできることを考える

2222人イベント in 中野プラザ 9月11日(木) 18:30開演

前売り 一般2000円 学生・シニア1500円 小・中学生1000円

問合せ先：シグロ TEL03-5343-3101 FAX03-5343-3102

ふえみん

f e m i n

ジェンダーの視点で社会を眺めとく新聞です。

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前
3-31-18

03-3402-3244

03-3402-3238

FAX 03-3401-3453

E-Mail femin@jca.apc.org

URL <http://www.jca.apc.org/femin/>

リニューアルした
「ふえみん」を
プレゼントします

大阪支局

〒530-0041

大阪市北区天神町
3-10-8-404

& FAX 06-6356-0778

★タブロイド判8ページ/毎月5・15・25日発行
購読料：年間9,000円・半年4,500円(送料込み)

自分で
考える人と
一緒に
考えたい。



目次で振り返る『あいら』三〇年

(一九九〇年二月～一九九〇年九月)

一四九号 一九九〇年二月 ￥680

〔新宿〕いま天皇問題を考えるー

天皇の法的地位

弁護士 井田恵子さんを囲んでの学習会の記録

一 立憲君主と絶対君主

二 政教分離の問題

三 大喪の礼の問題点

四 恩赦の問題

五 元号の問題

六 皇室財産

七 天皇の人権

質疑応答

資料 日本国憲法・大日本帝国憲法・皇室典範・皇統譜令
・国事行為の臨時代行に関する法律・皇室経済法・国民の

祝日に関する法律・元号法・恩赦法

あこら新入生のこの一年

〈あこら松山〉奥川睦さん

〇さん支援のお願い

〈〇さんを支える会〉村田恵子

テープ起こしセミナー開かれる

〈東海BOC〉

ばななから「スカートの下」まで

荻谷美鈴

新聞記事から 日弁連に初の女性事務総長 井田恵子さん

シリーズ〈わたしの仕事〉「契約社員」として働く

インテリアコーディネーター

福田道子

集会から

「東欧の民主化と女たち」に参加して

芦澤礼子

「東欧の女たちの集会」に参加して

中谷みゆき

性支配を解体して世直しを

「1・12 女が政治の主役になる日」

(K)

〈女の講座・女のつどい〉

〈あこらのあこら〉

一五〇号 一九九〇年三月 ￥300

〔新宿〕「もうひとつの山が動いた

「日弁連に女性事務総長を」の個人的考察

佐藤育一

くらしのなかから「女らしい」というコトバ
離婚

黒岩佐和子
元葉三津

不思議な女になりたい

伊藤登美子

集会から

土井さんが歌ってしまった

「国際女性デー・女のコンサート」

高原あんず

全力疾走の快感「サラフィナー」

荻澤礼子

あこら読書室

「リソート開発への警鐘」 ゴルフ場問題全国連絡会編

あそぼおぜ女たち!! 中野公会堂 一九九〇年五月二十七日

女の講座・女のつどい

一五二号 一九九〇年四月 ￥795

〈新宿〉女の視点で衆院選を考える

AGORAZEIN 動いた山・動かなかった山

宇都宮真由美・駒野陽子・齋藤千代・佐藤陽子・堂本暁子

外口玉子・船橋邦子・松本侑壬子・横山順子・ほか

インタビュー 佐藤敬子さん(同時通訳の第一人者)

「国際化」は「人間化」ということ。世界に通じるビジョンを。

わたしの選挙戦 仙台から・札幌から

衆参両院女性議員数の推移

世界一三〇か国女性国会議員比率ランキング

国会ふしぎ不思議・新議員は見た

宇都宮真由子・大野由利子・岡崎トミ子・岡崎宏美

菅野悦子・鈴木喜久子・外口玉子・長谷川百合子・吉田和子

選挙資金作り あの手この手

大野由利子・岡崎トミ子・岡崎宏美・菅野悦子

鈴木喜久子・吉田和子

あこら読書室

保坂展人『あたたかい人間のことで伝えたい』／児玉勝

子『一六年の春秋』／三井マリ子『見わたせば、あらッ男

ばかり』

一五二号 一九九〇年五月 ￥680

〈九州〉セクシユアル・ハラスメント

ここまで進んでいるアメリカの対策

〈巻頭言〉裁判の行方

甲木京子

一五三号 一九九〇年六月 ￥780

セクシュアル・ハラスメント 米国での現状報告を受けて
日本を考える

第一部 アメリカの現状報告 パトリシア・キナガほか

第二部 日米・トークセッション

福岡裁判報告

三好久美子

セクシュアル・ハラスメント一万人アンケート中間報告

許したくない！繁栄の性暴力

松崎百合子

男も悲しければ泣けばいいという市政感覚

「名古屋の歌」のおかしさを追及する奥村和子さん

インタビュー ケニアの女性たち

松瀬徹香

観る 百年前の無国境・無権力思想

「エマ自由よ、アメリカに 咲いた花」

斎藤千代

集会からあ・そ・ば・お・ぜ・女たち

「女らしさから自分らしさへ」

河元千尋

あこら読書室

河地和子編著『わたしたちのアリス・ウォーカー』

樋口恵子編『花婿学校 いい男になるための10章』

〈東海〉特集・あなたもライターになれる！

わたしと書くこと

ライター実験工房って、なに？

「誰でも書ける文章」は書くまい

ライター実験工房に参加して

生まれて初めてのインタビュー

「実験工房」で視点が変わった

一人ではできなかった

「難しさ」を学ぶ

自分を掘り下げるきっかけに

静かな自立の第一歩

「表現できる人」の輝きにひかれる

励ましてくれた子どもたち

「実験工房」のお蔭で新聞社に就職

実験工房・番外編——書くということ

インタビュー「気合い」で異文化・異民族を学ぶ

同時通訳の第一人者佐藤敬子さん

山下智恵子

奥村和子

高橋ますみ

稲垣菊子

尾崎より子

荒川みえ子

安藤静子

柴本由規子

杉野多美子

石野三紀子

西村昌子

稲垣菊子

斎藤千代

一五四号 一九九〇年八月 ￥440

《東京》巻頭言 いま『戦争』を問う

庶民と巨悪

五九歳のめざめ

母のこと姉のこと

一通の手紙と一つの電話

兄の戦死は

リーさんの思いで

消えた慰霊碑

『一四歳の戦争』に寄す

友と語る

わたしの『宝物』

『一四歳の戦争』を手にして

懸命に生きる構え

私たちの本ができた!!

思いつくまに

反戦マラソン演説会に参加して

『第六回宇都宮空襲展』に参加して

地図を見る目

空白の時

『一四歳の戦争』にかかわって

《あこら読書室》『一四歳の戦争』を読んで

《あこらのあこら》

齊藤千代
中村道子

一五五号 一九九〇年九月 ￥400

《東京》中東への自衛隊派遣を許さないために

巻頭言 中東貢献策ならぬ中東解決策を

齊藤千代

自衛隊の派兵は許さない アメリカも撤退を

女は戦争への道を許さない世田谷集会から

岩井朋子 味岡尚子 森美佐子 宝満正子 近藤悦子

富安磯子 小笠富美子 田代信子 李玉順 川守田美季

小林照子 各団体アピール

『中東貢献策』に対し、女たちで行動しませんか あこら

すべての婦人の力をあつめて「自衛隊の海外派兵」に反対

しましょう

憲法をふまえて、あくまで平和的対処を 婦人民主クラブ

申し入れ書 戦争への道を許さない女たちの連絡会

要請書 草の実会

要請 日本婦人会議

坂口 郁

奥村喜重

水野清香

栗原陽子

小野寺和子

茅野奈美江

高橋和子

小林照子

小笠富美子

富安磯子

林きみ子

小川幸子

堀内政子

栗原陽子

坂口 郁

根本キミ

水野清香

齊藤千代

〈あごろ〉は、人と人との出会うつひろば――

思い悩んだとき、もつと豊かに生きたいとき、流れを変えたいとき……、心おきなく話し合える仲間がいる。――そんなひろばが、北海道から沖縄まで、いつのまにか広がりました。

雑誌『あごろ』を軸に、よりよい自分と社会を目指す ゆるやかな連帯。どの部門にも「長」は置かず、自分を変え、社会を変える――「病床からでも参加できる運動」が、モットーです。

会費は月刊『あごろ』の誌代込みで月額七百円。一年前払いが原則ですが、ご相談に応じます。入会金は二千元。ハガキ・FAX・メール・電話を頂ければ、申し込みカードをお送りします。

〈BOC〉の登録も、どうぞ……

一九六〇年に生まれた〈BOCバンク・オブ・クリエイティビティ〉は、〈創造力の銀行〉。あなたの創造力や特技、希望の報酬を登録ください。各国語翻訳・通訳・企画・調査・取材・編集・校正等の専門職のほか、どんな〈創造力〉でも歓迎！ ただし、半年以上〈あごろ〉会員の方に限ります。

連絡先

〒160-0022 東京都新宿区一―九―四 中公ビル

電話 03・3354・3941 (代) FAX 03・3354・9014

Eメール XLV05467@nifty.com または boc@mb.infoweb.ne.jp

ホームページ <http://homepage2.nifty.com/agora1/>

あごろ 286号(7・8月合併号) 原発・その恐るべき実態 ●発行2003年7月20日

●編集 あごろ新宿

●発行所 BOC出版部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

●TEL 03-3354-3941(代) ●FAX 03-3354-9014 ●E-mail XLV05467@nifty.com

●定価 本体1,200円＋税 ●振替 00100-0-5264 BOCあごろ編集部



9784893061348



1920036012008

ISBN4-89306-134-8

C0036 ¥1200E

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-9-4

定価 本体1,200円+税



285号 緊急発信 広河隆一写真集

アメリカはイラクで何をしたか



企画・編集・翻訳…
何でもご相談ください

創業1960年 —
女性専門職集団
BOC

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

☎03-3354・3941 FAX3354・9014

E-mail XLV05467@nifty.com

各種プランニング
各種調査
取材・撮影・編集
校正・デザイン・レイアウト
各国語翻訳その他

男女共同参画の
BOCシニアも
スタートしました。
ベテランの知恵と経験を
お役立てください。

劣化ウラン弾・クラスター爆弾…
雨あられのように、
ふり注いだ爆弾。
多くの人びとを殺し、傷つけた爆弾は、
不発弾としても、全土にばら撒かれた。
アメリカがしたこと。
それはアメリカを支持した
日本がしたこと。
日本の国民が心から謝り、償おう。
自衛隊の派遣は、
イラクの人びとの傷口を、
さらにえぐるのに等しい。

¥1200

サイレントマイノリティのBOC出版部